

「放射線画像サーバー、放射線情報システム・レポートシステム」仕様書

令和 7 年度
東京逡信病院

目次

- 1 . . . 調達背景および目的
- 2 . . . 調達物品名および構成内訳
- 3 . . . 技術的要件の概要
- 4 . . . 納入場所
- 5 . . . 納入期限
- 6 . . . その他

1. 調達背景および目的

当院で稼動している医療用画像管理システムは 2017 年に導入され、8 年経過しており、システムの老朽化が進んでいる。メーカーサポートも延長している状態であり、故障やトラブルが発生した場合に対応が困難になることが予想される。導入当時は高度であった技術も処理能力やセキュリティの面での不安要素は否めない。

近年のシステムは画像解析の発展もあり、AI の導入や解析ツール等を活用することで、診断精度、処理速度の向上が見込まれ、情報セキュリティの強化も期待される。また、レポート既読管理を行い医療事故防止に繋げる。今回、医療用画像管理システムを導入することで更なる診断支援の向上、効率化、医療安全を図るものである。

2. 調達物品名および構成内訳

医療用画像管理システム	一式
（構成内容）	
DICOM 画像サーバ	一式
統合管理ツール	一式
Web 配信ツール	一式
放射線部門システム	一式
放射線治療部門システム	一式
検像システム	一式
画像ビューワシステム	一式
マンモビューワシステム	一式
放射線レポートシステム	一式
3D 画像解析システム	一式
テンポラリーDICOM サーバシステム	一式
線量管理システム	一式

以上、搬入、据付、遮蔽、配管、配線、調整等および付帯工事並びに搬出（既設装置の撤去）を含む。

3. 技術的要件の概要

本件調達物品に係る性能、機能及び技術等（以下「性能等」という）の要求要件（以下「技術的要件」という）は別紙に示すとおりである。

技術的要件には必須の要求要件と必須以外の要求要件とがある。

必須の要求要件は必要とする最低限の要求要件を示しており、入札機器の性能等がこれを満たしていないとの判定がなされた場合には不合格となり、落札決定の対象から除外する。

入札機器の性能等が技術的要件を満たしているか否かの判定は、本院機種選定委員会において、入札機器に係る技術仕様書、その他の入札説明書で求める提出資料の内容を審査して行う。

4. 納入場所

東京逋信病院	診療棟	地下1階	放射線科
	管理棟	地下1階	MRI室
	診療棟	2階	乳腺外科
	診療棟	3階	ICU
	管理棟	2階	放射線科部長室

5. 納入期限

2026年2月16日（月）

6. その他

入札機器は入札時点で製品化されていること。

入札機器のうち医療用具に関しては、入札時点で薬機法に定められている製造承認を得ている物品であること。

調達物品に備えるべき技術的要件

(包括的業務要件)

本システムは以下の業務を行う目的で導入するものである。従って最低限、以下の各項目の業務を行う上で支障ないと判断されること。

これらの項目の業務を行うための機器構成および実現方法について具体的な提案を行うこと。

- | | |
|----|------------------------|
| 1 | 医用画像管理システム |
| 2 | 統合診療支援システム |
| 3 | 放射線科読影ビューワ機能 |
| 4 | DICOM 画像検像システム |
| 5 | 放射線部門システム |
| 6 | 放射線レポートシステム |
| 7 | 放射線治療部門システム |
| 8 | 3D ワークステーション |
| 9 | 被ばく線量管理システム |
| 10 | Temporary DICOM Server |
| 11 | パブリッシャーシステム |
| 12 | 検診読影所見入力システム |

(性能・機能に関する要件)

- | | | | | |
|---|---|---|---|--|
| 1 | | | | 医用画像管理システム |
| 1 | - | 1 | | 医用画像管理システムの機能は下記の要件を満たすこと。 |
| | | | | 各放射線画像診断装置 (CR、DR、CT、MR、DSA、RI、放射線治療システム、PDI システム、3D ワークステーション、エコー等) から発生する標準規格 DICOM(ver. 3.0) の 7 年間分の画像データをオリジナルで管理運用できること |
| 1 | - | 1 | - | 1 電子保存の三原則における「真正性」に基づき、本院の運用管理規程に基づき診断に用いた確定画像が改ざんされることなく診断当時と同様に読み出せること。 |
| 1 | - | 1 | - | 2 また、個人情報保護とセキュリティの確保を目的とし、米国で法律化された HIPPA (Health Insurance Portability And Accountability) 法に対応した機能を有すること |
| | | | | 電子保存の三原則における「保存性」に基づき、運用必要相当分のオリジナル画像データを安定的に保存すること。非可逆圧縮によるデータ保存は認めない。また、システム更新時に既設データの利用、データ移行をスムーズに行えるよう標準規格 DICOM(ver. 3.0)にてデータが保存されること |
| 1 | - | 1 | - | 3 電子保存の三原則における「見読性」に基づき、標準規格 DICOM(ver. 3.0)に対応したさまざまな画像表示装置にて、画像保存装置内の画像表示ができること。また、モニタの劣化が読影・診断の妨げとならないために、標準規格 |
| 1 | - | 1 | - | 4 DICOM(ver. 3.0)Part14 に基づき定期的にこれらを測定・補正・管理し、ファイルムと同等の見え方を維持する機能を有すること |
| 1 | - | 1 | - | 5 当院導入の電子カルテ (オーダーリング) システムから RIS を経由して検査オーダー情報を取り込み、画像データ属性と合わせてデータベース化され、診療側の目的 |

ごとに簡易に検索可能な環境を提供できること

- | | | | | | |
|---|---|---|---|----|---|
| 1 | - | 1 | - | 6 | リレーショナルデータベースを基本としたシステムであること。 |
| 1 | - | 1 | - | 7 | 過去の画像の移行、今後発生する 7 年間の DICOM 画像を保存できる容量を実装すること。また、既存 PACS（富士フイルム社 SYNAPSE）内に保管されている画像データの移行費及びモダリティ接続費も含めること。
(サーバ容量が 140TB 以上実装可能な場合には加点として評価する) |
| 1 | - | 1 | - | 8 | システム導入後の操作教育・支援を実施すること。 |
| 1 | - | 1 | - | 9 | 医用画像管理システムの操作マニュアルを完備すること。 |
| 1 | - | 1 | - | 10 | 画像・レポート情報をマトリクス上で時系列に表示できる統合ビューアを整えること。 |
| 1 | - | 1 | - | 11 | サーバハードウェアの構成は、円滑に 7 年間動作できるスペックの機器を準備すること。 |
| 1 | - | 1 | - | 12 | サーバハードウェアに付属する UPS、KVM、バックアップ環境、サーバ内部の NW スイッチ等、設置、設定に関わるものは全て導入ベンダ準備すること。また各機器は全て当院のラック内に搭載すること。 |
| 1 | - | 1 | - | 13 | 管理されている全ての画像（オリジナル画像）が数秒以内に、院内全ての端末に対してオンデマンド表示できること |
| 1 | - | 1 | - | 14 | 院内全ての端末（HIS）に対して PACS と完全統一の操作方式であること |
| 1 | - | 1 | - | 15 | 医用画像管理システム管理者端末を有すること。また、医用画像管理システム内の画像修正実施が出来、修正に関しては権限者のみ実施可能であること。 |
| 1 | - | 1 | - | 16 | 各端末に設置されている高精細モニタに関しては、オンラインにてモニタ QC が実施可能なこと。
医用画像管理システム専用端末は以下仕様を満たすこと。
・OS Windows 10 IoT Enterprise LTSC 2021 Value 以上 |
| 1 | - | 1 | - | 17 | ・CPU Intel (R) Core(TM) i5-13500(14C/2.50GHz/24M) 以上
・主記憶容量 8GB 以上
・磁気ディスク容量 256GB SSD (M.2 NVMe PCIe Value) 以上
医用画像管理システム専用端末は以下構成であること。 |
| 1 | - | 1 | - | 18 | ・デスクトップ PC（カラーモニタ 21 インチカラー1 面） : 3 台
・ノート PC : 1 台 |
| 1 | - | 1 | - | 19 | 本院電子カルテシステムと連携すること
(RIS 端末に電子カルテを相乗りさせる事が可能であれば加点として評価する) |
| 1 | - | 1 | - | 20 | 1 日 24 時間、365 日安定稼働するシステム構成であること。また、万一障害が発生した場合であっても、リモートメンテナンス等により障害による影響を最小限に食い止めることができる機器構成であること |
| 1 | - | 1 | - | 21 | 国内 500 床以上の病院にて、確固たるノウハウを有したベンダーであること
(完全フィルムレス運用実績（院内全体対象）が 70 施設以上ある場合には加点として評価する) |
| 1 | - | 1 | - | 22 | PACS システムは、導入から 7 年後のシステム更新時には、ハードウェアのみの更新で継続稼働ができること。
導入時購入したソフト（サーバソフト、各ライセンス）は継承可能であること |

- 1 - 2 システム連携は以下の要件を満たすこと。
- 1 - 2 - 1 電子カルテ（オーダリング）システム、その他部門システム上から ID またはオーダ情報をもとに PACS、レポートを Web で呼び出せること。
- 1 - 2 - 2 放射線情報システムからオーダ情報を受信し、PACS 内のデータベースにオーダ情報を付与すること。
- 1 - 2 - 3 放射線レポートシステムは、オーダ情報を受信し、受付、または実施情報をもとにレポート記入枠の発生トリガとすること。
- 1 - 2 - 4 PACS、レポートの過去画像の移行について移行を行うこと。
- 1 - 2 - 5 リストで選択した検査画像を表示できること。
- 1 - 2 - 6 検査画像を開く際、モダリティなどの条件により、過去検査画像を同時に表示するかどうかを選択できること。
- 1 - 2 - 7 WEB ブラウザ（URL 指定）を利用して指定された検査画像を表示できること。
- 1 - 2 - 8 WEB ブラウザ（URL 指定）を利用して指定された検査画像を表示する際、ユーザ情報（ユーザ ID）を引き継いでビューアを起動できること。
- 1 - 2 - 9 放射線線量管理システムと DICOM SR 連携を実施し、線量管理システムと接続を実施すること。
- 1 - 2 - 10 既存 PACS と接続されている放射線機器と現状通り Storage 接続を行うこと。また、モダリティ側の接続費用も含めること。
- 1 - 3 リスト表示機能は以下の要件を満たすこと。
- 1 - 3 - 1 PACS サーバ内に保存されているデータを以下のフォルダに自動的に分類することが可能であること。
 - (1) 本日の検査 (2) 本日の検査：モダリティ別 (3) 最近 1 週間の検査 (4) 最近 1 週間の検査：モダリティ別 (5) 全検査 (6) 全患者
- 1 - 3 - 2 分類された患者や検査をリスト表示できること。
- 1 - 3 - 3 患者リストには「患者 ID」「患者氏名」「性別」「生年月日」を表示できること。検査リストには「患者 ID」「患者氏名」「オーダー番号」「モダリティ」「検査項目」「検査日時」「画像枚数」「検査ステータス（予約、到着、レポートあり）」を表示できること。
- 1 - 3 - 4 リストに表示された検査を各項目でフィルタリング（検索）できること。
- 1 - 3 - 5 リストに表示された検査を各項目でソート（並べ替え）できること。またソートは第 3 ソートまで可能なこと。
- 1 - 3 - 6 WEB ブラウザ（URL 指定）を利用して検査リストを表示できること。
- 1 - 3 - 7 設定したフォルダに新しい検査が追加されたときに通知できること。
- 1 - 3 - 8 リスト上に検査のサムネイル画像を表示できること。
- 1 - 3 - 10 ユーザが直近で表示した検査画像の履歴リストから画像を表示できること。
- 1 - 4 検査画像表示、電子カルテ連携機能は以下の要件を満たすこと。
- 1 - 4 - 1 リストで選択した検査画像を表示できること。
- 1 - 4 - 2 検査画像を開く際、モダリティなどの条件により、過去検査画像を同時に表示するかどうかを選択できること。
- 1 - 5 患者および検査に関する機能は以下の要件を満たすこと。
- 1 - 5 - 1 患者に対するテキストメモを保存/表示できること。またメモを作成する際はユーザごとの定型文を利用できること。

- 1 - 5 - 2 患者に対するドキュメントを保存/表示できること。
- 1 - 5 - 3 患者に対するスキャンドキュメントを取込/表示できること。
- 1 - 5 - 4 過去検査リストから検査情報を表示できること。
- 1 - 5 - 5 過去検査リストからオーダ情報を表示できること。
- 1 - 5 - 6 過去検査リストから検査レポートを表示できること。
- 1 - 6 読影プロトコル機能は以下の要件を満たすこと。
 - 1 - 6 - 1 ユーザおよびモダリティごとにあらかじめ設定された表示フォーマット（以下、読影プロトコル）に従いシリーズ画像をスタック/タイル表示できること。
 - 1 - 6 - 2 読影プロトコルではシリーズ表示順、シリーズ表示レイアウト、イメージ表示レイアウト、過去検査（最大6検査）、過去シリーズ画像を指定できること。
 - 1 - 6 - 3 読影プロトコルは複数登録でき、検査画像表示後にユーザが切り替えできること。
 - 1 - 6 - 4 読影プロトコル適用後に表示される画面（以下、プロトコルステップ）が複数にわたる場合、前後および任意のプロトコルステップに切り替えできること。
 - 1 - 6 - 5 読影プロトコルをユーザがモダリティごとに設定できること。
- 1 - 7 過去検査リスト、画像サムネイル機能は以下の要件を満たすこと。
 - 1 - 7 - 1 検査画像表示時に患者情報パネル（患者番号、患者名、性別、検査時年齢、検査日、検査項目群、オーダ番号）を表示できること。
 - 1 - 7 - 2 検査画像表示時に同一患者の過去検査リストを表示できること。
 - 1 - 7 - 3 過去検査リスト項目には「検査日」「モダリティ」「検査項目群」「レポート、メモのあり/なし」を表示できること。
 - 1 - 7 - 4 過去検査リストを各項目でソートできること。
 - 1 - 7 - 5 過去検査リストをモダリティで絞り込みできること。その際、複数のモダリティを指定できること。
 - 1 - 7 - 6 過去検査リストで選択されている検査を現在表示されている検査に追加して比較表示（最大6検査）できること。
 - 1 - 7 - 7 過去検査を現在表示されている検査に追加して比較表示する際、現在検査に施した処理（W/L 値、拡張、パンなど）が初期化されないこと。
 - 1 - 7 - 8 検査画像表示時にシリーズ画像のサムネイルバーを表示できること。
 - 1 - 7 - 9 サムネイルバーには過去検査リストで選択されているすべての検査のサムネイルが表示できること。
 - 1 - 7 - 10 サムネイルバーにてシリーズ番号、シリーズ情報、画像枚数を表示できること。
 - 1 - 7 - 11 サムネイルバーにて表示中/表示済/未表示/フォーカスありのシリーズ画像を識別できること。
 - 1 - 7 - 12 過去検査リストおよびサムネイルバーを非表示にできること。
 - 1 - 7 - 13 過去検査リストおよびサムネイルバーを表示するかどうかをユーザおよびモダリティごとに設定できること。
- 1 - 8 シリーズレイアウト操作機能は以下の要件を満たすこと。
 - 1 - 8 - 1 シリーズ画像の操作によりシリーズをコピー/移動/入れ替え/削除して表示できること。
 - 1 - 8 - 2 マス目を塗りつぶす形式にてシリーズの表示レイアウトを変更できること。
 - 1 - 8 - 3 検査に含まれるすべての画像を1シリーズ（全画像シリーズ）として表示できること。

- 1 - 8 - 4 シリーズ画像内で「前シリーズ」「次シリーズ」「シリーズ一覧」を指定してシリーズを切り替えできること。
- 1 - 8 - 5 シリーズ内に複数のサブシリーズが含まれる場合、画像向き・間隔および任意のタグ値を利用して、シリーズを分割して表示できること。
- 1 - 9 シリーズ画像に対して、以下の画像操作ができること。
 - 1 - 9 - 1 階調変更、拡大・縮小、移動、ページング、部分拡大（虫めがね）
左右反転、上下反転、左右 90 度回転、180 度回転、画像フィット表示、ピクセル等倍表示
 - 1 - 9 - 2 CT や MR のシリーズ画像に対して任意角度の左右回転ができること。
シリーズ画像に対して、以下の画像処理操作ができること。
 - 1 - 9 - 3 階調プリセット処理、白黒反転処理、シャープネス/肺強調処理、ぼかし処理、FCR 画像パラメータ処理
 - 1 - 9 - 4 W/L 値の数値入力によりシリーズ画像の階調を変更できること。
 - 1 - 9 - 5 階調プリセットはユーザおよびモダリティごとに最大 9 個までユーザが設定できること。（10 個以上設定可能な場合には加点として評価する）
 - 1 - 9 - 6 マウス操作による階調変更時の W/L 値増減方向および変化速度をユーザごとに設定できること。
 - 1 - 9 - 7 モノクロ 8bit 画像に対して階調を変更できること。
 - 1 - 9 - 8 RGB 画像に対して明るさ/コントラストを変更できること。
 - 1 - 9 - 9 拡大・縮小率の数値入力によりシリーズ画像を拡大・縮小表示できること。
 - 1 - 9 - 10 拡大・縮小率プリセットを利用してシリーズ画像を拡大・縮小表示できること。
 - 1 - 9 - 11 マウス操作によるシリーズ画像の拡大・縮小の中心を、ビューの中心もしくはマウスポイントの中心のいずれかをユーザごとに設定できること。
 - 1 - 9 - 12 マウスホイールを利用してシリーズ画像を拡大・縮小表示できること。
 - 1 - 9 - 13 シリーズ画像をページングするためのスライダーバー機能を利用できること。
 - 1 - 9 - 14 シリーズの最初および最後の画像へワンアクションで移動できること。
 - 1 - 9 - 15 シリーズ画像をシネ表示（昇順/逆順表示、開始、停止、速度調整）できること。
 - 1 - 9 - 16 シリーズ画像をシネ表示する際、シネ操作パネル（ボタンアイコンなど）を使用せずにマウス操作のみで昇順/逆順表示、開始、停止、速度調整ができること。
 - 1 - 9 - 17 DICOM フレームレートを考慮して動画像をシネ表示できること。
 - 1 - 9 - 18 シリーズ画像を任意の DICOM タグを利用してソートできること。
 - 1 - 9 - 19 マウスホイールを利用してイメージ表示レイアウト（タイル表示のレイアウト）を変更できること。
シリーズ画像をダブルクリックすることで 1 モニタに対してシリーズ表示レイアウトを 1×1 表示でき、再度ダブルクリックすることにより 1×1 表示を解除できること。
 - 1 - 9 - 21 画像上でマウスポイントを移動することで、FOR が同一で別シリーズの画像上の同一位置に自動的にポインタが表示され 3 次元動作できること。
 - 1 - 9 - 22 画像にブックマークを設定しブックマーク画像のみを表示できること。
 - 1 - 9 - 23 画像の DICOM ヘッダ情報を一覧で表示できること。
- 1 - 10 アノテーション、計測、オーバレイ機能は以下の要件を満たすこと。

画像上で以下のアノテーションを付加・計測できること。

- | | | | | | |
|---|---|----|---|----|---|
| 1 | - | 10 | - | 1 | 画素値、距離、角度、テキスト、矢印、矢印+テキスト、フリーハンド、線分比、楕円 ROI、正円 ROI、矩形 ROI、多角形 ROI、フリーハンド ROI |
| 1 | - | 10 | - | 2 | 領域の自動認識により距離計測を自動補正できること。 |
| 1 | - | 10 | - | 3 | 領域の自動認識によりアノテーション（多角形 ROI）をビューワ画面内で（別画面を起動せずに）付加・計測および修正できること。 |
| 1 | - | 10 | - | 4 | 交わらない 2 直線の角度を計測できること。 |
| 1 | - | 10 | - | 5 | 4 点および 6 点計測法を用いて、2 つの線分の長さおよび比率を計測（心胸隔比計測）できること。 |
| 1 | - | 10 | - | 6 | 臓器認識を利用して自動で心胸隔比を計測できること。 |
| 1 | - | 10 | - | 7 | 計測途中においても計測値が表示されること。 |
| 1 | - | 10 | - | 8 | 画像の Pixel Spacing を補正して計測できること。 |
| 1 | - | 10 | - | 9 | Pixel Spacing を含まない画像に対して値を設定して計測できること。 |
| 1 | - | 10 | - | 10 | PET 画像の SUV Max 値、SUV Peak 値を計測できること。 |
| 1 | - | 10 | - | 11 | アノテーションの計測結果を文字列としてクリップボードにコピーできること。 |
| 1 | - | 10 | - | 12 | ROI アノテーションにおいて「面積」「平均」「標準偏差」「最大値」「最小値」「長径」「外周」「中央値」「長さ」を表示できること。 |
| 1 | - | 10 | - | 13 | ROI アノテーションで表示する項目および値の小数点以下の桁数をユーザごとに設定できること。 |
| 1 | - | 10 | - | 14 | シリーズ画像に対して、番号ラベルのアノテーションを付加できること。 |
| 1 | - | 10 | - | 15 | アノテーションを表示/非表示できること。 |
| 1 | - | 10 | - | 16 | アノテーションの色およびフォントサイズをユーザごとに設定できること。 |
| 1 | - | 10 | - | 17 | 保存されたアノテーションの位置をスライダーバー上にマーカー表示し、マーカーをクリックすることでその画像に飛べること。 |
| 1 | - | 10 | - | 18 | 保存されたアノテーション、拡大、W/L 変更を全端末で復元できること。 |
| 1 | - | 10 | - | 19 | DICOM ヘッダ情報を画像上にオーバーレイ情報として表示/非表示できること。 |
| 1 | - | 10 | - | 20 | オーバーレイ情報として表示する項目をユーザ、モダリティおよび SOP クラスごとに任意にユーザが指定できること。 |
| 1 | - | 10 | - | 21 | オーバーレイ情報を匿名化して表示できること。 |
| 1 | - | 10 | - | 22 | 画像の表示枠に応じてオーバーレイ情報のフォントサイズが変化すること。 |
| 1 | - | 10 | - | 23 | オーバーレイ情報の色およびフォントサイズを設定できること。 |
| 1 | - | 10 | - | 24 | DICOM6000 番台のオーバーレイ情報を表示できること。 |
| 1 | - | 10 | - | 25 | 表示中の画像のリファレンス線を表示/非表示できること。 |
| 1 | - | 10 | - | 26 | リファレンス線に画像番号が表示されること。 |
| 1 | - | 10 | - | 27 | リファレンス線を表示する際に「最初と最後とアクティブ」「アクティブのみ」を選択できること。 |
| 1 | - | 10 | - | 28 | 任意の 2 つのシリーズ画像をフュージョン表示できること。 |
| 1 | - | 10 | - | 29 | フュージョン表示時に上画像のみを移動およびページングできること。 |
| 1 | - | 10 | - | 30 | 特殊計測（2 等分線、垂線、n 等分線、CE 角、Sharp 角、コブ角、FTA（左）、FTA（右）、外反母趾角、バーマン角、適合角、AHI、AHI（角度）、平行 2 線分間距離、Bohler 角、椎体高さ、横倉法）機能を利用できること。 |

以下のアノテーションを他の画像上にコピーできること。

- 1 - 10 - 31 距離、テキスト、矢印、角度、円、マスク、フリーハンド、正円 ROI、楕円 ROI、2 点指定 ROI、多角形 ROI、フリーハンド ROI、矩形 ROI
- 1 - 11 画質、画像の見え方に関する機能は以下の要件を満たすこと。
- 1 - 11 - 1 画像にモダリティ LUT を適用できること。
- 1 - 11 - 2 画像に VOILUT (Sigmoid 含む) を適用できること。
- 1 - 11 - 3 画像を拡大・縮小表示する際の画素補間方法を指定できること。
- 1 - 11 - 4 画像上に矩形を指定してシャッター表示できること。
- 1 - 11 - 5 DICOM シャッター情報を表示できること。
- 1 - 11 - 6 画像の PixelPaddingValue を標記できること。
- 1 - 12 画像操作モードに関する機能は以下の要件を満たすこと。
- 1 - 12 - 1 マウスの右、左、中、左右 (両押し) ボタンのそれぞれに画像操作機能を割り当てることができること。
- 1 - 12 - 2 画像操作モードの切り替えおよび画像操作をボタンメニュー (ツールボックス) にて実施できること。
- 1 - 13 画像出力機能は以下の要件を満たすこと。
- 1 - 13 - 1 シネ表示された画像を AVI ファイルに出力できること。
- 1 - 13 - 2 表示中の検査を DICOM 画像として CD/DVD/ローカルディスクなどに出力できること。また出力時に患者情報を匿名化できること。
- 1 - 13 - 3 表示中の画像を DICOM プリントできること。
- 1 - 13 - 4 フュージョン画像、再構成画像を別シリーズとして PACS 上に保存できること。
- 1 - 14 シリーズ連携機能は以下の要件を満たすこと。
- 以下のシリーズ画像操作に対してシリーズ間の連携ができること。
- 1 - 14 - 1 ページング、拡大・移動、階調・画像処理、虫めがね、回転・反転、領域選択、タンブリング (回転)、レンダリング
- 1 - 14 - 2 拡大・移動連携時に基準位置をずらして移動操作できること。
- シリーズ間の各連携設定をユーザごとに ON/OFF できること。
- 1 - 14 - 3 (連携設定を電子カルテのログイン ID ごとにデフォルト設定が可能であれば加
点として評価する)
- 1 - 14 - 4 連携するシリーズを任意に選択できること。
- 1 - 14 - 5 連携するシリーズを同一検査、同一方向の条件にて自動で選択できること。
- 1 - 14 - 6 ページング連携時に DICOM タグ情報のスライス位置にて自動で同期表示できる
こと。
- 1 - 14 - 7 ページング連携時にビュー画面内で (別画面を起動せずに) 間引いたスライス
による臓器認識を利用して自動でスライス位置合わせできること。
- 1 - 14 - 8 ページング連携時にスライス方向、スライス位置に関係なく画像を 1 枚ずつ同期
表示できること。
- 1 - 14 - 9 スライス厚が異なるシリーズをページング連携する際、一番近いスライス位置の
画像を表示できること。
- 1 - 14 - 10 ページング連携時に手動でスライス位置を合わせて同期できること。
- 1 - 14 - 11 ページング連携時にキーボードショートカットのキーダウンで同期を解除し、手
動でスライス位置を合わせた後、キーアップで同期を再開できること。

- 1 - 14 - 12 ページング連携はシネ再生時にも動作すること。
- 1 - 14 - 13 DICOM タグ情報のスライス位置を利用して、複数シリーズ間で三次元的に同じ位置のイメージおよびポインタを表示（インテリリンク）できること。
- 1 - 14 - 14 連携設定を「キーボード F」などの簡便な方法で全解除できること
- 1 - 15 3D 機能は以下の要件を満たすこと。
- 1 - 15 - 1 シリーズ画像を MPR、MIP、MinIP、AveIP（Raysam）表示できること。
- 1 - 15 - 2 MPR、MIP、MinIP、AveIP 画像の直行 3 断面をワンアクションで切り替え表示できること。
- 1 - 15 - 3 MPR、MIP、MinIP、AveIP 画像のオブリーク断面を表示できること。
- 1 - 15 - 4 MPR、MIP、MinIP、AveIP 画像のダブルオブリーク断面を表示できること。
- 1 - 15 - 5 MPR、MIP、MinIP、AveIP 表示時に、オブリーク断面＋直行 3 断面の 4 分割表示に切り替えできること。
- 1 - 15 - 6 MIP、MinIP、AveIP 画像のスラブ厚をショートカットおよびマウスホイールにて変更できること。
- 1 - 15 - 7 MIP、MinIP、AveIP 画像のスラブ厚を数値入力して変更できること。
- 1 - 15 - 8 任意断面画像をタンブリング（回転）させる際、回転中心を指定できること。
- 1 - 16 操作補助に関する機能は以下の要件を満たすこと。
- 1 - 16 - 1 表示中の検査の表示状態（以下、スナップショット）を一時的に保存し、再復帰できること。
- 1 - 16 - 2 検査を閉じる際にスナップショットを自動で保存するかどうかを指定できること。
- 1 - 16 - 3 スナップショットを保存する際にタイトルを指定できること。また、再復帰時に保存されたタイトルを指定して表示できること。
- 1 - 16 - 4 ユーザがある端末で保存したスナップショットをサーバにアップロードし、別の端末にて再復帰できること。
- 1 - 16 - 5 過去検査リスト、サムネイルバー、シリーズ画像上で検査日が異なる検査を識別できること。
- 1 - 16 - 6 Basic SR、Dose SR（被曝線量レポート）、RRDSR、PDF などの DICOM 形式のレポートを表示できること。
- 1 - 16 - 7 画像表示中に新たに画像が追加された場合にビューワ上で認識できること。
- 1 - 16 - 8 ビューワからオンラインヘルプが利用できること。
- 1 - 17 CV 機能は以下の要件を満たすこと。
- 1 - 17 - 1 DICOM フレームレートを考慮して動画像をシネ表示できること。
- 1 - 17 - 2 複数の動画像シリーズを同時にシネ表示できること。
- 1 - 17 - 3 可変フレームレートが指定された場合でも、DICOM フレームレートを考慮して動画像をシネ表示できること。
- 1 - 17 - 4 デジタルサブトラクション血管造影撮影法（DSA）で撮影された画像に対して、マスク画像値の減算処理ができること。
- 1 - 17 - 5 血管造影検査画像の DICOM 情報から心電図（ECG）が表示できること。
- 1 - 17 - 6 シネ表示された画像を MPEG、AVI ファイルに出力する際、患者情報を匿名化するアノテーションが全フレームに適用できること。
- 1 - 17 - 7 US モダリティの検査に対して計測が行えること。計測は「Region Spatial Format」

の「2D」、「M-Mode」、「Doppler」に対して実施できること。

- 1 - 17 - 8 計測結果を検査単位で XML 出力できること。
- 1 - 17 - 9 計測結果の保存権限がユーザーロール単位で制御できること。
- 1 - 17 - 10 負荷心エコー検査 (StressEcho) 画像をステージ、ビュー毎にグループ化して読影プロトコルで表示できること。
- 1 - 17 - 11 ASE ガイドラインに基づいたプロトコル計測ができること (ProtocolPanel)
- 1 - 17 - 12 バイプレーン検査画像を、A/B にグループ化して読影プロトコルで表示できること。
- 1 - 17 - 13 左室・右室の心筋ストレイン解析ができること
- 1 - 17 - 14 デジタルサブトラクション血管造影撮影法 (DSA) で撮影されていない画像に対して、任意のマスクフレームを選択し、マスク画像値の減算処理ができること。
- 2 統合診療支援システム
- 2 - 1 基本機能
- 2 - 1 - 1 統合診療支援システム (以下、本システム) は、医用画像管理システム (PACS) 画像・放射線レポートデータ情報を一元的に管理し、時系列をはじめとする各種の参照方法を有するシステムであること。
本システムで管理する画像・レポートを対象に患者単位で、タイムライン表示、サムネイル表示、レイアウト表示、検査リスト表示、入院患者時系列表示の表示機能を有すること。
- 2 - 1 - 2 表示機能から、さらに詳細にデータ内容を確認する為のデータ参照機能を有すること。
- 2 - 1 - 3 電子カルテシステムと連携し、患者基本属性等の取得ができる機能を有すること。
- 2 - 1 - 4 また、電子カルテからの起動の際、患者 ID や利用者 ID の受け渡しを行い、シングルサインオンができる機能を有すること。
将来的に他システムや検査機器との接続が検討された際は、病院及び担当ベンダーとも協議の上、接続を可能とすること。またその際の費用は別途協議するものとする。
- 2 - 1 - 5
- 2 - 2 電子カルテシステム連携機能
- 2 - 2 - 1 電子カルテシステムとの患者基本情報の連携機能を有すること。
- 2 - 2 - 2 電子カルテシステムとの利用者情報の連携機能を有すること。
医事課に F-Report ライセンスとともに端末 1 台付与すること。
- 2 - 2 - 3 (電子カルテから読影状況等を直接閲覧することが可能であれば加点として評価する)
- 2 - 3 部門システム連携機能
- 2 - 3 - 1 医用画像管理システム (PACS) と連携し、サムネイル画像生成、画像参照ビューアを起動する機能を有すること。
- 2 - 3 - 2 放射線レポートシステムと連携し、レポート参照ビューアを起動する機能を有すること。
- 2 - 4 タイムライン表示機能
- 2 - 4 - 1 タイムライン機能では横軸に時間軸、縦軸に検体検査、画像・レポート・文書情報をマトリックス形式で配置することで時系列に診療データの発生状況を俯瞰、参照できる機能を有すること。

2	-	4	-	2	タイムラインの時間軸は、カレンダー日付単位、診療データの存在する日付単位、履歴単位（最新、1 回前、2 回前、等）の表示切替機能を有すること。
2	-	4	-	3	マトリックス上に「画像」及び「レポ」（レポート）ボタンを表示し、ボタン選択により、該当情報を拡大表示できる機能を有すること。
2	-	4	-	4	マトリックス上の画像・レポート・文書を複数選択し、比較表示ができる機能を有すること。
2	-	5			サムネイル表示機能
2	-	5	-	1	システムで管理するデータ（画像・文書情報）を対象として、患者単位に、その患者と関連するデータ（画像・文書情報）を一覧表示する機能を有すること。
2	-	5	-	2	一覧表示では、データ単位、データ発生日単位、データ種別単位で分類・並び替えができる機能を有すること。
2	-	5	-	3	一覧表示の際、データの種別が識別できるよう、サムネイル形式で表示する機能を有すること。またサムネイルの大きさは、スライダーにて自由に拡大・縮小ができる機能を有すること。
2	-	5	-	4	サムネイルをダブルクリックして指定する事により、指定したデータを、後述のデータ参照機能に展開できる機能を有すること。
2	-	5	-	5	データ参照機能に展開するデータは、4 つ以上の複数のデータを選択して、同時に展開することを可能とすること。
2	-	5	-	6	一覧表示されるデータを、データ種別や検査種別で絞り込む機能を有すること。
2	-	6			検査リスト機能
2	-	6	-	1	検査、文書をリスト表示できる機能を有すること。
2	-	6	-	2	日付、未読、種別、履歴、診療科、入外、詳細、レポートの有無の各条件を設定し、リストにフィルタをかけて絞り込み表示できる機能を有すること。
2	-	6	-	3	シリーズの一覧を表示できる機能を有すること。
2	-	6	-	4	検査リストにサムネイルの一覧を表示できる機能を有すること。
2	-	6	-	5	同一オーダの検査や文書が存在する場合、それらを関連付けて表示する機能を有すること。
2	-	6	-	6	検査種、診療科にて分類セットを作成し、セットを選択することでリストデータを絞り込み表示できる機能を有すること。絞り込み表示を行うとサムネイルビュー一覧も絞り込まれる機能を有すること。
2	-	6	-	7	リストの表示、非表示を切り替えできる機能を有すること。
2	-	7			レイアウト表示機能
2	-	7	-	1	様々な診療プロセスの場面毎（例えば、入院時、術前、術後、退院時、外来フォロー等）に、複数の画像・レポート・文書・電子カルテ連携情報の組み合わせをレイアウト表示機能にてセット登録し、当該場面に必要な情報を迅速に参照できる機能を有すること。
2	-	7	-	2	複数の画像・レポート・文書、及び電子カルテ連携情報を表示する枠を、2 × 1、2 × 2、4 × 4 などの均等分割の他、2 × 3 などの不均等分割も含めて自由に配置でき、同時に複数のデータ種別や複数の過去データとの比較表示が容易にできるレイアウト表示機能を有すること。
2	-	7	-	3	利用者毎に起動する際に表示されるデフォルトのレイアウトを、システムの既定値とは別に指定することができること。

2	-	7	-	4	電子カルテシステムや部門システムからレイアウト指定で該当のレイアウト表示機能と呼び出す機能を有すること。
2	-	8			データ参照機能
2	-	8	-	1	表示するデータが画像データの場合、拡大・縮小表示機能を有すること。また拡大表示した場合は、表示エリアを移動（スクロール）する機能を有すること。
2	-	8	-	2	表示するデータが画像データの場合、明るさ・コントラストの調整機能を有すること。
2	-	8	-	3	表示するデータが画像データの場合、90 度単位の回転機能を有すること。
2	-	8	-	4	表示するデータが画像データの場合、色調反転機能を有すること
2	-	8	-	5	1 データあたり、複数データが存在する場合（複数ページの文書や 1 検査複数画像の場合）においての、表示データ切替機能を有すること。
2	-	8	-	6	自由に並べたレイアウト情報（配置場所・データ種別・データ種別ごとの履歴）を、データの検索条件として保存する機能を有すること。
2	-	8	-	7	保存したレイアウト情報と呼び出し、簡単な操作で該当するデータを瞬時に表示する機能を有すること。
2	-	8	-	8	レイアウト保存機能を用いて画面上に並べた文書や画像データを、配置したレイアウト情報とセットにして、患者単位で保持する機能を有すること。
2	-	8	-	9	レイアウト保存機能で保持した患者単位のデータ表示状態を再現する機能を有すること。
2	-	8	-	10	表示するデータが画像データの場合、データを JPEG ファイルとして外部のファイルに保存する機能を有すること。
2	-	8	-	11	表示中のデータを印刷する機能を有すること。
2	-	9			タグ付け機能
2	-	9	-	1	表示している診療データに、タグ付けを行う機能を有すること。またその際、テキストによるコメントも入力できる機能を有すること。
2	-	9	-	2	利用者自身や利用者と同一の診療科のスタッフが、タグ付けした診療データだけを簡単な操作で絞り込み、最大化表示して連続的に表示する機能を有すること。
2	-	10			既読管理・基本機能
2	-	10	-	1	部門システム連携機能にて連携される放射線レポートを既読管理の対象とできる機能を有すること。
2	-	10	-	2	医用画像管理システム（PACS）の検査画像を、既読管理の対象にできる機能を有すること。
2	-	10	-	3	タイムライン表示機能に既読対象データの未読状態をアイコン表示できる機能を有すること。
2	-	10	-	4	レポートが未作成の画像検査も表示し、レポートがないことを利用者が把握できる機能を有すること。
2	-	10	-	5	未読状態は、検査依頼医師自身が依頼した検査とそれ以外の検査を区別してアイコン表示できる機能を有すること。
2	-	10	-	6	他科が依頼した検査の未読状態を自科の検査と区別してアイコン表示できる機能を有すること。
2	-	10	-	7	部門システム連携機能にて連携されるレポートシステムより、重要フラグを受け取り、重要レポートとして登録できる機能を有すること。

				重要レポートの場合、重要フラグのない通常レポートとは区別して未読状態をアイコン表示できる機能を有すること。[a1]（重要度『高』『中』など色分けて設定可能な場合には加点として評価する）
2	-	10	-	8
2	-	10	-	9
2	-	11		既読後にレポートの改版が行われた場合は、未読の改版レポートとしてアイコン表示できる機能を有すること。
2	-	11		既読管理・通知機能
2	-	11	-	1
				電子カルテシステムの利用者ログオン完了時に未読データが有る場合、本システムのボタン操作することなく、利用者へポップアップ画面にて通知できる機能を有すること。
2	-	11	-	2
				重要レポートが到着した場合、検査依頼医師にリアルタイムで通知できる機能を有すること。その場合、本システムを起動している状態でなくとも、通知を受信できる機能を有すること。
2	-	11	-	3
2	-	11	-	4
2	-	11	-	5
				通知画面から、直接対象レポートを表示できる機能を有すること。
				通知画面から、未読レポートの一覧を表示できる機能を有すること。
2	-	11	-	6
				電子カルテシステムにログオンしていない時に通知が送信された場合は、次回電子カルテのログオン完了時に、未表示の通知が全て表示できる機能を有すること。
2	-	11	-	7
				未読の通知を行う場合、対象レポート確定後7日間など、一定期間経過しても未読の状態であるデータのみをまとめて通知できる機能を有すること。期間については、施設の運用に合わせて変更できる機能を有すること。
2	-	11	-	8
				過去に通知された通知メッセージ履歴一覧を表示できる機能を有すること。
2	-	11	-	9
				電子カルテシステムにて対応が可能な場合、患者カルテ起動時に該当患者のレポート未読状態を通知できる機能を有すること。
2	-	11	-	10
				操作者が再通知日を指定することで、患者来院等に合わせ、通知の再通知ができる機能を有すること。
2	-	12		既読管理・既読操作機能
2	-	12	-	1
2	-	12	-	2
2	-	12	-	3
				操作者の職種により、既読操作者を制限できる機能を有すること。
				操作者の職種により、既読状態表示対象者を制限できる機能を有すること。
2	-	12	-	4
				未読レポートの既読宣言を利用者が行う場合、能動的操作にて既読にできる機能を有すること。
2	-	12	-	5
				既読後のレポートを、利用者の操作で未読に戻すことができる機能を有すること。
2	-	12	-	6
				ただし、未読に戻すことができるのは、自身が既読にしたレポートであること。
2	-	12	-	7
				レポート参照時に既読操作を行うことなく、自動的に既読にできる機能を有すること。
2	-	12	-	8
				レポートの確認を行った結果を、既読コメントとして登録できる機能を有すること。
2	-	12	-	9
				検査依頼医師自身でレポートを作成した場合は、該当レポートを自動的に既読にできる機能を有すること。
2	-	12	-	10
				研修医が既読操作を行った場合、それだけでそのレポートが既読として登録されずに、その研修医の指導医が既読操作を行うことで、既読として登録できる機能を有すること。
2	-	12	-	11
				研修医が既読操作を行った場合、その研修医の指導医に対して通知を送信できる機能を有すること。その際、研修医に対するコメントを表示できる機能を有する

こと。

2	-	12	-	10	検査依頼医師自身の既読操作時に、主治医など他医師への既読依頼ができる機能を有すること。その場合、依頼された医師に通知を行うことができ、既読依頼コメントを表示できる機能を有すること。
2	-	12	-	11	レポート参照画面を閉じる際、レポートを既読として閉じるか、未読のまま閉じるかを選択する機能を有すること。
2	-	13			既読管理・既読ワークリスト機能
					既読管理対象のデータを検索してリストに表示することができる既読ワークリスト機能を有すること。検索条件として、データの種別、未読/既読状態、作成日、作成日からの日数、検査種、患者 ID、患者名、検査日、レポート作成者、既読者、既読日時などの条件を指定できる機能を有すること。[a2]
2	-	13	-	1	（重要度中程度のレポートを《所見》《診断》から『癌』『悪性』など特定のキーワードを指定しレポートをリスト化が可能な場合には加点として評価する。） （《診断》において「癌術後、再発なし」など重要度なしの検索除けが可能な場合には加点として評価する）
2	-	13	-	2	よく使う検索条件（利用者自身の依頼分のみ、自科のみ、自科未読14日超え、全科未読14日超え、等）については、検索プリセットとして保存し、検索プリセットメニューから検索できる機能を有すること。
2	-	13	-	3	既読ワークリスト機能の検索結果として、検査種、重要フラグ、レポート版数、依頼科、依頼医、未読/既読状態、既読操作者、既読時刻、既読コメントを一覧表示できる機能を有すること。
2	-	13	-	4	既読ワークリストから指定のレポートを参照できる機能を有すること。
2	-	13	-	5	管理者権限にて既読ワークリストの内容を CSV 出力できる機能を有すること。
2	-	13	-	6	レポートに複数の既読対象者が設定されている場合、それぞれの既読対象者毎の未読/既読状態や、既読にした操作者の操作者名、既読時刻を表示できる機能を有すること。
2	-	13	-	7	電子カルテシステムで対応可能な場合、既読ワークリスト機能から対象の患者カルテ画面を呼出して表示できる機能を有すること。
2	-	13	-	8	複数のレポートを選択して、既読対象者を一括で変更できる機能を有すること。
2	-	13	-	9	対象のレポートに既読対象者が複数設定されており、またその未読/既読状態が未読の場合、その既読対象者の削除ができる機能を有すること。
2	-	13	-	10	対象のレポートに、既読対象者を追加する機能を有すること。その際、追加する既読対象者に対するコメントを登録できる機能を有すること。
2	-	13	-	11	既読対象者の追加・変更・削除を行うことができる利用者は、管理者もしくはそのレポートを依頼した医師に制限できる機能を有すること。
2	-	13	-	12	管理者権限にて、対象レポートの既読状態を変更できる機能を有すること。既読状態を変更する際に、変更理由などを合わせて登録できる機能を有すること。
2	-	14			既読管理・既読監査機能
2	-	14	-	1	レポート既読後に適切な診療行為が行われているか否かのカルテ監査を行うための既読監査機能を有すること。
2	-	14	-	2	既読監査機能において、カルテ記事などの診療情報は選択した検査の検査日以降のデータに絞り込む機能を有すること。

				既読監査結果ステータス（未対応、対応済、連絡済、等）をメニューから選択入力できる機能を有すること。また、ステータスは複数定義することができ、管理者が任意に選択できる機能を有すること。
2	-	14	-	3
3				放射線科読影ビューワ機能
3	-	1		リスト表示機能は以下の要件を満たすこと。
				PACS サーバ内に保存されているデータを以下のフォルダに自動的に分類することが可能であること。
3	-	1	-	1
				(1) 本日の検査 (2) 本日の検査：モダリティ別 (3) 最近 1 週間の検査 (4) 最近 1 週間の検査：モダリティ別 (5) 全検査 (6) 全患者
3	-	1	-	2
3	-	1	-	3
				患者リストには「患者 ID」「患者氏名」「性別」「生年月日」を表示できること。検査リストには「患者 ID」「患者氏名」「オーダー番号」「モダリティ」「検査項目」「検査日時」「画像枚数」「検査ステータス（予約、到着、レポートあり）」を表示できること。
3	-	1	-	4
3	-	1	-	5
3	-	1	-	6
				リストに表示された検査を各項目でフィルタリング（検索）できること。リストに表示された検査を各項目でソート（並べ替え）できること。またソートは第 3 ソートまで可能なこと。
3	-	1	-	7
3	-	1	-	8
3	-	1	-	9
3	-	1	-	9
3	-	2		検査画像表示、電子カルテ連携機能は以下の要件を満たすこと。
3	-	2	-	1
3	-	2	-	2
				検査画像を開く際、モダリティなどの条件により、過去検査画像を同時に表示するかどうかを選択できること。
3	-	2	-	3
				PACS 上でエクスポートした検査画像をオフライン状態で PACS ビューワ同等機能のビューワにて参照できること。
3	-	3		患者および検査に関する機能は以下の要件を満たすこと。
3	-	3	-	1
				患者に対するテキストメモを保存/表示できること。またメモを作成する際はユーザごとの定型文を利用できること。
3	-	3	-	2
3	-	3	-	3
3	-	4		過去検査リストから検査レポートを表示できること。
3	-	4		読影プロトコル機能は以下の要件を満たすこと。
3	-	4	-	1
				ユーザおよびモダリティごとにあらかじめ設定された表示フォーマット（以下、読影プロトコル）に従いシリーズ画像をスタック/タイル表示できること。
3	-	4	-	2
				読影プロトコルではシリーズ表示順、シリーズ表示レイアウト、イメージ表示レイアウト、過去検査（最大 6 検査）、過去シリーズ画像を指定できること。
3	-	4	-	3
				読影プロトコルでシリーズ表示レイアウトを指定する際、検査内のシリーズ数に応じて最適にレイアウトを変更する自動レイアウト機能を選択できること。
3	-	4	-	4
3	-	4	-	5
				読影プロトコルは複数登録でき、検査画像表示後にユーザが切り替えできること。読影プロトコル適用後に表示される画面（以下、プロトコルステップ）が複数にわたる場合、前後および任意のプロトコルステップに切り替えできること。
3	-	4	-	6
				読影プロトコルをユーザがモダリティごとに設定できること。

- 3 - 4 - 7 現在表示しているレイアウトを元に読影プロトコルを設定できること。
- 3 - 5 過去検査画像表示機能
- 3 - 5 - 1 検査画像表示時に患者情報パネル（患者番号、患者名、性別、検査時年齢、検査日、検査項目群、オーダ番号）を表示できること。
- 3 - 5 - 2 検査画像表示時に同一患者の過去検査リストを表示できること。
- 3 - 5 - 3 過去検査リスト項目には「検査日」「モダリティ」「検査項目群」「レポート、メモのあり/なし」を表示できること。
- 3 - 5 - 4 過去検査リストを各項目でソートできること。
- 3 - 5 - 5 過去検査リストをモダリティで絞り込みできること。その際、複数のモダリティを指定できること。
- 3 - 5 - 6 過去検査リストで選択されている検査を現在表示されている検査に追加して比較表示（最大 6 検査）できること。
- 3 - 5 - 7 比較表示の際、比較前の検査画像を残したまま、画面内の別タブに比較表示できること。
- 3 - 5 - 8 過去検査リスト内の検査数が多い場合、リストをスクロールするのではなくリストおよびサムネイル領域を拡張表示して検査およびサムネイルを選択できること。
- 3 - 5 - 9 過去検査を現在表示されている検査に追加して比較表示する際、現在検査に施した処理（W/L 値、拡張、パンなど）が初期化されないこと。
- 3 - 5 - 10 検査画像表示時にシリーズ画像のサムネイルバーを表示できること。
- 3 - 5 - 11 サムネイルバーには過去検査リストで選択されているすべての検査のサムネイルが表示できること。
- 3 - 5 - 12 サムネイルバーに表示するサムネイルの行数を指定できること。
- 3 - 5 - 13 サムネイルバーのサムネイル上でシリーズ画像をスタック表示できること。
- 3 - 5 - 14 サムネイルバーにてシリーズ番号、シリーズ情報、画像枚数を表示できること。
- 3 - 5 - 15 サムネイルバーにて表示中/表示済/未表示/フォーカスありのシリーズ画像を識別できること。
- 3 - 5 - 16 サムネイルバーを画像表示モニタごとに表示し、それぞれのモニタ内で選択した検査画像のサムネイルを表示できること。
- 3 - 5 - 17 過去検査リストおよびサムネイルバーを非表示にできること。
- 3 - 5 - 18 過去検査リストおよびサムネイルバーを表示するかどうかをユーザおよびモダリティごとに設定できること。
- 3 - 5 - 19 シリーズの表示順を Thin スライスシリーズ、Thick スライスシリーズ、スカウト画像シリーズなどの塊の順で表示できること。
- 3 - 6 シリーズレイアウト操作機能は以下の要件を満たすこと。
- 3 - 6 - 1 サムネイルバーからシリーズ画像のサムネイルをドラッグ&ドロップ、ダブルクリックしてシリーズを上書き/挿入表示できること。また、ドラッグ&ドロップの際に、ミニレイアウト画面を表示して、そこにドラッグ&ドロップすることでシリーズ画像を表示できること。
- 3 - 6 - 2 サムネイルバーからシリーズ画像のサムネイルをドラッグ&ドロップする際に、ミニレイアウト画面を表示して、そこにドラッグ&ドロップすることでシリーズ画像を表示できること。

3	-	6	-	3	シリーズ画像のサムネイルをドラッグ&ドロップしてシリーズを上書き/挿入する際、複数のシリーズを指定できること。
3	-	6	-	4	シリーズ画像のサムネイルをドラッグ&ドロップしてシリーズを上書き/挿入する際、同一方向のシリーズに対して、スライスおよび FOV 位置を自動的に合わせることができること。
3	-	6	-	5	シリーズ画像の操作によりシリーズをコピー/移動/入れ替え/削除して表示できること。
3	-	6	-	6	マスを塗りつぶす形式にてシリーズの表示レイアウトを変更できること。
3	-	6	-	7	検査に含まれるすべての画像を 1 シリーズ（全画像シリーズ）として表示できること。
3	-	6	-	8	シリーズ画像内で「前シリーズ」「次シリーズ」「シリーズ一覧」を指定してシリーズを切り替えできること。
3	-	6	-	9	選択したシリーズのみをワンアクションで適切なレイアウトにて表示し、さらにワンアクションで元のレイアウトに戻せること。
3	-	6	-	10	シリーズ内に複数のサブシリーズが含まれる場合、画像向き・間隔および任意のタグ値を利用して、シリーズを分割して表示できること。
3	-	6	-	11	検査内の複数のシリーズを結合して 1 つのシリーズとしてビューワ上に表示できること。
3	-	6	-	12	同一シリーズの Thin スライス画像と Thick スライス画像が存在する際に、ビューワ上でワンボタンで Thin/Thick スライスシリーズの表示を切り替えできること。
3	-	6	-	13	CT の肺野条件と縦隔条件のシリーズが存在する際に、ビューワ上でワンボタンで肺野/縦隔シリーズの表示を切り替えできること。
3	-	7			画像操作機能は以下の要件を満たすこと。
3	-	7	-	1	シリーズ画像に対して、以下の画像操作ができること。 階調変更、拡大・縮小、移動、ページング、部分拡大（虫めがね）、左右反転、上下反転、左右 90 度回転、 180 度回転、画像フィット表示、ピクセル等倍表示、被写体フィット表示
3	-	7	-	2	CT や MR のシリーズ画像に対して任意角度の左右回転ができること。
3	-	7	-	3	シリーズ画像に対して、以下の画像処理操作ができること。 階調プリセット処理、白黒反転処理、シャープネス/肺強調処理、ぼかし処理、FCR 画像パラメータ処理
3	-	7	-	4	W/L 値の数値入力によりシリーズ画像の階調を変更できること。
3	-	7	-	5	画像上で任意に領域を指定後、領域内で最適な W/L 値を計算して画像全体にその W/L 値を適用できること。
3	-	7	-	6	階調プリセットはユーザおよびモダリティごとに最大 9 個までユーザが設定できること。
3	-	7	-	7	マウス操作による階調変更時の W/L 値増減方向および変化速度をユーザごとに設定できること。
3	-	7	-	8	モノクロ 8bit 画像に対して階調を変更できること。
3	-	7	-	9	RGB 画像に対して明るさ/コントラストを変更できること。
3	-	7	-	10	拡大・縮小率の数値入力によりシリーズ画像を拡大・縮小表示できること。

- 3 - 7 - 11 拡大・縮小率プリセットを利用してシリーズ画像を拡大・縮小表示できること。
- 3 - 7 - 12 画像初期表示時の表示倍率を指定できること。
- 3 - 7 - 13 マウス操作によるシリーズ画像の拡大・縮小時の上下方向および変化速度をユーザが設定できること。
- 3 - 7 - 14 マウス操作によるシリーズ画像の拡大・縮小の中心を、ビューの中心もしくはマウスポイントの中心のいずれかをユーザごとに設定できること。
- 3 - 7 - 15 マウスホイールを利用してシリーズ画像を拡大・縮小表示できること。
- 3 - 7 - 16 シリーズ画像をページングするためのスライダーバー機能を利用できること。
- 3 - 7 - 17 マウス操作によるシリーズ画像ページング時の画像読み飛ばし ON/OFF および変化速度をユーザごとに設定できること。
- 3 - 7 - 18 マウスホイールの回転速度および回転幅に応じて、シリーズ画像ページングの変化速度をユーザごとに設定できること。
- 3 - 7 - 19 シリーズの最初および最後の画像へワンアクションで移動できること。
- 3 - 7 - 20 シリーズ画像をシネ表示（昇順/逆順表示、開始、停止、速度調整）できること。
- 3 - 7 - 21 シリーズ画像をシネ表示する際、シネ操作パネル（ボタンアイコンなど）を使用せずにマウス操作のみで昇順/逆順表示、開始、停止、速度調整ができること。
- 3 - 7 - 22 DICOM フレームレートを考慮して動画像をシネ表示できること。
- 3 - 7 - 23 DICOM フレームレートを考慮して動画像をシネ表示する際、表示速度を優先（画像描画が追いつかない場合、画像を飛ばす）させて再生できること。
- 3 - 7 - 24 複数の動画像シリーズを同時にシネ表示できること。また、シネ表示をストップさせずに階調変更、拡大・縮小、移動の画像操作ができること。
- 3 - 7 - 25 シリーズ画像を逆順にソートできること。
- 3 - 7 - 26 シリーズ画像を任意の DICOM タグを利用してソートできること。
- 3 - 7 - 27 マウスホイールを利用してイメージ表示レイアウト（タイル表示のレイアウト）を変更できること。
- 3 - 7 - 28 シリーズ画像をダブルクリックすることで 1 モニタに対してシリーズ表示レイアウトを 1×1 表示でき、再度ダブルクリックすることにより 1×1 表示を解除できること。
- 3 - 7 - 29 画像上でマウスポイントを移動することで、FOR が同一で別シリーズの画像上の同一位置に自動的にポインタが表示され 3 次元動作できること。
- 3 - 7 - 30 画像にブックマークを設定しブックマーク画像のみを表示できること。
- 3 - 7 - 31 画像の DICOM ヘッド情報を一覧で表示できること。
- 3 - 7 - 32 現在および過去の FCR 画像もしくは処理済 CR を利用して経時差分画像をビューワ画面内で（別画面を起動せずに）生成し表示できること。
- 3 - 7 - 33 臓器認識を利用して、脊椎および肋骨の骨ラベリングが行えること。
- 3 - 7 - 34 2 つのシリーズを重ね合わせてサブトラクション表示できること。
- 3 - 7 - 35 MRI 拡散強調画像を使用して ADC マップを表示できること。また、2 種類の b 値の画像から他の b 値の Computed DWI を作成できること。
- 3 - 7 - 36 計測領域内の CT 値（画素値）をヒストグラム表示できること。
- 3 - 8 アノテーション、計測、オーバーレイ機能は以下の要件を満たすこと。

画像上で以下のアノテーションを付加・計測できること。

- | | | | | | |
|---|---|---|---|----|--|
| 3 | - | 8 | - | 1 | 画素値、距離、角度、テキスト、矢印、矢印+テキスト、フリーハンド、線分比、楕円 ROI、正円 ROI、矩形 ROI、多角形 ROI、フリーハンド ROI、フリーハンド長さ |
| 3 | - | 8 | - | 2 | 角度を計測する際、異なる画像間においても計測できること。 |
| 3 | - | 8 | - | 3 | 任意の行×列の画素値マップを表示できること。 |
| 3 | - | 8 | - | 4 | 領域の自動認識により距離計測を自動補正できること。 |
| 3 | - | 8 | - | 5 | 領域の自動認識によりアノテーション（多角形 ROI）をビューワ画面内で（別画面を起動せずに）付加・計測および修正できること。 |
| 3 | - | 8 | - | 6 | 領域の自動認識により 3D アノテーション（VOI）をビューワ画面内で（別画面を起動せずに）付加・計測および修正できること。 |
| 3 | - | 8 | - | 7 | 領域の自動認識による 3D アノテーション（VOI）の体積を表示できること。 |
| 3 | - | 8 | - | 8 | 造影 T1 強調画像、非造影 FLAIR 画像上でユーザーが指定した Glioma 疑いの領域に対して、自動認識による 3D アノテーション（VOI）の体積および長径を表示できること。 |
| 3 | - | 8 | - | 9 | 交わらない 2 直線の角度を計測できること。 |
| 3 | - | 8 | - | 10 | 4 点および 6 点計測法を用いて、2 つの線分の長さおよび比率を計測（心胸隔比計測）できること。 |
| 3 | - | 8 | - | 11 | 臓器認識を利用して自動で心胸隔比を計測できること。 |
| 3 | - | 8 | - | 12 | 4 点計測法を用いて、関心領域の幅（最大短径）を計測できること。 |
| 3 | - | 8 | - | 13 | Evans Index（頭部 CT、頭部 MR）を計測できること。 |
| 3 | - | 8 | - | 14 | CT 画像で EvansIndex、脳梁角、MidlineShift を自動で計測できること。 |
| 3 | - | 8 | - | 15 | 腹部大動脈の最大短径を自動で計測できること。 |
| 3 | - | 8 | - | 16 | Cobb 角、Baumann 角、Sharp 角、CE 角、AHI、AHI(角度)、FTA（左右）、適合角、外反母趾角を計測できること。 |
| 3 | - | 8 | - | 17 | 計測途中においても計測値が表示されること。 |
| 3 | - | 8 | - | 18 | 特定のキーを押しながら計測することで、計測終了時に計測結果を表示しないようにできること。 |
| 3 | - | 8 | - | 19 | 画像の Pixel Spacing を補正して計測できること。 |
| 3 | - | 8 | - | 20 | Pixel Spacing を含まない画像に対して値を設定して計測できること。 |
| 3 | - | 8 | - | 21 | PET 画像の SUV Max 値、SUV Peak 値、MTV 値、TLG 値を計測できること。また MTV 値を求める際に、絶対値を使用するか相対値を使用するかを設定できること。 |
| 3 | - | 8 | - | 22 | シリーズ画像に付加したアノテーションを別のシリーズにコピーできること。 |
| 3 | - | 8 | - | 23 | シリーズ画像に付加したアノテーションを同一シリーズ内の全ての画像にワンアクションでコピーできること。 |
| 3 | - | 8 | - | 24 | アノテーションの計測結果を文字列としてクリップボードにコピーできること。 |
| 3 | - | 8 | - | 25 | ROI アノテーションにおいて「面積」「平均値」「平均径」「標準偏差」「最大値」「最小値」「長径」「短径」「外周」「中央値」「長さ」を表示できること。 |
| 3 | - | 8 | - | 26 | ROI アノテーションで表示する項目および値の小数点以下の桁数をユーザごとに設定できること。 |
| 3 | - | 8 | - | 27 | シリーズ画像に対して、番号ラベルのアノテーションを付加できること。 |
| 3 | - | 8 | - | 28 | アノテーションを表示/非表示できること。 |

- 3 - 8 - 29 アノテーションの色およびフォントサイズをユーザごとに設定できること。
- 3 - 8 - 30 保存されたアノテーション、拡大、W/L 変更を全端末で復元できること。
- 3 - 8 - 31 DICOM ヘッダ情報を画像上にオーバーレイ情報として表示/非表示できること。
- 3 - 8 - 32 オーバーレイ情報として表示する項目をユーザ、モダリティおよび AE タイトル (+SOP クラス) ごとに任意にユーザが指定できること。
- 3 - 8 - 33 オーバーレイ情報を匿名化して表示できること。
- 3 - 8 - 34 画像の表示枠に応じてオーバーレイ情報のフォントサイズが変化すること。
- 3 - 8 - 35 オーバーレイ情報の色およびフォントサイズを設定できること。
- 3 - 8 - 36 DICOM6000 番台のオーバーレイ情報を表示できること。
- 3 - 8 - 37 表示中の画像のリファレンス線を表示/非表示できること。
- 3 - 8 - 38 リファレンス線に画像番号が表示されること。
- 3 - 8 - 39 リファレンス線を表示する際に「最初と最後とアクティブ」「アクティブのみ」を選択できること。
- 3 - 8 - 40 シリーズの異なる複数の画像の ROI 計測値 (Time Intensity Curve 含む)、画素値、面積、長さをグラフ表示できること。
- 3 - 8 - 41 任意の 2 つのシリーズ画像をフュージョン表示できること。
- 3 - 8 - 42 任意の 2 つのシリーズ画像の直行 3 断面 + フュージョン + 全 MIP 画像をワンアクションで表示できること。
- 3 - 8 - 43 フュージョン表示時に上画像のみを移動およびページングできること。
- 3 - 8 - 44 マニュアルにて病変トラッキング機能を利用できること。
- 3 - 9 画質、画像の見え方に関する機能は以下の要件を満たすこと。
- 3 - 9 - 1 画像にモダリティ LUT を適用できること。
- 3 - 9 - 2 画像に VOILUT (Sigmoid 含む) を適用できること。
- 3 - 9 - 3 画像を拡大・縮小表示する際の画素補間方法を指定できること。
- 3 - 9 - 4 画像上に矩形を指定してシャッター表示できること。
- 3 - 9 - 5 DICOM シャッター情報を表示できること。
- 3 - 9 - 6 画像の PixelPaddingValue を標記できること。
- 3 - 9 - 7 端末のモニタ種別に応じて LUT が設定できること。
- 3 - 9 - 8 疑似カラー表示できること。
- 3 - 9 - 9 先頭画像から指定した枚数の画像を重ね合わせて MIP、MinIP、AveIP (Raysam) 表示 (畳み込み表示) できること。
- 3 - 10 画像操作モードに関する機能は以下の要件を満たすこと。
- 3 - 10 - 1 マウスの右、左、中、左右 (両押し) ボタンのそれぞれに画像操作機能を割り当てることができること。
- 3 - 10 - 2 画像操作モードの切り替えおよび画像操作をキーボードショートカット、コントロールバー (アイコンバー)、右クリックメニューにて実施できること。
- 3 - 10 - 3 キーボードショートカット (ファンクションキー含む)、コントロールバー (アイコンバー)、右クリックメニューはユーザごとに設定できること。
- 3 - 10 - 4 画像操作モードの切り替えおよび画像操作をボタンメニュー (ツールボックス) にて実施できること。
- 3 - 10 - 5 画像を表示した際の画像操作モードを「前回値」もしくは「初期値」に設定できること。

3	-	10	-	6	画像操作中に画像操作モードをワンアクションで「前回値」もしくは「初期値」に戻せること。
3	-	10	-	7	1回の操作で複数の操作を行うプリセット（複合コマンド）を作成し、それをメニューやショートカットキーから実行できること。
3	-	11			画像出力機能は以下の要件を満たすこと。
3	-	11	-	1	画像の全体もしくは選択した領域を Bitmap 形式にてクリップボードにコピーもしくはファイルに出力できること。
3	-	11	-	2	選択したシリーズ画像を Jpeg/Bitmap/Png/Tiff 形式にてファイルに出力できること。また、出力時に複数の画像を 1 枚の画像として出力できること。
3	-	11	-	3	選択したシリーズ画像を PPT 形式にてファイルに出力できること。
3	-	11	-	4	シネ表示された画像を AVI ファイルに出力できること。
3	-	11	-	5	表示中の検査を DICOM 画像として CD/DVD/ローカルディスクなどに出力できること。また出力時に患者情報を匿名化できること。
3	-	11	-	6	表示中の画像を Windows プリントできること。
3	-	11	-	7	表示中の画像を DICOM プリントできること。
3	-	11	-	8	フュージョン画像、再構成画像を別シリーズとして PACS 上に保存できること。
3	-	12			シリーズ連携機能は以下の要件を満たすこと。
					以下のシリーズ画像操作に対してシリーズ間の連携ができること。
3	-	12	-	1	ページング、拡大・移動、階調・画像処理、虫めがね、回転・反転、アノテーション、領域選択、タンブリング（回転）、レンダリング
3	-	12	-	2	拡大・移動連携時に基準位置をずらして移動操作できること。
3	-	12	-	3	シリーズ間の各連携設定をユーザごとに ON/OFF できること。
3	-	12	-	4	連携するシリーズを任意に選択できること。
3	-	12	-	5	連携するシリーズを同一検査、同一方向の条件にて自動で選択できること。
3	-	12	-	6	連携するシリーズを複数グルーピング（最大 10）できること。
3	-	12	-	7	ページング連携時に DICOM タグ情報のスライス位置にて自動で同期表示できること。
3	-	12	-	8	ページング連携時にビューワ画面内で（別画面を起動せずに）間引いたスライスによる臓器認識を利用して自動でスライス位置合わせできること。
3	-	12	-	9	ページング連携時にビューワ画面内で（別画面を起動せずに）全てのスライスによる臓器認識を利用して自動でスライス位置合わせできること。
3	-	12	-	10	ページング連携時にスライス方向、スライス位置に関係なく画像を 1 枚ずつ同期表示できること。
3	-	12	-	11	スライス厚が異なるシリーズをページング連携する際、一番近いスライス位置の画像を表示できること。
3	-	12	-	12	ページング連携時に手動でスライス位置を合わせて同期できること。
3	-	12	-	13	ページング連携時にキーボードショートカットのキーダウンで同期を解除し、手動でスライス位置を合わせた後、キーアップで同期を再開できること。
3	-	12	-	14	ページング連携はシネ再生時にも動作すること。
3	-	12	-	15	選択されているシリーズの FOV 位置をワンアクションで合わせることができること。
3	-	12	-	16	選択されているシリーズの階調・画像処理をワンアクションで合わせることがで

きること。

- 3 - 12 - 17 DICOM タグ情報のスライス位置を利用して、複数シリーズ間で三次元的に同じ位置のイメージおよびポインタを表示（インテリリンク）できること。
- 3 - 13 3D 機能は以下の要件を満たすこと。
- 3 - 13 - 1 シリーズ画像を MPR、MIP、MinIP、AveIP（Raysam）表示できること。
- 3 - 13 - 2 MPR、MIP、MinIP、AveIP 画像の直行 3 断面をワンアクションで切り替え表示できること。
- 3 - 13 - 3 MPR、MIP、MinIP、AveIP 画像のオブリーク断面を表示できること。
- 3 - 13 - 4 MPR、MIP、MinIP、AveIP 画像のダブルオブリーク断面を表示できること。
- 3 - 13 - 5 MPR、MIP、MinIP、AveIP 表示時に、オブリーク断面＋直行 3 断面の 4 分割表示に切り替えできること。
- 3 - 13 - 6 MIP、MinIP、AveIP 画像のスラブ厚をショートカットおよびマウスホイールにて変更できること。
- 3 - 13 - 7 MIP、MinIP、AveIP 画像のスラブ厚を数値入力して変更できること。
- 3 - 13 - 8 MIP、MinIP、AveIP 画像のスライス間隔を変更できること。
- 3 - 13 - 9 レンダリング条件（例：MIP-サジタル-5mm など）のプリセットを利用できること。
- 3 - 13 - 10 任意断面画像をタンブリング（回転）させる際、回転中心を指定できること。
- 3 - 13 - 11 CPR を表示できること。
- 3 - 13 - 12 カラーテンプレートを利用してシリーズ画像をビュー画面内で（別画面を起動せずに）VR 表示できること。
- 3 - 13 - 13 VR 表示時に視線方向にクリップ（切り取り）できること。
- 3 - 13 - 14 VR 表示時に任意の領域をカットできること。
- 3 - 13 - 15 骨および体表の臓器認識機能を用いた骨抜き機能をビュー画面内で（別画面を起動せずに）利用できること。
- 3 - 14 操作補助に関する機能は以下の要件を満たすこと。
- 3 - 14 - 1 ユーザがある端末で行ったビューの設定を、ユーザ自身で別の端末にも反映できること。
- 3 - 14 - 2 ユーザが行ったビューの設定をエクスポートし、別のユーザや別の施設でインポートできること。
- 3 - 14 - 3 画像に対して行った操作を「元に戻す」「やり直す」「すべて元に戻す」「すべてやり直す」ことができること。
- 3 - 14 - 4 表示中の検査の表示状態（以下、スナップショット）を一時的に保存し、再復帰できること。
- 3 - 14 - 5 検査を閉じる際にスナップショットを自動で保存するかどうかを指定できること。
- 3 - 14 - 6 スナップショットを保存する際にタイトルを指定できること。また、再復帰時に保存されたタイトルを指定して表示できること。
- 3 - 14 - 7 ユーザがある端末で保存したスナップショットをサーバにアップロードし、別の端末にて再復帰できること。
- 3 - 14 - 8 スナップショットのリンクファイルを保存できること。

- 3 - 14 - 9 過去検査リスト、サムネイルバー、シリーズ画像上で検査日が異なる検査を識別
できること。
- 3 - 14 - 10 画像表示中に新たに画像が追加された場合にビューワ上で認識できること。
- 3 - 14 - 11 ビューツールバー上に表示するアイコンをユーザが任意に設定できること。
- 3 - 14 - 12 キー画像貼り付け時のキー画像を含むシリーズおよび手動画像選択にて、自動削
除されるシリーズ画像を保護できること。
現在画像を表示中に、過去に計測された結果部分に対して部位の自動認識を行い、
現在画像、前回過去画像、ベースとなる過去画像を自動的に並べて表示できるこ
と。並べて表示された画像の計測結果についてはグラフ表示による経時変化を確
認できること。
- 3 - 14 - 14 ビューワからオンラインヘルプを利用できること。
- 3 - 14 - 15 ビューワからチュートリアル画面を起動してインタラクティブな操作マニュアル
を利用できること。
- 3 - 15 マンモグラフィ機能は以下の要件を満たすこと。
- 3 - 15 - 1 マンモ CAD 結果を表示できること。
- 3 - 15 - 2 マンモ画像の拡大・移動・階調変更の操作が左右の画像で連動できること。
- 3 - 15 - 3 左右マンモ画像の乳房領域の中心を合わせて表示できること。
- 3 - 15 - 4 マンモ画像表示時の胸壁位置および表示倍率をユーザごとに設定できること。
- 3 - 15 - 5 マンモ画像表示時の水平方向に対する胸壁位置合わせを一時的に OFF にできるこ
と。
マンモ画像表示時に上下方向は3つ（上中下）、左右方向は2つ（胸壁側、ニッ
プル側）の表示位置をユーザごとに指定できること。（QuadrantView 相当の機能）
- 3 - 15 - 7 マンモ画像表示時に自動高さ位置合わせ表示できること。
- 3 - 15 - 8 虫めがねの表示サイズをユーザごとに変更できること。
- 3 - 15 - 9 MG For Processing の画像に対して画像処理パラメータを適用できること。
マンモ画像の上下部分および左右部分をマスキング表示できること。また左右部
分をマスキングする際、ML0 の画像に対しては、大胸筋の角度に並行にマスキン
グ表示できること。
- 3 - 15 - 11 マンモ画像の同一撮影方向の過去比較表示をワンアクションで実施できること。
- 3 - 15 - 12 マンモ画像の 2D 画像とトモシンセシス画像の表示切り替えをワンアクションで
実施できること。
- 3 - 15 - 13 PPV データが入っていないマンモ画像に対して白黒反転した際に、乳房部分を認
識して黒化処理できること。
- 3 - 15 - 14 検査リスト上で指定した検査またはサムネイルバー上で選択したシリーズ（US、
MR など）を別ウインドウで画像表示できること。
- 3 - 15 - 15 MG および BT モダリティ種のマンモトモシンセシス画像を表示できること。
- 3 - 15 - 16 マンモトモシンセシス画像に対して MIP 処理できること。
- 3 - 15 - 17 CC/ML0 間のクロスリファレンス線を表示できること。
- 3 - 15 - 18 先頭画像から指定した枚数の画像を重ね合わせて MIP 表示できること。
トモシンセシス画像に対して左右乳房のシェーマ画像にスライスバーを表示し、
マウスでバーを移動させてページングできること。
- 3 - 15 - 20 合成 2D 画像と合成 2D 画像の元となったトモシンセシス画像間で画像スライス位

置を連携できること。

- 3 - 15 - 21 マンモ画像をワンクリックで並べたい条件に表示できること。
- 3 - 16
フォローアップビュー機能は以下の要件を満たすこと。
現在画像を表示中に、過去に計測された結果部分に対して部位の自動認識を行い、
現在画像、前回画像、ベースラインとなる過去画像を自動的に並べて表示できる
- 3 - 16 - 1 こと。その際、現在画像で計測された結果は、過去に計測された結果をもとに自動的に対応付けができること。
- 3 - 16 - 2 ベースラインとなる過去画像は計測結果ごとに指定できること。
- 3 - 16 - 3 並べて表示された画像の計測結果についてはグラフ表示による経時変化を確認できること。
- 3 - 16 - 4 表示したグラフをキャプチャして、レポートに貼付けできること。
- 3 - 17
フォローアップビュー機能は以下の要件を満たすこと。
現在画像を表示中に、過去に計測された結果部分に対して部位の自動認識を行い、
現在画像、前回画像、ベースラインとなる過去画像を自動的に並べて表示できる
- 3 - 17 - 1 こと。その際、現在画像で計測された結果は、過去に計測された結果をもとに自動的に対応付けができること。
- 3 - 17 - 2 ベースラインとなる過去画像は計測結果ごとに指定できること。
- 3 - 17 - 3 並べて表示された画像の計測結果についてはグラフ表示による経時変化を確認できること。
- 3 - 17 - 4 表示したグラフをキャプチャして、レポートに貼付けできること。
- 3 - 18
大動脈ビュー機能は以下の要件を満たすこと。
胸腹部大動脈の直交断面/VR/CPR の 3 画面をビューワ画面内で（別画面を起動せずに）表示できること。
- 3 - 18 - 1
- 3 - 19
AI 技術を用いて設計された機能は以下の要件を満たすこと。
DeepLearning 技術を用いて設計した臓器認識機能（脳区域、肺および肺区域、肺動脈、心臓/大動脈、肝臓および肝区域、膵臓、膵区域、腎臓、副腎、脾臓、大腰筋、骨、体表、縦隔/腋窩リンパ節、縦隔/腋窩リンパ節（非造影））をビューワ画面内で（別画面を起動せずに）利用できること。
- 3 - 19 - 1
- 3 - 19 - 2 DeepLearning 技術を用いて設計した臓器ラベリング機能（脳区域、椎体・肋骨、肺区域、肝区域、膵区域）をビューワ画面内で（別画面を起動せずに）利用できること。
- 3 - 19 - 3 DeepLearning 技術を用いて設計した臓器認識機能および臓器ラベリング機能で処理した結果を基に、個々の椎体および肋骨を個別に位置合わせを行い、経時サブトラクション処理を行うことで、信号値の差分をビューワ画面内に（別画面を起動せずに）表示できること。
- 3 - 19 - 4 DeepLearning 技術を用いて設計した CT 画像の Thick スライスデータから仮想的に汎用および胸部用の Thin スライスデータを作成する機能をビューワ画面内で（別画面を起動せずに）利用できること。
- 3 - 19 - 5 DeepLearning 技術を用いて設計した臓器認識機能および臓器ラベリング機能で処理した結果を基に、病変トラッキング機能を利用できること。
- 3 - 19 - 6 DeepLearning 技術を用いて設計した肺結節検出機能をビューワ画面内で（別画面を起動せずに）利用できること。

- 3 - 19 - 7 DeepLearning 技術を用いて設計した肺結節検出機能は、肺結節の見逃し防止に効果があることが薬機法で認められている医療機器の機能であること。
- 3 - 19 - 8 DeepLearning 技術を用いて設計した肺結節検出機能または手動で計測した肺結節に対して、結節内の高吸収領域を強調表示できること。
- 3 - 19 - 9 DeepLearning 技術を用いて設計した肺結節性状分析機能（性状分析・結果表示・所見文候補提示）を利用できること。
- 3 - 19 - 10 DeepLearning 技術を用いて設計した肋骨骨折検出機能をビューワ画面内で（別画面を起動せずに）利用できること。
- 3 - 19 - 11 DeepLearning 技術を用いて設計した肋骨骨折検出機能は、肋骨骨折の見逃し防止に効果があることが薬機法で認められている医療機器の機能であること。
- 3 - 19 - 12 頭部 CT 画像上で周辺組織と比較して高吸収/低吸収である領域を強調表示できること。
- 3 - 19 - 13 胸腔 CT 画像上で周辺組織と比較して高吸収である領域を強調表示できること。
- 3 - 19 - 14 別途導入予定の DeepLearning 技術を用いて設計した胸部 X 線画像病変検出機能を用いて胸部 X 線画像の異常所見が疑われる領域を表示できること。
- 3 - 19 - 15 別途導入予定の DeepLearning 技術を用いて設計した胸部 X 線画像病変検出機能の対象所見は、結節/腫瘍影、浸潤影、気胸に対応できること。
- 3 - 19 - 16 別途導入予定の DeepLearning 技術を用いて設計した胸部 X 線画像病変検出機能において、検出候補領域の確信度の存在可能性をヒートマップ表示（カラー表示）し、ビューワ画面内で（別画面を起動せずに）利用できること。
- 3 - 19 - 17 別途導入予定の DeepLearning 技術を用いて設計した胸部 X 線画像病変検出機能において、検出領域候補領域の確信度の最大値を数値表示できること。
- 3 - 19 - 18 胸部 X 線画像において、肺野および心臓の部位をラベリングできること。
- 3 - 19 - 19 胸部造影 CT 画像の肺動脈領域において、周辺組織と比較して低吸収領域を強調表示できること。
- 3 - 19 - 20 腹部造影 CT 画像の肝臓領域において、高吸収/低吸収領域のうち、均一/不均一な領域を強調表示できること。
- 3 - 19 - 21 腹部非造影 CT 画像の肝臓領域において、高吸収/低吸収領域のうち、均一/不均一な領域を強調表示できること。
- 3 - 19 - 22 腹部非造影 CT 画像の肝臓全体において、周辺組織と比較して低吸収領域を強調表示できること。
- 3 - 19 - 23 腹部造影 CT 画像の膵臓領域において、周辺組織と比較して低吸収領域を強調表示できること。
- 3 - 19 - 24 腹部造影 CT 画像の腎臓領域において、低吸収領域のうち、均一/不均一な領域を強調表示できること。
- 3 - 19 - 25 腹部非造影 CT 画像の腎臓領域において、周辺組織と比較して低吸収領域を強調表示できること。
- 3 - 19 - 26 腹部造影・非造影 CT 画像の副腎領域において、周辺組織と比較して高吸収/低吸収である領域を強調表示できること。
- 3 - 19 - 27 腹部造影 CT 画像の脾臓領域内において、周辺組織と比較して高吸収/低吸収領域を強調表示できること。

3	-	19	-	28	肺結節性状分析機能/肝臓性状分析機能で表示された所見文候補を選択して、レポートシステムにワンボタンで転記できること。また、転記する際に対象病変を中心としたキー画像をレポートシステムに同時に貼付けることができること。
3	-	19	-	29	DeepLearning技術を用いて設計した肺解析および石灰化スコアの結果をビューワ画面内で（別画面を起動せずに）表示できること。
3	-	19	-	30	DeepLearning 技術を用いて設計した臓器認識機能で認識された臓器に計測・アノテーションを付与した場合、および CAD/吸収値強調表示機能を参照した場合にテンプレート所見文を表示できること。
3	-	20			その他
3	-	20	-	1	当院職員と打ち合わせの上、必要な 4 個所の端末にマンモグラフィ機能を追加すること
4					DICOM 画像検像システム
4	-	1			DICOM 通信機能は以下の要件を満たすこと。
4	-	1	-	1	DICOM Storage SCP を使用した画像受信機能を有すること
4	-	1	-	2	DICOM Storage SCU を使用した画像送信機能を有すること
4	-	1	-	3	DICOM MWM SCU を使用した患者／検査情報取得機能を有すること
4	-	1	-	4	DICOM Q/R SCU を使用した画像検索および取得機能を有すること
4	-	1	-	5	DICOM Basic Grayscale Print Management (META) SCU を使用した画像印刷機能を有すること
4	-	2			検査表示機能は以下の要件を満たすこと。
4	-	2	-	1	受信した検査画像を検査／シリーズ単位で表示する機能を有すること
4	-	2	-	2	検査単位で患者情報、検査情報、滞留時間を表示する機能を有すること
4	-	2	-	3	シリーズ単位で送受信情報（受信成功、受信失敗、送信成功、送信失敗、送信待ち）、滞留時間、画像サムネイル、シリーズ情報、画像枚数、検査装置名、送受信時刻を表示する機能を有すること
4	-	2	-	4	検査リストを検索条件（患者 ID、AccessionNo、検査日付、検査装置名など）に基づいてフィルタリングする機能を有すること
4	-	2	-	5	頻繁に使用する検査リストの検索条件を、簡易検索としてプリセットする機能を有すること
4	-	2	-	6	検査表示順を検査受信時刻でソートする機能を有すること
4	-	2	-	7	シリーズ表示順をシリーズ No.、モダリティ、部位、シリーズ受信／送信時刻でソートする機能を有すること
4	-	3			画像修正機能は以下の要件を満たすこと。
4	-	3	-	1	同一検査内のシリーズを並び替える機能を有すること
4	-	3	-	2	同一検査内の 2 つ以上のシリーズを結合する機能を有すること
4	-	3	-	3	同一患者内の検査を跨いでシリーズを移動する機能を有すること
4	-	3	-	4	任意のシリーズを別検査として新規に作成する機能を有すること
4	-	3	-	5	シリーズ内の画像を 2 つ以上のシリーズに分割する機能を有すること
4	-	3	-	6	任意の画像を別シリーズとして新規に作成する機能を有すること
4	-	3	-	7	シリーズ番号／イメージ番号を再発番する機能を有すること
4	-	3	-	8	Study Instance UID／Series Instance UID／SOP Instance UID を再発番する機能を有すること

- 4 - 3 - 9 画像の並び順を自動／手動で修正する機能を有すること
- 4 - 3 - 10 患者 ID に対して施設 ID を自動で付与する機能を有すること
- 4 - 3 - 11 任意 DICOM タグを自動／手動で修正する機能を有すること
- 4 - 3 - 12 画像を上下・左右反転して保存する機能（CR/MG/SC のみ）を有すること
- 4 - 3 - 13 画像を回転して保存する機能（CR/MG/SC のみ）を有すること
- 4 - 3 - 14 画像ヘアノテーションを挿入して保存する機能（CR/MG/SC のみ）を有すること
- 4 - 3 - 15 画像を矩形やフリーハンドで塗りつぶして保存する機能（CR/MG/SC のみ）を有すること
- 4 - 3 - 16 画像を白黒反転して保存する機能を有すること
- 4 - 3 - 17 FCR 画像処理パラメータを手動で修正する機能を有すること
- 4 - 3 - 18 シリーズ内の画像を削除する機能を有すること
- 4 - 3 - 19 画像修正理由を入力する機能を有すること
- 4 - 4 画像修正機能は以下の要件を満たすこと。
- 4 - 4 - 1 シリーズ単位で画像を表示する機能を有すること
- 4 - 4 - 2 検査単位で画像を表示する機能を有すること
- 4 - 4 - 3 FCR 規格化済み画像を表示する機能を有すること
- 4 - 4 - 4 画像表示分割数を変更する機能を有すること
- 4 - 4 - 5 画像の W/L 値を変更する機能を有すること
- 4 - 4 - 6 画像の W/L 値を変更する際に、プリセットを利用する機能を有すること
- 4 - 4 - 7 画像を拡大／縮小する機能を有すること
- 4 - 4 - 8 画像をページングする機能を有すること
- 4 - 4 - 9 画像サムネイルを利用して画像並び順を変更する機能を有すること
- 4 - 4 - 10 任意 DICOM タグを利用して画像並び順を変更する機能を有すること
- 4 - 4 - 11 画像表示画面内で前後の検査および前後のシリーズを表示する機能を有すること
- 4 - 5 画像表示機能は以下の要件を満たすこと。
- 4 - 5 - 1 DICOM プリンタから画像を印刷する機能を有すること
- 4 - 5 - 2 ネットワークプリンターから画像を Windows 印刷する機能を有すること
- 4 - 5 - 3 印刷レイアウト（印刷方向、向き、縦横コマ数）を設定する機能を有すること
- 4 - 5 - 4 参照ライン（先頭、先頭と最後、すべて、n 枚間隔）を印刷する機能を有すること
- 4 - 5 - 5 印刷文字情報を設定する機能を有すること
- 4 - 5 - 6 画像サムネイルを利用して並び順を変更する機能を有すること
- 4 - 5 - 7 空欄コマを挿入する機能を有すること
- 4 - 5 - 8 コマを削除する機能を有すること
- 4 - 6 MWM 機能は以下の要件を満たすこと。
- 4 - 6 - 1 患者 ID などをキーにして MWM サーバーから患者／検査情報を取得する機能を有すること
- 4 - 6 - 2 MWM サーバーから取得した患者／検査情報を受信した画像に反映・保存する機能を有すること
- 4 - 6 - 3 汎用画像取り込み時に MWM サーバーからの検索結果を反映・保存する機能を有すること
- 4 - 7 依頼情報表示機能は以下の要件を満たすこと。

- 4 - 7 - 1 オーダー番号をキーにしてレポーティングシステム (Result Manager) 内で管理されている依頼／実施情報を表示する機能を有すること
- 4 - 7 - 2 オーダー番号をキーにして放射線情報システム (F-RIS) 内で管理されている依頼／実施情報を表示する機能を有すること
- 4 - 8 画像送信機能は以下の要件を満たすこと。
- 4 - 8 - 1 転送先サーバーを指定して自動／手動で画像を送信する機能（複数サーバーも可能）を有すること
- 4 - 8 - 2 検査装置ごとに転送先サーバーを指定する機能を有すること
- 4 - 8 - 3 自動画像送信時に滞留時間を指定する機能を有すること
- 4 - 8 - 4 画像送信時に、新規検査／シリーズ／画像 (Study／Series／SOP Instance UID を再発番) として送信する機能を有すること
- 4 - 8 - 5 送信時刻を指定する機能を有すること
- 4 - 8 - 6 送信失敗時に自動で再送する回数を設定する機能を有すること
- 4 - 8 - 7 検査装置の AE 名を使用して画像を送信する機能を有すること
- 4 - 8 - 8 FCR 画像を Standard CR に変換して送信する機能を有すること
- 4 - 9 画像取込機能は以下の要件を満たすこと。
- 4 - 9 - 1 患者 ID などをキーにして DICOM サーバーを検索し、画像を取得する機能を有すること
- 4 - 9 - 2 画像を受信した際に、指定した DICOM サーバーから過去画像を自動で取得する機能を有すること
- 4 - 9 - 3 検査情報が指定された XML ファイルを読み込み、DICOM サーバーから自動で画像を取得する機能を有すること
- 4 - 9 - 4 DVD／CD などのメディアから DICOM 画像を取り込む機能を有すること
- 4 - 9 - 5 DVD／CD などのメディアから DICOM 画像を取り込む際に、患者 ID に対して施設 ID を付与する機能を有すること
- 4 - 9 - 6 DVD／CD などのメディアから DICOM 画像を取り込む際に、CSV ファイルを指定して任意 DICOM タグを修正する機能を有すること
- 4 - 9 - 7 DVD／CD などのメディアから汎用画像を取り込む機能を有すること
- 4 - 10 画像出力機能は以下の要件を満たすこと。
- 4 - 10 - 1 DICOM 画像を DICOM DIR 形式にて出力する機能を有すること
- 4 - 10 - 2 DICOM 画像を DICOM DIR 形式にて出力する際に、簡易ビューアを添付する／しないを選択する機能を有すること
- 4 - 10 - 3 DICOM 画像を汎用画像に変換して出力する機能を有すること
- 4 - 11 画像削除機能は以下の要件を満たすこと。
- 4 - 11 - 1 画像を検査／シリーズ単位に手動で削除する機能を有すること
- 4 - 11 - 2 送信が成功した画像を自動で削除する機能を有すること
- 4 - 11 - 3 自動削除される画像を保護する機能を有すること
- 4 - 12 セキュリティ管理機能は以下の要件を満たすこと。
- 4 - 12 - 1 ユーザー情報やユーザー権限を管理する機能を有すること
- 4 - 12 - 2 マルチユーザーにて使用する機能（同じ画像を操作できないよう、ユーザーごとにキューを設定）を有すること
- 4 - 12 - 3 画像受信／送信ログを保存する機能を有すること

4	-	12	-	4	操作ログ（受信、送信、インポート、削除、データ変更、印刷）を保存、検索、エクスポートする機能を有すること
4	-	13			クライアントハードウェア
					専用クライアントは以下仕様を満たすこと。
					・OS : Windows 10 IoT Enterprise LTSC 2021 Value 以上
4	-	13	-	1	・CPU : Intel(R) Core(TM) i5-13500 (14C/2.50GHz/24M) 以上
					・主記憶容量 : 8GB 以上
					・磁気ディスク容量 : 512GB SSD (M.2 NVMe PCIe TLC) 以上
4	-	13	-	2	検像専用端末は2台有すること
5					放射線部門システム
5	-	1			サーバハードウェア
5	-	1	-	1	OSはMicrosoft Windows Server 2022 Standardで動作すること。
5	-	1	-	2	CPUはIntel Xeon Silver 4110 [2.1GHz] (Intel Xeon プロセッサ 2.1GHz, 8コア/16スレッド, 11MB キャッシュ) × 2CPU 以上であること。
5	-	1	-	3	主記憶容量は24GB 以上であること。
5	-	1	-	4	磁気ディスク容量は1.2TB 以上でRAID5 構成であること。
5	-	1	-	5	モニタの解像度はSXGA 以上であること。
					放射線情報システム、放射線レポートシステム、放射線治療管理システムが同じ
5	-	1	-	6	社の同じバージョンの製品であれば、3システムを1台のサーバで運用できること。
5	-	2			クライアントハードウェア
5	-	2	-	1	OSはWindows 10, 11で動作すること。FCR/DR コンソール一体化機能に関してはOSはWindows 10 (x64)で動作すること。
5	-	2	-	2	CPUはIntel Core i5-4570S [2.90GHz] (Intel Core i5 プロセッサ 2.90GHz, 4コア/4スレッド, 6MB キャッシュ) 以上であること。
5	-	2	-	3	主記憶容量は8GB 以上であること。
5	-	2	-	4	磁気ディスク容量は256GB 以上であること。
5	-	2	-	5	モニタのインチサイズは17インチ以上、解像度はSXGA 以上であること。
5	-	2	-	6	必要に応じてMicrosoft Office(Excel、Word)をインストールすること。
					RIS 専用端末は以下構成であること。
					・ノート PC : 4台 (うち1台はFPD コンソールとして使用)
					・デスクトップ PC (カラーモニタ 21.5インチカラー1面) : 23台 (2F 乳腺外来含む)
5	-	2	-	7	・デスクトップ PC (カラーモニタ 21.5インチカラー2面) : 3台
					・デスクトップ PC (タッチモニタ 21.5インチカラー1面) : 10台
					・バーコードリーダー (有線) : 4式
					・バーコードリーダー (無線) : 8式
					・磁気カードリーダー : 21台
5	-	3			セキュリティ
5	-	3	-	1	パスワードは画面上ではアスタリスク等の代替文字で表示されていること。
5	-	3	-	2	パスワードは設定によりハッシュ化されて保存できること。
5	-	3	-	3	一定時間、システムが使用されていない場合、オートログアウト機能により自動

的にログアウトしてシステムをロックできること。

- 5 - 3 - 4 ロックされた画面ではパスワードの再入力によるロックの解除、あるいは強制終了の選択ができること。
- 5 - 3 - 5 使用可能な機能はログインユーザの権限に応じて制御されること。
- 5 - 4 アカウント管理機能
- 5 - 4 - 1 ID とパスワードによりユーザ認証が行われること。
- 5 - 4 - 2 ログインユーザの権限により使用できる機能が制限されること。
- 5 - 4 - 3 同一権限のユーザであれば画面の状態を保持したままユーザの切り替えを行えること。
- 5 - 4 - 4 他システムから ID とパスワードを引き継いで起動できること。
- 5 - 5 監査証跡機能
- 5 - 5 - 1 ユーザー操作の履歴を操作ログとして保存できること。
- 5 - 5 - 2 権限をもつユーザのみが操作ログを参照できること。
- 5 - 5 - 3 本システムの利用状況（利用主体別アクセス状況、利用時間等）を月次で報告出来ること。
- 5 - 5 - 4 クライアントに出力されたログファイルは古くなると圧縮されること。
- 5 - 5 - 5 クライアントで発生した予期せぬエラーはイベントログテーブルに出力されること。
- 5 - 5 - 6 検査実施情報の更新履歴が保存され、必要に応じて更新前と更新後の内容を照合できること。
- 5 - 6 操作機能
- 5 - 6 - 1 各画面にてキーボードショートカットをサポートできること。
- 5 - 7 他システム連携機能
- 5 - 7 - 1 診断画像を参照するため、PACS の画像ビューアを起動できること。
- 5 - 7 - 2 自社、他社を問わず、レポートを参照できること。
- 5 - 7 - 3 URL 呼出や実行ファイル起動等により、他システムの参照機能を起動するボタンを設定にて各画面に追加できること。
- 5 - 8 検索条件リスト機能
- 5 - 8 - 1 用途に応じた検索条件や表示項目がタブとして管理され、複数のタブを一つの画面に表示できること。タブの表示順序は変更できること。
- 5 - 8 - 2 検索条件、表示リストの項目は端末毎、タブ毎に初期値の設定ができること。
- 5 - 8 - 3 指定された検索条件の中で、一時的に変更したい条件はフィルタ条件としてタブに表示でき、画面を閉じること無く初期値に戻せること。
- 5 - 8 - 4 検索条件は一時的に変更を行うことが多い条件は常に表示し、頻度の少ない条件は非表示とできること。非表示の検索条件も簡単な操作で表示できること。
- 5 - 8 - 5 リスト項目は名前やアイコンを付加することができ、ユーザ毎、ユーザーグループ毎に管理することができ、検索条件の初期値やリスト表示項目等の編集が指定ができること。
- 5 - 8 - 6 検索条件は連動絞込ができること。検査種で選択すると、検査室や検査項目が当該検査種のもののみに絞り込まれること。
- 5 - 8 - 7 検査項目等の選択肢の多い検索項目には、検索ボックスを用意し、フリーワード検索による部分一致での絞り込みができること。

- 5 - 8 - 8 画面起動時には、初期表示タブの指定ができること。
- 5 - 8 - 9 タブの指定は権限を持つユーザであれば他の端末についても一括で設定できること。
リスト表示項目の詳細では以下を指定できること。
- 5 - 8 - 10 ・リスト出力項目 ・タイトル ・順序 ・日付、時刻フォーマット
・配置方向 ・幅 ・フォント名、サイズ
- 5 - 8 - 11 リスト表示項目の順序、幅はリスト上での変更をそのまま設定値として反映できること。
リスト表示に於ける詳細設定では以下を指定できること。
 - ・タブ切り替え時の検索実行の有無
 - ・自動更新ボタン表示有無と初期有効可否と更新間隔
 - ・検索条件の自動初期化有無と自動初期化発動時間
 - ・固定列有無と列数
- 5 - 8 - 12 ・最終検索時刻の表示有無
・検索結果件数表示有無
・行罫線と列罫線の表示有無
・行番号表示有無
・行背景色（単色、ストライプ、ステータス依存）
・ソート順
- 5 - 8 - 13 依頼医や実施者で検索できること。また検索項目はシステム導入時に当院職員と協議の上、必要に応じて追加すること。
- 5 - 9 コメント入力機能
- 5 - 9 - 1 コメントはフリー入力に加えてコメントパターンからの入力ができること。
- 5 - 9 - 2 コメントパターンの編集は、コメント入力可能なユーザであればコメント入力欄から容易にコメントパターン編集画面を呼び出しできること。
- 5 - 9 - 3 コメントパターンはフォルダでの分類管理ができること。
- 5 - 10 その他
- 5 - 10 - 1 現在運用中の放射線情報システムのデータを移行すること。また移行元の移行費用も含めること。
- 5 - 10 - 2 日本国内において 250 施設以上の導入実績があること。
また、500 床以上の施設への導入実績が 30 施設以上あること。
- 5 - 10 - 3 東京都内に 1 次サポート拠点があり、当院へサービス技術員を派遣できる体制を確保していること。
- 5 - 11 患者情報管理機能
- 5 - 11 - 1 専用の画面にて患者番号、患者氏名などの患者基本情報の新規登録および変更ができること。
患者プロフィール情報として、以下のような項目を電子カルテと連携もしくは手入力できること。また患者プロフィールとして管理できる項目は追加や変更ができること。
- 5 - 11 - 2 看護区分、患者区分、救護区分、障害情報、感染情報、禁忌情報、
妊娠状態、死亡退院、体内金属、クレアチニン値等の血液データ、eGFR など

5	-	11	-	3	患者プロフィール情報については電子カルテシステムから取得するものと放射線情報システムで登録するものなどの管理ができること。またその更新日時を保持できること。
5	-	11	-	4	最新の患者プロフィール情報をユーザが任意で取得し、画面に反映できること。詳細は他システムベンダーと調整を行うこと。
5	-	11	-	5	患者プロフィール情報のうち、放射線情報システムで変更可能なものは各画面から更新できること。
5	-	11	-	6	患者に付随するコメントの入力ができること。コメントは種別毎に管理ができ、患者に永続的に付随するもの、特定の日付に付随するもの、特定の検査種に付随するものの入力、管理ができること。
5	-	11	-	7	コメントはフリー入力に加えて定型コメントからの入力ができること。
5	-	11	-	8	定型コメントの編集は、コメント入力可能なユーザであれば定型コメント選択欄から容易にできること。
5	-	11	-	9	上記の患者に関する情報を各画面で表示できること。
5	-	11	-	10	患者は、患者カナ名、病棟、診療科等の条件により検索できること。
5	-	12			入外情報管理機能
5	-	12	-	1	患者の病棟名、室名、ベッド番号を入外情報として登録および参照ができること。
5	-	12	-	2	入外情報は、現時点の最新の情報、検査予定時点の予定情報、検査実施時の情報をそれぞれ管理できること。
5	-	13			死亡患者管理機能
5	-	13	-	1	死亡した患者は死亡日の入力が可能であり死亡したことがわかる「★」などのマークがリストに表示されること。また、死亡した患者の年齢表示は死亡時の年齢に置き換えられること。
5	-	14			造影剤副作用機能
5	-	14	-	1	造影剤の副作用について、造影剤名、副作用の症状やコメントなどを登録できること。
5	-	15			個人情報保護機能
5	-	15	-	1	氏名をコールしてはならない患者であることが登録できること。この場合、呼び出し用の氏名を登録できること。
5	-	16			RIS オーダ情報管理機能
5	-	16	-	1	専用の画面によりオーダ情報の登録ができること。
5	-	16	-	2	放射線情報システムにて登録したオーダ情報の変更、削除ができること。
5	-	17			受付機能
5	-	17	-	1	専用の画面により検査を検索してリスト表示を行い、検査の受付ができること。
5	-	17	-	2	上記、大項目「全般」の小項目「検索条件リスト」に対応していること。
5	-	17	-	3	検索条件としては、検査依頼状況、患者番号、患者カナ名、検査予定日、検査種、依頼科、入外区分、病棟等が使用できること。
5	-	17	-	4	当直時間帯での検索ができること。
5	-	17	-	5	検査日未定として登録されたオーダについて、その表示可否を指定できること。

受付リストには以下の項目が表示できること。

検査依頼状況、患者番号、患者名、性別、検査時年齢、患者プロフィール情報、その他の患者付随情報、呼び出し状況、呼び出し日時、受付日時、検査予定日時、検査日時、検査種、検査項目、検査室、依頼科、依頼医、その他の検査付随情報（カルテや造影剤等の検査に必要なものの事前チェック等の使用を想定）、患者コメント、当日コメント、緊急区分、救急区分、読影区分

受付画面では検索とリスト部分以外に、以下の情報が同一画面にまとまって表示され、リストの行を選択するだけでその情報を参照できること。

- ・受け付けた検査の検査順（患者ナビ）
- ・当該患者の当日の他の検査の一覧

さらに、以下の情報も同一画面にまとまって表示され、リストの行を選択するだけでその情報を参照できること。ただし、これらの情報は端末毎またはユーザー毎の権限により使い勝手が良いように自由に位置や表示・非表示を切り替えられること。

- ・当該検査の患者情報
- ・当該検査のオーダ詳細・レポート参照
- ・検索条件範囲外の該当患者のオーダ情報（検査歴／予定）
- ・検査担当者への連絡のために当日のみ有効な患者コメント（当日コメント）

患者番号が不明な場合、患者を検索する機能呼び出せること。

入院患者について、検査のための出診依頼の連絡を行ったかどうかの呼出状況をリスト上にて入力できること。この時、呼出時間も記録されること。

優先的に検査を行う必要がある患者の場合、通常受付とは区別として優先受付を行えること。

受付時、受付番号を発番すること。受付番号は、部門全体で日毎の連番、あるいは日毎かつ検査種毎の連番を設定にて指定できること。

受付処理は、単一患者を選択しての受付、あるいは複数の患者を一括で受付できること。

受付時、検査項目毎に検査室が割り振られること。割り振られる検査室は年齢区分により異なる検査室を設定できること。

複数の検査を同時に受け付けた場合、検査室に対して自動で順序付けを行えること。順序付けを行うか否かは設定により指定できること。

受付時、設定により受付票、依頼票、フィルム袋ラベルが自動で出力できること。

出力するか否かは設定により変更できること。また、これらの帳票は手動にて再出力できること。また、受付にラベルプリンター1台有すること。

検査日未定として登録されたオーダを受付ける場合には、現在日時を検査日時として確定できること。

割り振られた検査室、検査順は手動にて変更できること。

受付済の検査の受付取消を行えること。この時、同時に受け付けた複数のオーダにて、一部のオーダが一時保存、実施済であっても未実施のオーダの受付取消ができること。

患者番号は、磁気カードやバーコードでの読み取り、または、手入力により指定できること。

- 5 - 17 - 21 患者番号の入力から検査の検索はバーコードで行うことができ、受付までの一連の操作もバーコードのみで実施できること。
- 受付処理を行う際に、警告メッセージとして以下のような状況の場合に、多彩な文字表現で注意を促す画面を表示できること。
- 5 - 17 - 22
- ・当該検査と同じ患者・同じ日の他の検査（他検査）がある場合
 - ・体内金属がある場合
 - ・既知の強い造影剤副作用がある場合
 - ・患者プロフィールに基づく感染症がある場合や重篤な腎機能障害等がある場合
- 5 - 17 - 23 受付時に当日検査と直近検査間の禁則チェックを行えること。
- 禁則チェックの条件は専用の設定画面にてユーザ自身で設定できること。チェックの条件は警告レベルの指定が可能で、最も高い警告レベルのチェック条件に該当した場合には受付処理不可にできること。
- 5 - 17 - 24
- 5 - 17 - 25 患者の呼び出し状況を一括で変更できること。
- 5 - 17 - 26 当日以外のオーダを受付するときにアラートを表示し、受付する/しないを確認できること。
- 5 - 18 検査ワークリスト機能
- 5 - 18 - 1 専用の画面により検査対象のワークリストを表示できること。
- 5 - 18 - 2 上記、大項目「全般」の小項目「検索条件リスト」に対応していること。
- 検索条件としては、検査状況、患者番号、検査日（日未定含むか否か、当直時間帯か否かの指定も含む）、検査種、依頼科、入外区分、病棟、その他の検査付随情報、検査項目、検査室、PACS 画像状況、検像状況、オーダ発行日、呼び出し状況を指定できること。
- 5 - 18 - 3
- 5 - 18 - 4 患者カナ名、病棟、診療科等で患者を検索して特定できること。
- リストには、患者情報、その他の患者付随情報、検査依頼情報、検査実施情報、その他の検査付随情報、各種コメント類（検査指示事項などを含む）、レポート状況、会計状況、受付してから待ち時間、呼び出し状況、呼出時間などの表示ができること。
- 5 - 18 - 5
- 5 - 18 - 6 同月の複数回検査で、2回目以降の診療報酬点数が低くなる検査をリスト上で把握できること。
- 5 - 18 - 7 検査の順序付けを行っている場合、検査前後の情報が視覚的にわかること。
- 選択中のオーダに対して、対象患者を検査室に呼び込む際に検査室確定の操作を行うことにより、当該検査室で検査を開始することを明示的に確認できること。
- 5 - 18 - 8 また、他の検査室で検査を開始する際にはワーニングが表示できること。
- 5 - 18 - 9 入院患者について、検査のための出診依頼の連絡を行ったかどうかの呼出状況をリスト上にて入力できること。この時、呼出時間も記録されること。

検査ワークリスト画面では検索とリスト部分以外に、以下の情報が同一画面にまとまって表示され、リストの行を選択するだけでその情報を参照できること。ただし、これらの情報は端末毎またはユーザー毎の権限により使い勝手が良いように自由に位置や表示・非表示を切り替えられること。

- ・当該検査の患者情報

5 - 18 - 10

- ・当該検査のオーダ詳細・レポート参照

- ・当該検査の同じ患者・同じ日の他の検査の一覧（他検査）

- ・検査担当者への連絡のために当日のみ有効な患者コメント（当日コメント）

- ・RIS オーダコメント（検査時コメント、読影医へのコメント、依頼医へのコメント）

- ・会計情報（物品手技加算情報）

5 - 18 - 11

選択行のオーダに対して、検査実施画面に遷移できること。

5 - 18 - 12

設定により、未受付の検査を選択して検査実施画面へ遷移できること。

5 - 18 - 13

検査実施画面への展開時、同じ受付番号をもつオーダを同時に展開する場合と、個々に展開する場合とを切り替えられること。

5 - 18 - 14

バーコード入力により入力された患者番号をもとに検索を行い、オーダが存在した場合、自動的に検査実施画面に遷移すること。この場合、検索結果が複数オーダの場合でも遷移すること。

5 - 18 - 15

検査実施画面へ遷移する際に、設定により、検査実施画面に遷移する前に検査実施者の認証チェックを行い、権限のないユーザの場合、検査実施画面に遷移することができないこと。

5 - 18 - 16

検査実施画面から戻った際に、検索条件に患者番号が含まれている場合は患者番号をクリアして再検索できること。

5 - 18 - 17

他端末にて同一検査の検査実施の画面が開かれている場合、メッセージが表示されて開くことができないように制御できること。

5 - 18 - 18

選択行のオーダに対して、オーダの内容修正ができること。このとき、上位システムで発行したオーダは変更できないように制限をかけることもできること。

5 - 18 - 19

選択行のオーダに対して、検査室の変更ができること。

5 - 18 - 20

選択用のオーダに対して、受付処理、一括受付処理、受付取り消し処理、一括受付取り消し処理が別画面に遷移することなく実行できること。

5 - 18 - 21

選択行のオーダに対して画像システムを呼び出しできること。

5 - 18 - 22

選択行のオーダに対して他システムを呼び出しできること。

5 - 18 - 23

選択行のオーダのレポート作成を開始できること。

5 - 18 - 24

選択行のオーダに対して、モダリティに MWM にて情報送信できること。

5 - 18 - 25

選択行のオーダに対して、実施前であっても会計情報（物品手技加算情報）の登録できること。

5 - 18 - 26

選択行のオーダの患者の検査歴/検査予定のリストを参照できること。

受付処理を行う際に、警告メッセージとして以下のような状況の場合に、多彩な文字表現で注意を促す画面を表示すること。

5 - 18 - 27

- ・当該検査と同じ患者・同じ日の他の検査（他検査）がある場合

- ・体内金属がある場合

- ・既知の強い造影剤副作用がある場合

・患者プロフィールに基づく感染症がある場合や重篤な腎機能障害等がある場合

- 5 - 18 - 28 受付時に当日検査と直近検査間の禁則チェックを行えること。
禁則チェックの条件は専用の設定画面にてユーザ自身で設定できること。チェック
- 5 - 18 - 29 クの条件は警告レベルの指定が可能で、最も高い警告レベルのチェック条件に該当した場合には受付処理不可にできること。
受付時、自動で受付票、依頼表、フィルム袋ラベルの出力ができること。出力する
- 5 - 18 - 30 かどうかは設定により変更できること。
- 5 - 18 - 31 受付票、依頼表、フィルム袋ラベル、会計伝票を手動で再出力できること。
検査実施画面へ遷移する際に、警告メッセージとして以下のような状況の場合に、多彩な文字表現で注意を促す画面を表示すること。
 - ・検査ワークリスト内に同姓同名もしくは同姓患者が存在する場合
 - ・当該検査と同じ患者・同じ日の他の検査（他検査）がある場合
 - 5 - 18 - 32 ・体内金属がある場合
 - ・既知の強い造影剤副作用がある場合
 - ・患者プロフィールに基づく感染症がある場合や重篤な腎機能障害等がある場合
 - ・受付から設定した時間以上待たせてる場合
- 5 - 18 - 33 検査実施画面へ遷移する際に、検査開始時の確認ミスを防ぐための検査開始時チェックを行えること。
検査開始時チェックの条件は専用の設定画面にてユーザ自身で設定できること。
- 5 - 18 - 34 チェックの条件は警告レベルの指定が可能で、最も高い警告レベルのチェック条件に該当した場合には検査開始に進むことができないようにできること。
- 5 - 18 - 35 ユーザーが作成した検査項目に紐づくマニュアル参照ができること。
- 5 - 18 - 36 検査ワークリストと検査実施画面を同時に表示でき、次患者の検査情報が参照できること。
- 5 - 18 - 37 オーダの新規登録ができること。
- 5 - 18 - 38 患者の呼び出し状況を一括で変更できること。
- 5 - 18 - 39 造影検査時に行うルート確保の状況、ルート確保日時、ルート確保者の登録を行えること。
- 5 - 19 検査実施機能
- 5 - 19 - 1 専用の画面により、検査の実施に必要な情報の参照、実施結果の入力ができること。
検査実施画面では、以下の情報の入力・保存ができること。
検査実施日時、検査装置、検査室、実施者（技師・施行医・看護師）、読影要否、
- 5 - 19 - 2 会計モード（会計情報送付有無の指定）、紹介病院、紹介者、実施時間帯区分、検査内容詳細（検査項目、検査詳細項目、検査条件・検査プロトコルなど）、RIS
オーダーコメント（検査時コメント、読影医へのコメント、依頼医へのコメント）、会計情報（使用薬剤、フィルム、手技、加算等）

検査実施画面では以下の情報が同一画面にまとまって表示され、これらの情報は端末毎またはユーザー毎の権限で自由に表示位置や表示・非表示を切り替えられること。

- ・当該検査の患者情報
- ・当該検査と同じ患者・同じ日の他の検査の一覧（他検査）
- ・検査担当者への連絡のために当日のみ有効な患者コメント（当日コメント）
- ・受け付けた検査の検査順（患者ナビ）
- ・当該検査のオーダ詳細・レポート参照
- ・RIS オーダコメント（検査時コメント、読影医へのコメント、依頼医へのコメント）
- ・会計情報（物品手技加算情報）
- ・該当患者の全オーダ情報（検査歴／予定）
- ・実施記録（実施者や検査室）
- ・検査内容詳細（検査種、検査項目、部位、検査詳細、検査詳細条件などのリスト）

5 - 19 - 3

5 - 19 - 4

実施時間帯区分が検査実施画面表示時にセットできること。また、時間帯区分は祝祭日や曜日ごとの診療時間の違いが考慮されていること。

5 - 19 - 5

実施者・施行医・看護師は設定で入力可能な人数の指定が行え、また、直前の検査での入力内容をデフォルト値とするか否かを設定にて指定できること。

5 - 19 - 6

検査室は、受付時に決定した検査室、端末ごとのデフォルト検査室、直前の検査室のいずれかの指定を設定にて指定できること。

5 - 19 - 7

検査項目には部位の判別を容易にするため、部位のイメージ画像を表示できること。

5 - 19 - 8

検査項目の中止ができること。

5 - 19 - 9

検査項目の変更および追加ができること。

5 - 19 - 10

未検査の検査項目に対してデフォルトとして設定されている検査条件、会計情報（物品、手技、加算等）が初期値として表示できること。

5 - 19 - 11

デフォルトの検査条件は検査種、検査室、検査詳細項目、年齢、性別ごとに設定できること。

5 - 19 - 12

デフォルトの会計情報は検査種、検査室、検査項目、年齢、性別ごとに設定できること。

5 - 19 - 13

デフォルトの使用物品のセットを作成でき、実施時にセットを選択することにより会計情報（物品手技加算情報）の一括入力ができること。このセットは検査種毎あるいは共通のものに分類できること。

5 - 19 - 14

検査実施画面から、デフォルト会計情報（物品手技加算情報）マスタメンテ機能呼び出すことができ、値を登録できること。

5 - 19 - 15

検査実施画面から、会計情報（物品手技加算情報）セットマスタ編集を呼び出すことができ、値を登録できること。

5 - 19 - 16

検査実施画面から、デフォルト検査詳細条件メンテ機能呼び出すことができ、値を登録できること。

5 - 19 - 17

検査条件・検査プロトコルの入力とは別ウィンドウを表示することなく、表示されているエリアに直接入力できること。

- 5 - 19 - 18 検査条件・検査プロトコルの入力は一連の入力操作をキーボードのみで行えること。
- 5 - 19 - 19 会計情報の入力は一覧から自由に選択でき、一覧として表示される順番は初期値を設定・変更ができること。
- 5 - 19 - 20 会計情報の数量の入力はインライン入力ができること。
- 5 - 19 - 21 会計情報の項目は、フィルム・薬剤・造影剤・手技・材料・放射性医薬品といった分類から選択可能で、名称による絞り込みができること。
- 5 - 19 - 22 会計情報のバーコード入力ができること。また、GS1-128 形式のバーコードにも対応し、ロット番号と有効期限を取り込みできること。
- 5 - 19 - 23 写損が発生した場合、写損回数および写損理由を入力できること。写損理由に関しては選択入力できること。
- 5 - 19 - 24 入力中のオーダの過去の検査情報（検査情報、検査詳細条件、各種コメント、読影レポート）の参照ができること。
- 5 - 19 - 25 過去の検査から管電流などの検査詳細条件のコピーができること。
- 5 - 19 - 26 入力中のオーダの患者の過去の検査画像やレポートを参照できること。
- 5 - 19 - 27 患者の年齢を小児・大人などの分類に分けることができ、分類幅および分類自体も設定変更できること。
- 5 - 19 - 28 入力中の会計情報（物品手技加算情報）は当該画面で入力されている全てが一覧で表示できること。
- 5 - 19 - 29 検査実施画面で開いている検査の患者が、検査室に呼び込んだ患者と同一であることを確認できること。
- 5 - 19 - 30 検査実施完了時に未実施の検査が存在する場合、自動的に実施済で保存される動作と、検査完了ボタンが押せないような制御を行う動作を設定にて切替できること。
- 5 - 19 - 31 造影検査かどうかに応じて、造影検査で造影剤が使用されていない際や、単純検査で造影剤が使用されている際にワーニングが表示されること。
- 5 - 19 - 32 検査実施完了時に、検査完了時の確認ミスを防ぐための検査完了時チェックを行えること。
- （検査実施完了後に保留に戻し検査を再開可能な場合には加点として評価する）
検査完了時チェックの条件は専用の設定画面にてユーザ自身で設定できること。
- 5 - 19 - 33 チェックの条件は警告レベルの指定が可能で、最も高い警告レベルのチェック条件に該当した場合には検査完了ができないようにできること。
- 5 - 19 - 34 検査完了時に未実施の他検査がある場合に注意喚起のアラートを表示できること。
- 5 - 19 - 35 入力した内容を一時的に保存し、検査実施画面を閉じられること。
- 5 - 19 - 36 入力中のオーダに対して他システムを呼び出せること。
- 5 - 19 - 37 ユーザーが作成した検査項目に紐づくマニュアルの参照ができること。
- 5 - 19 - 38 検査詳細条件は検査種毎に項目を管理できること。
- 5 - 19 - 39 検査実施完了後、自動でフィルム袋ラベル、会計伝票の出力ができること。出力するか否かは設定により変更できること。
- 5 - 19 - 40 （削除）

- 5 - 20 核医学検査実施機能
- 5 - 20 - 1 RI 検査では、使用した放射性医薬品を選択し、会計のための請求量、記録簿用途の使用量、残量、投与日付、投与時刻の入力ができること。
- 5 - 20 - 2 複数検査が有る場合には次検査の日付、時間を入力し変更できること。
検査実施時に選択できる放射性医薬品やデフォルト値は、他の物品等と同様にマスタに登録されている放射性医薬品全てが指定可能で、デフォルト薬品やその値も他の物品等と同様に定義したものが表示できること。
- 5 - 20 - 3 核医学装置で吸収補正 CT を実施した場合、RRDSR その他の方法で線量管理ができる機能を有すること。
(MPPS でも受け取り可能な場合には加点として評価する)
- 5 - 21 検査実施 (修正)
- 5 - 21 - 1 実施済の検査の実施情報を修正できること。
- 5 - 21 - 2 修正した実施情報を外部システムに送信を行うか否かを画面上で選択できること。
- 5 - 22 富士フイルムモバイルコンソール連携
富士フイルムモバイルコンソールと同一筐体でシームレスに検査業務を行えること。
- 5 - 22 - 1 検査開始時にはコンソールに対して患者属性および検査情報を送信でき、検査後はコンソールより実施条件、ショット数を取得し画面に反映できること。
- 5 - 22 - 2 富士フイルムコンソール版と同等の検査業務ができること。
放射線情報システムサーバーと常時接続している必要がなく、接続可能な状況で
- 5 - 22 - 3 同期処理 (放射線情報システムからの検査情報の取り込み、および放射線情報システムへの実施結果の送信) を行えること。無線 LAN 環境下でも動作できること。
- 5 - 23 検査照会機能
- 5 - 23 - 1 専用の画面により検索条件を指定して用途に応じた検査の検索ができること。
- 5 - 23 - 2 上記、大項目「全般」の小項目「検索条件リスト」に対応していること。
検索条件としては、検査依頼状況、患者番号、検査種、依頼科、入外区分、病棟、検査項目、検査室、検像状況、オーダー発行日、呼び出し状況、検査予定日、検査日 (日未定含むか否か、当直時間帯か否かの指定も含む)、実施者、施行医、看護師、その他の検査付随情報を指定できること。
- 5 - 23 - 3 患者カナ名、病棟、診療科等で患者を検索して特定できること。
- 5 - 23 - 4 リストには、患者情報、その他の患者付随情報、検査依頼情報、検査実施情報、その他の検査付随情報、各種コメント類、レポート状況、会計状況などの表示ができること。
- 5 - 23 - 5 同月に検査を行うことにより診療報酬の点数が低くなる検査の依頼が存在することがリスト上に表示されること。
- 5 - 23 - 6 検査照会画面では検索とリスト部分以外に、以下の情報も同一画面にまとめて表示され、リストの行を選択するだけでその情報を参照できること。ただし、これらの情報は端末毎またはユーザー毎の権限により使い勝手が良いように自由に位置や表示・非表示を切り替えられること。
- 5 - 23 - 7
 - ・当該検査の患者情報
 - ・当該検査のオーダー詳細・レポート参照

・RIS オーダコメント（検査時コメント、読影医へのコメント、依頼医へのコメント）

・検査担当者への連絡のために当日のみ有効な患者コメント（当日コメント）

- | | | | | | |
|---|---|----|---|----|--|
| 5 | - | 23 | - | 8 | 検査実施情報の修正機能呼び出しできること。 |
| 5 | - | 23 | - | 9 | 選択行のオーダに対して画像システムを呼び出しできること。 |
| 5 | - | 23 | - | 10 | 選択行のオーダに対して他システムを呼び出しできること。 |
| 5 | - | 23 | - | 11 | 選択行のオーダに対して、患者コメント、当日コメント、RIS オーダコメント（検査時コメント、読影医へのコメント、依頼医へのコメント）の表示、入力ができること。 |
| 5 | - | 23 | - | 12 | 選択行のオーダに対して、フィルム袋ラベル、会計伝票の出力ができること。 |
| 5 | - | 23 | - | 13 | 選択行のオーダの患者の検査歴/検査予定を参照できること。 |
| 5 | - | 24 | | | 検査指示機能 |
| 5 | - | 24 | - | 1 | 専用の画面により、検索条件に従って検査の一覧を表示し、選択した検査に対して検査指示を入力できること。 |
| 5 | - | 24 | - | 2 | 検査指示の内容としては、テキストとシェーマ画像が使用できること。 |
| 5 | - | 24 | - | 3 | 上記、大項目「全般」の小項目「検索条件リスト」に対応していること。 |
| 5 | - | 24 | - | 4 | 検査指示画面では検索とリスト部分以外に、検査指示テキスト入力が同一画面にまとまって表示され、リストの行を選択するだけでその情報を参照できること。
さらに、以下の情報も同一画面にまとまって表示され、リストの行を選択するだけでその情報を参照できること。ただし、これらの情報は端末毎またはユーザー毎の権限により使い勝手が良いように自由に位置や表示・非表示を切り替えできること。 |
| 5 | - | 24 | - | 5 | ・当該検査の患者情報
・当該検査のオーダ詳細・レポート参照
・検索条件範囲外の該当患者のオーダ情報（検査歴／予定）
・シェーマ画像入力 |
| 5 | - | 24 | - | 6 | テキスト情報は、フリー入力に加えて、定型テキスト（共通、検査種別）の使用や検査履歴からのコピーができること。 |
| 5 | - | 24 | - | 7 | シェーマ画像については以下の機能が使用できること。 |
| 5 | - | 24 | - | 8 | シェーマ画像にはオブジェクト（アノテーション）を付加できること。
オブジェクトとしては、直線、始点矢印/終点矢印、フリーハンドライン、矩形/塗りつぶし矩形、円/塗りつぶし円、フリーフォーム、イメージスタンプ、テキスト、始点矢印/終点矢印+連番、始点矢印/終点矢印+テキストが使用できること。 |
| 5 | - | 24 | - | 9 | |
| 5 | - | 24 | - | 10 | オブジェクトには任意の色を使用できること。 |
| 5 | - | 24 | - | 11 | テキストでは、フォントやサイズを指定できること。 |
| 5 | - | 24 | - | 12 | テキストでは、テキストパターンからの選択ができること。 |
| 5 | - | 24 | - | 13 | 線は任意の幅を使用できること。 |
| 5 | - | 24 | - | 14 | イメージスタンプは、ユーザが定義したイメージを使用できること。 |
| 5 | - | 24 | - | 15 | 塗りつぶしでは、様々なパターンを使用できること。 |
| 5 | - | 24 | - | 16 | オブジェクトは透過率を指定できること。 |
| 5 | - | 24 | - | 17 | オブジェクトは入力後に色、形・サイズの変更が行えること。 |
| 5 | - | 24 | - | 18 | オブジェクトはコピー&ペースト操作に対応していること。 |

5	-	24	-	19	オブジェクトの色、フォント、線幅の初期値はユーザ毎にユーザ自身で設定できること。
5	-	24	-	20	シェーマ画像は、90 度回転、左右反転、上下反転、拡大/縮小、パニング、階調調整、トリミング（指定範囲の画像切り取り）の各操作ができること。
5	-	24	-	21	シェーマ画像に対して、元に戻す/やり直す操作ができること。
5	-	24	-	22	シェーマ画像にはコメントを付加できること。コメントはフリーあるいはコメントパターンでの入力ができること。
5	-	24	-	23	検査指示の入力日時、入力者が保存できること。
5	-	24	-	24	指示内容の更新は上書き更新ではなく版の更新として過去版の参照もできること。
5	-	24	-	25	検査指示登録後に上位システムからオーダ変更があった場合はその状況がわかるよう区別して表示されること。
5	-	25			帳票共通機能
5	-	25	-	1	専用の画面により帳票種類、出力条件を指定して帳票を出力（印刷、プレビュー）できること。
5	-	26			検査予定表出力機能
5	-	26	-	1	検査日、検査種または検査室、入外区分、病棟を指定して検査予定表を印刷できること。
5	-	26	-	2	検査予約枠週表示帳票を印刷できること。
5	-	27			照射録出力機能
5	-	27	-	1	検査日、検査種を指定して照射録を印刷できること。
5	-	27	-	2	照射録は複数の検査を一覧で出力するサマリ形式での出力ができること。
5	-	27	-	3	検査実施日時、依頼医での出力順を指定できること。
5	-	28			当直簿出力機能
5	-	28	-	1	検査日、検査時間帯、検査種、時間外を含む含まないを指定して当直簿を印刷できること。
5	-	28	-	2	印刷の際に画面上で当直者、特記事項の指定を可能で印刷物に反映できること。
5	-	29			機器点検機能
5	-	29	-	1	JIRA などで提案されている「放射線関連装置の始業終業点検表」のチェックおよび点検表の出力ができること。
5	-	29	-	2	機器点検項目および機器点検項目の集まりを機器点検表として登録できること。これらはユーザにて作成できること。
5	-	29	-	3	機器点検表は、検査室あるいは装置毎に作成することができ、起動時に端末毎に決められた検査室の点検一覧が表示できること。
5	-	29	-	4	点検対象の装置あるいは検査室毎の点検状況を 1 月単位でマトリックス表示し、点検対象の装置あるいは検査室に対して点検表をリンクさせ、装置あるいは検査室を選択することにより、点検項目のリストが表示されること。
5	-	30			機器品質管理帳票出力機能
5	-	30	-	1	「医療機器等始業・終業点検実施記録」が標準機能として出力できること。
5	-	31			機器不具合記録機能
5	-	31	-	1	検査機器に不具合が発生した際の情報を記録し、不具合発生時に以前の対応方法や復旧時間などを参照できること。

- 5 - 31 - 2 メーカーが発行した修理記録伝票をスキャニングしたファイルなどを修理記録として添付できること。
- 5 - 32 データ抽出機能
- 5 - 32 - 1 専用の分析画面によりシステムで扱うデータを自由に組み合わせてデータの集計ができること。
- 5 - 32 - 2 出力する項目はユーザにて画面上で指定できること。
- 5 - 32 - 3 対象の期間 (From と To) やその他の条件、分析項目 (ディメンジョン)、分析値 (メジャー) の組み合わせを自由に選択できること。
- 5 - 32 - 4 出力する項目や検索条件は保存して再利用できること。
- 5 - 32 - 5 検査業務分析が可能であり、標準的なテンプレート (次項記載のデータ抽出テンプレート機能) が存在すること。
- 5 - 32 - 6 分析結果は Excel 形式の数値データ、グラフ (棒グラフ) でのファイル出力できること。
- 5 - 32 - 7 検査項目を分析用に分類分けすることができ、各統計にて分析用分類毎の集計値が出力できること。分類は複数パターン使用できること。
- 5 - 32 - 8 未加工のデータ取り出しもできること。
- 5 - 32 - 9 データ抽出する際、AND/OR の組み合わせでの抽出ができ、かつ、2 段階の絞り込み [YM3] 条件での抽出が可能であること。
- 5 - 33 データ抽出テンプレート機能
- 標準統計として以下の出力ができること。
- 5 - 33 - 1
 - ・検査種別統計
 - ・検査室別統計
 - ・依頼科別統計
 - ・物品別使用量 (日単位)
 - ・物品別使用量 (月単位)
 - ・物品別使用量 (年度単位)
- 5 - 34 マスタ別メンテナンス機能
- 5 - 34 - 1 メンテナンスを行うマスタ毎に、メンテナンスに適したメンテナンス画面が用意されていること。
- 5 - 34 - 2 診療日のマスタのメンテナンス画面はカレンダー形式で表示され、カレンダー上から日付を選択することにより設定できること。
- 5 - 34 - 3 マスタのインポート、エクスポートができること。ファイル形式は Excel 形式、CSV 形式に対応していること。
- 5 - 34 - 4 マスタ選択画面に検索ボックスを用意し、フリーワードを入力すると一致した文字列がハイライト表示されること。
- 5 - 34 - 5 検査項目に紐づくデフォルトの使用物品をマスタ設定できること。またこのマスタ設定では使用物品から検査項目を抽出できること。
- 5 - 34 - 6 メンテナンス画面では、表示順の番号とは別に項目ごとの固有の番号を表示できること。
- 5 - 35 目的別マスタメンテナンス機能
- 5 - 35 - 1 マスタ変更の目的からマスタのメンテナンスを行えること。
- マスタ変更の目的を選択により変更内容の変更手順が表示され、表示された手順
- 5 - 35 - 2 に従ってマスタの変更を行うことにより、正しい順序で修正漏れの無いマスタメンテナンスを行うことができること。
- 変更手順の説明文のリンクから、メンテ対象のマスタのメンテナンス画面を起動
- 5 - 35 - 3 できること。

5	-	36		マスタ連携機能
5	-	36	-	1
				放射線情報システム、放射線レポートシステム、放射線治療管理システムが同じ社の同じバージョンの製品であれば、3 システムのマスタを共通管理できること。
5	-	37		システム連携機能
5	-	37	-	1
				電子カルテシステムより患者情報、オーダー情報、会計情報を受信できること。また、電子カルテシステムに対して受付情報、検査実施情報を送信できること。
5	-	37	-	2
				最新の入外情報を受信した際には、患者の最新の情報および、未実施検査の入外情報の更新を行い、検査時に適切な情報を参照できること。
5	-	37	-	3
				放射線レポートシステムに対して患者情報、オーダー情報、検査実施情報を送信できること。また、放射線レポートシステムよりレポート確定通知を受信できること。
5	-	37	-	4
				画像管理システムに対して患者情報、オーダー情報、検査実施情報を送信できること。
5	-	37	-	5
				患者情報や患者移動情報を受信した場合、速やかにその情報を外部システムに送信できること。
5	-	37	-	6
				患者入外と、オーダー入外を持ち、オーダー入外はまだ未実施のオーダーに対して、入外の更新ができること。
5	-	38		障害検知
5	-	38	-	1
				他システムとの連携 IF の死活監視を行い、障害発生時にはイベントログへ障害内容のメッセージが出力されること。
5	-	39		モダリティ接続機能
5	-	39	-	1
				DICOM MWM/MPPS による撮影装置との接続ができること。
5	-	39	-	2
				RS232C での接続といったレガシーな接続方法による接続にも対応できること。
5	-	39	-	3
				モダリティ接続時に、モダリティへの情報送信時の確認ミスを防ぐためのモダリティ接続時チェックを行えること。
5	-	39	-	4
				モダリティ接続時チェックの条件は専用の設定画面にてユーザ自身で設定できること。チェックの条件は警告レベルの指定が可能で、最も高い警告レベルのチェック条件に該当した場合にはモダリティへの情報送信ができないようにできること。
5	-	39	-	5
				接続装置側が対応可能な場合、検査完了後に実績修正を行った際に再度 MWM 接続を行えること。
5	-	40		部門コミュニケーション機能
5	-	40	-	1
				端末間でメッセージの送受信ができるメッセージング機能を有すること。
5	-	40	-	2
				送信したメッセージの内容はリアルタイムに送信先端末に表示できること。
5	-	40	-	3
				メッセージには緊急度を設け、表示形式（フォントサイズや色、表示場所）を指定できること。
5	-	40	-	4
				受信したメッセージは一定時間参照できること。
5	-	40	-	5
				部内への連絡事項を掲示できること。
5	-	40	-	6
				掲示板に表示させる文章は、記入画面よりユーザが入力・削除できること。また、記入・削除の可能なユーザを権限で制御できること。
5	-	40	-	7
				掲示板の本文の文字修飾、色の指定ができること。
5	-	40	-	8
				掲示板の本文の表示/非表示ができること。

5	-	40	-	9	部門コミュニケーション機能は放射線部門システム、放射線レポートシステム、放射線治療部門システムで共通で利用できること。
6					放射線レポートシステム
6	-	1			サーバハードウェア
6	-	1	-	1	OS は Microsoft Windows Server 2022 Standard で動作すること。
6	-	1	-	2	CPU は Intel Xeon Silver 4110 [2.1GHz] (Intel Xeon プロセッサ 2.1GHz, 8 コア/16 スレッド, 11MB キャッシュ) × 2CPU 以上であること。
6	-	1	-	3	主記憶容量は 24GB 以上であること。
6	-	1	-	4	磁気ディスク容量は 1.2TB 以上で RAID5 構成であること。
6	-	1	-	5	モニタの解像度は SXGA 以上であること。
6	-	1	-	6	放射線情報システム、放射線レポートシステム、放射線治療管理システムが同じ社の同じバージョンの製品であれば、3 システムを 1 台のサーバで運用できること。
6	-	2			クライアントハードウェア
6	-	2	-	1	OS は Windows 10, 11 で動作すること。
6	-	2	-	2	CPU は Intel Core i5-4570S [2.90GHz] (Intel Core i5 プロセッサ 2.90GHz, 4 コア/4 スレッド, 6MB キャッシュ) 以上であること。
6	-	2	-	3	主記憶容量は 8GB 以上であること。
6	-	2	-	4	磁気ディスク容量は 256GB 以上であること。
6	-	2	-	5	モニタのインチサイズは 17 インチ以上、解像度は SXGA 以上であること。
6	-	2	-	6	必要に応じて Microsoft Office 2019 Excel をインストールすること。
					レポート専用端末は以下構成であること。
					・デスクトップ PC (高精細モニタ 1M カラー2 面) : 2 台 (RI, 治療)
					・デスクトップ PC (高精細モニタ 2M カラー1 面) : 1 台 (ドック)
					・デスクトップ PC (高精細モニタ 2M カラー1 面+24 インチモニタ) : 2 台 (MRI)
					・デスクトップ PC (高精細モニタ 2M カラー2 面+24 インチモニタ) : 7 台 (ドック×3、読影室×4)
6	-	2	-	7	・デスクトップ PC (高精細モニタ 3M カラー2 面+24 インチモニタ) : 1 台 (CT)
					・デスクトップ PC (高精細モニタ 5M カラー2 面+24 インチモニタ) : 2 台 (ドック、読影室裏) [YM4][a5]
					・デスクトップ PC (高精細モニタ 6M カラー1 面+24 インチモニタ) : 5 台 (読影室×5)
					・AmiVoice Ex7 RadClient : 10 式
					・SpeechMike Premium : 11 式
					プリンター端末は以下構成であること。
6	-	2	-	8	・A4 カラープリンター : 1 台
					・A3 モノクロプリンター : 6 台
6	-	3			セキュリティ
6	-	3	-	1	パスワードは画面上ではアスタリスク等の代替文字で表示されていること。
6	-	3	-	2	パスワードは設定によりハッシュ化されて保存できること。
6	-	3	-	3	一定時間、システムが使用されていない場合、オートログアウト機能により自動的にログアウトしてシステムをロックできること。

- 6 - 3 - 4 ロックされた画面ではパスワードの再入力によるロックの解除、あるいは強制終了の選択ができること。
- 6 - 3 - 5 使用可能な機能はログインユーザの権限に応じて制御されること。
- 6 - 4 アカウント管理機能
- 6 - 4 - 1 ID とパスワードによりユーザ認証が行われること。
- 6 - 4 - 2 ログインユーザの権限により使用できる機能が制限されること。
- 6 - 4 - 3 同一権限のユーザであれば画面の状態を保持したままユーザの切り替えを行えること。
- 6 - 4 - 4 他システムから ID とパスワードを引き継いで起動できること。
- 6 - 5 監査証跡機能
- 6 - 5 - 1 ユーザー操作の履歴を操作ログとして保存できること。
- 6 - 5 - 2 権限をもつユーザのみが操作ログを参照できること。
- 6 - 5 - 3 本システムの利用状況（利用主体別アクセス状況、利用時間等）を月次で報告出来ること。
- 6 - 5 - 4 クライアントに出力されたログファイルは古くなると圧縮されること。
- 6 - 5 - 5 クライアントで発生した予期せぬエラーはイベントログテーブルに出力されること。
- 6 - 5 - 6 レポート情報の更新履歴が保存され、必要に応じて更新前と更新後の内容を照合できること。
- 6 - 6 操作機能
- 6 - 6 - 1 各画面にてキーボードショートカットをサポートできること。
- 6 - 7 他システム連携機能
- 6 - 7 - 1 診断画像を参照するため、PACS の画像ビューアを起動できること。
- 6 - 7 - 2 URL 呼出や実行ファイル起動等により、他システムの参照機能を起動するボタンを設定にて各画面に追加できること。
- 6 - 8 検索条件リスト機能
- 6 - 8 - 1 用途に応じた検索条件や表示項目がタブとして管理され、複数のタブを一つの画面に表示できること。タブの表示順序は変更できること。
- 6 - 8 - 2 検索条件、表示リストの項目はユーザー毎、タブ毎に初期値の設定ができること。
- 6 - 8 - 3 指定された検索条件の中で、一時的に変更したい条件はフィルタ条件としてタブに表示でき、画面を閉じること無く初期値に戻せること。
- 6 - 8 - 4 検索条件は一時的に変更を行うことが多い条件は常に表示し、頻度の少ない条件は非表示にできること。非表示の検索条件も簡単な操作で表示できること。
- 6 - 8 - 5 リスト項目は名前やアイコンを付加することができ、ユーザー毎、ユーザーグループ毎に管理することができ、検索条件の初期値やリスト表示項目等の編集が指定ができること。
- 6 - 8 - 6 同一検索条件を複数指定する場合、AND/OR の指定ができること。
- 6 - 8 - 7 検索条件は連動絞込ができること。検査種で選択すると、検査室や検査項目が当該検査種のもののみに絞り込まれること。
- 6 - 8 - 8 検査項目等の選択肢の多い検索項目には、検索ボックスを用意し、フリーワード検索による部分一致での絞り込みができること。
- 6 - 8 - 9 画面起動時には、初期表示タブの指定ができること。

6	-	8	-	10	タブの指定は権限を持つユーザであれば複数端末、または、複数ユーザーに対し一括で設定できること。 リスト表示項目の詳細では以下を指定できること。
6	-	8	-	11	・リスト出力項目 ・タイトル ・順序 ・日付、時刻フォーマット ・配置方向 ・幅 ・フォント名、サイズ
6	-	8	-	12	リスト表示項目の順序、幅はリスト上での変更をそのまま設定値として反映できること。 リスト表示に於ける詳細設定では以下を指定できること。 ・タブ切り替え時の検索実行の有無 ・自動更新ボタン表示有無と初期有効可否と更新間隔 ・検索条件の自動初期化有無と自動初期化発動時間 ・固定列有無と列数
6	-	8	-	13	・最終検索時刻の表示有無 ・検索結果件数表示有無 ・行罫線と列罫線の表示有無 ・行番号表示有無 ・行背景色（単色、ストライプ、ステータス依存） ・ソート順
6	-	9			コメント入力機能
6	-	9	-	1	コメントはフリー入力に加えてコメントパターンからの入力ができること。
6	-	9	-	2	コメントパターンの編集は、コメント入力可能なユーザであればコメント入力欄から容易にコメントパターン編集画面を呼び出しできること。
6	-	9	-	3	コメントパターンはフォルダでの分類管理ができること。
6	-	10			その他
6	-	10	-	1	現在運用中の放射線レポートシステムのデータを移行すること。 また移行元の移行費用も含めること。
6	-	10	-	2	日本国内において 250 施設以上の導入実績があること。 また、500 床以上の施設への導入実績が 30 施設以上あること。
6	-	10	-	3	東京都内に 1 次サポート拠点があり、当院へサービス技術員を派遣できる体制を確保していること。
6	-	11			患者情報管理機能
6	-	11	-	1	専用の画面にて患者番号、患者氏名などの患者基本情報の新規登録および変更ができること。 患者プロフィール情報として、以下のような項目を電子カルテまたは放射線情報システムと連携もしくは手入力できること。また患者プロフィールとして管理できる項目は追加や変更ができること。
6	-	11	-	2	看護区分、患者区分、救護区分、障害情報、感染情報、禁忌情報、 妊娠状態、死亡退院、体内金属、クレアチニン値等の血液データ、eGFR など 患者プロフィール情報については電子カルテから取得するものと放射線レポートシステムで登録するものなどの管理ができること。またその更新日時を保持できること。
6	-	11	-	3	
6	-	11	-	4	患者プロフィール情報のうち、放射線レポートシステムで変更可能なものは各画

面から更新できること。

- 6 - 11 - 5 患者に付随するコメントの入力ができること。コメントは種別毎に管理ができ、患者に永続的に付随するもの、特定の日付に付随するもの、特定の検査種に付随するものの入力、管理ができること。
- 6 - 11 - 6 コメントはフリー入力に加えて定型コメントからの入力ができること。
- 6 - 11 - 7 定型コメントの編集は、コメント入力可能なユーザであれば定型コメント選択欄から容易にできること。
- 6 - 11 - 8 上記の患者に関する情報を各画面で表示できること。
- 6 - 11 - 9 患者は、患者カナ名、病棟、診療科等の条件により検索できること。
- 6 - 12 入外情報管理機能
- 6 - 12 - 1 患者の病棟名、室名、ベッド番号を入外情報として登録および参照ができること。
- 6 - 12 - 2 入外情報は、現時点の最新の情報、検査予定時点の予定情報、検査実施時の情報をそれぞれ管理できること。
- 6 - 13 死亡患者管理機能
- 6 - 13 - 1 死亡した患者は死亡日の入力が可能であり死亡したことがわかる「★」などのマークがリストに表示されること。また、死亡した患者の年齢表示は死亡時の年齢に置き換えられること。
- 6 - 14 造影剤副作用機能
- 6 - 14 - 1 造影剤の副作用について、造影剤名、副作用の症状やコメントなどを登録できること。
- 6 - 15 レポート共通機能
- 6 - 15 - 1 セキュリティ機能を有し、利用者により1次読影者、2次読影者としての管理ができること。
- 6 - 15 - 2 ユーザグループにより記入、あるいは参照できる権限を制御できること。
- 6 - 15 - 3 レポートの記入状況（未読影、読影中、保留（一時保存）、一次確定/二次確定等の途中段階の状況、確定、差戻し、読影不要など）を管理できること。
- 6 - 15 - 4 レポートの記入状況は施設の読影フローに合わせて変更ができること。
- 6 - 15 - 5 レポートの記入状況としてトランスクリイバの進捗も管理できること。
- 6 - 15 - 6 確定済のレポートの確定解除ができること。また、確定解除が行われた場合も確定時の履歴は保存できること。
- 6 - 15 - 7 確定保存されたレポートは必要に応じて更新できることとするが、改ざん防止のため改版履歴を有すること。
- 6 - 15 - 8 レポートの確定には承認を経ることを必須とするか必須としないかを設定で変更できること。
- 6 - 15 - 9 レポートには次のレポート記入担当者を指定して申し送りコメントの入力ができること。
- 6 - 15 - 10 レポートの差し戻し時には差戻しコメントの入力ができること。
- 6 - 15 - 11 確定したレポートの修正は、設定により確定権限をもったユーザまたは確定者のいずれかのみが確定解除できること。
- 6 - 15 - 12 レポートには検索可能なタグを複数付加できること。また、タグはレポートを特定できるあらゆる画面から付加できること。
- 6 - 16 レポート作成枠作成機能

6	-	16	-	1	記入枠作成機能により外部システムから検査情報を取得できない場合でも、レポートシステムのみで検査情報の登録および変更できること。
6	-	17			レポートワークリスト機能
6	-	17	-	1	レポート作成対象の検査を検索、リスト表示できること。
6	-	17	-	2	上記、大項目「全般」の小項目「検索条件リスト」に対応していること。 検索条件としては、以下を指定できること。 患者番号、性別、検査日、検査曜日、検査時間帯、検査種、検査項目、レポート
6	-	17	-	3	記入状況、検査依頼状況、要読影区分、依頼付随情報、依頼科、依頼医、施行医、確定日、確定医、承認者、読影担当医、照会元施設、レポートタグ、レポート分類、更新中ユーザー、重要レポート区分 リスト表示項目としては、以下が表示できること。 レポート表示状況、検査依頼状況、読影区分、患者情報（患者番号、氏名、カナ名、性別、検査時年齢、プロフィール情報、付随情報）、入外区分、病棟、依頼科、依頼医、検査日時、検査種、検査部位、検査項目、検査室、検査依頼付随情報、コメント類（患者コメント、オーダコメント）、紹介元施設、紹介者、実施者、施行医、各ステップ保存者、確定日時、確定医、初回確定日時、初回確定医、承認者、読影担当医、ICD、IRD、レポート本文テキスト、レポート版数、レポートタグ、更新中ユーザー、重要レポート区分、重要レポートコメント
6	-	17	-	4	
6	-	17	-	5	月1回のみ画像診断管理加算2が算定可能な検査で当月まだ未読影の検査の場合、未読影のマークがリスト上に表示されること。 画像診断管理加算2および3の施設基準「翌診療日までに八割以上の読影結果が
6	-	17	-	6	報告されていること」を満たすため、該当する検査毎の最新の読影率、必要な読影件数および読影に必要な時間の目安がリアルタイムで表示されること。
6	-	17	-	7	レポート作成対象の検査を選択し、レポート作成画面に展開できること。
6	-	17	-	8	レポート作成要不要の指定ができること。
6	-	17	-	9	レポートの担当者の振り分けができること。
6	-	17	-	10	読影レポートの印刷ができること。また、PDF ファイルとしての出力もできること。
6	-	17	-	11	レポート分類登録ができること。
6	-	17	-	12	レポートタグの指定登録ができること。
6	-	17	-	13	患者コメントの登録ができること。
6	-	17	-	14	レポートコメントの登録ができること。
6	-	17	-	15	画像参照ができること。
6	-	18			レポート作成機能
6	-	18	-	1	専用のレポート作成画面により検査結果に対して読影レポートを作成できること。 レポート作成画面では以下の情報がウィンドウ毎にまとまって表示され、ウィンドウの配置および表示・非表示を検査種毎、ユーザ毎で設定できること。
6	-	18	-	2	患者情報、読影リスト、オーダ詳細・レポート参照、レポート分類、タイムライン、レポート作成（テンプレート、キー画像）、ファイル添付、診断コード登録、レポートタグ登録、レポートコメント、検査歴・症例検索、キー画像編集、テキストパターン、レポートテンプレートテキスト変換

6	-	18	-	3	上記レポート作成画面のレイアウトのプリセットとして、比較読影機能に特化したもの、縦型モニタに特化したものが選択可能であること。
6	-	18	-	4	担当医指定されたユーザーでないユーザーが記入しようとした場合、警告メッセージが表示されるが入力可能である場合と入力できない場合は設定により指定できること。
6	-	18	-	5	サーバのデータベースへのレポートの保存にてエラーが発生した場合やアプリケーションエラーが発生した場合などに備え、記入内容を一時的に暗号化してローカルに保存できること。また、そのレポートを開いた場合にはローカルのファイルから内容を適用できること。
6	-	18	-	6	レポートは、一次確定、二次確定などの段階的な運用が可能であり、権限や現時点のレポート状況により次に遷移できるレポート状況が制御できること。
6	-	18	-	7	保存操作を行ったユーザーの情報を記録できること。
6	-	18	-	8	レポート保存時には確認画面が表示され、承認者、保存と同時に印刷するか否かと、印刷時の出力プリンタ、出力フォーマット、部数の指定ができること。
6	-	18	-	9	保存時の内容は全て履歴として保存されていること。更新履歴は簡単に参照することができ、任意の版との差分表示ができること。
6	-	18	-	10	重要な所見であることを示す、重要レポート区分の入力ができること。重要レポート区分の内容はWEBのレポートリストやレポート参照に表示できること。
6	-	19			レポート作成機能（テンプレート）
6	-	19	-	1	所見や診断等を含む読影結果情報は、部品を自由に組み合わせることのできるテンプレートにより定義されたフォーマットでの入力が可能で、検査の種類や部位による使い分けができること。
6	-	19	-	2	超音波検査の以下5部位のテンプレートを用意すること。 ・乳腺　・頸動脈　・甲状腺　・腹部　・その他表在
6	-	19	-	3	1つの検査に対して、技師のレポートや複数の読影医がレポートを記入できる権限によって、記入できる情報を分けられること。 テンプレートには以下の様な部品が使用できること。
6	-	19	-	4	タブ、ラベル、テキストボックス、テキストエリア、リッチテキスト、数値入力ボタンスピナー、デートピッカー、デートタイムピッカー、ライン、フレーム、コンボボックス、ドロップダウンリスト、ラジオボタン、チェックボックス、チェックボックスグループ、マトリックス、イメージ、計算ボタン、コピーボタン、初期化ボタン、デフォルトボタン
6	-	19	-	5	複数の部品を必要に応じてグループ全体として増減できること。
6	-	19	-	6	イメージには、下記小項目「キー画像編集機能」と同等の編集ができること。 イメージでは、冠動脈造影検査のようにシェーマ画像に直接結果を記入する事により視覚的にわかりやすいレポートを作成できること。
6	-	19	-	7	・特定の領域をクリックする事によりその部分の塗りつぶしパターンが順次変わる ・特定の塗りつぶしパターンを直接選択 ・選択された塗りつぶしパターンは他の部品と連動する（双方向）
6	-	19	-	8	入力時の値に応じて次階層の項目がダイナミックに切り替えができること。
6	-	19	-	9	テンプレートの計算ボタンやまたはフォーカスアウト時の自動計算により、項目

同士の四則演算などができること。

- 6 - 19 - 10 テンプレートの入力内容を初期化できること。
- 6 - 19 - 11 テンプレートの入力内容他の項目に簡単にコピーできること。
- 6 - 19 - 12 テンプレート上ボタンや選択した値毎に、複数の項目についてデフォルト値をセットできること。
- 6 - 19 - 13 テキスト入力エリアの表示サイズをパーセント指定で拡大縮小できること。
- 6 - 19 - 14 テンプレートの各項目では必須指定が可能で、入力されていない場合に警告が表示できること。
- 6 - 19 - 15 施設独自のテンプレートの作成もできること。
- 6 - 19 - 16 検査種および部位毎にデフォルトで選択表示されるシェーマの指定ができること。
- 6 - 19 - 17 テンプレートの内容に応じた画像診断報告書を印刷できること。
- 6 - 20 レポート作成（キー画像）
- 6 - 20 - 1 レポートにはキー画像を付加できること。
 キー画像は連携する画像ビューワ上の画像を簡単な操作にて入力、外部ファイル
- 6 - 20 - 2 （ファイル指定、ドラッグ&ドロップ）からの入力、クリップボードからの入力、
 シェーマのリストからの入力ができること。
 レポート本文にキー画像とリンクしたキー画像番号を指定したフォーマットに従
- 6 - 20 - 3 って入力できること。このキー画像番号は、キー画像の並べ替えや削除など、キ
 ー画像の編集に追隨して自動で更新されること。
 画像ビューワからのキー画像の登録時、キー画像の検査とレポート作成中の検査
- 6 - 20 - 4 が異なる検査や異なる患者である場合、設定によりその旨の警告メッセージを表
 示する、あるいはキー画像として登録を不可とすることのいずれかまたは両方を
 選択できること。
 画像ビューワからのキー画像の入力時、設定により検査日やオーダ番号をアノテ
- 6 - 20 - 5 ーションとしてキー画像に自動で付加できること。アノテーションの色やフォ
 ントの大きさ、付加する位置はユーザ毎に設定できること。
- 6 - 20 - 6 入力されたキー画像に対して、公開/非公開の指定ができること。非公開と指定さ
 れたキー画像は印刷されたレポートやWEB 参照画面には出力されないこと。
- 6 - 20 - 7 キー画像はサムネイルで一覧表示できること。
- 6 - 20 - 8 キー画像のサムネイル一覧にて、ドラッグ&ドロップでのキー画像の並び替え、キ
 ー画像の削除、公開/非公開の指定ができること。
- 6 - 21 レポート作成（簡易レポート入力ウィンドウ）
- 6 - 21 - 1 画像ビューワからの操作で、ビューワ上に簡易レポート入力ウィンドウをポップ
 アップ表示し、レポートの記入ができること。
- 6 - 21 - 2 簡易レポート入力ウィンドウでも以下の機能が使用できること。
- 6 - 21 - 3 過去レポートからのコピーができること。
- 6 - 21 - 4 テキストパターンの流用ができること。
- 6 - 22 キー画像編集機能
- 6 - 22 - 1 キー画像にはオブジェクト（アノテーション）を付加できること。
 オブジェクトとしては、直線、始点矢印/終点矢印、フリーハンドライン、矩形/
- 6 - 22 - 2 塗りつぶし矩形、円/塗りつぶし円、フリーフォーム、イメージスタンプ、テキス

ト、始点矢印/終点矢印+連番、始点矢印/終点矢印+テキストが使用できること。

- 6 - 22 - 3 オブジェクトには任意の色を使用できること。
- 6 - 22 - 4 テキストでは、フォントやサイズを指定できること。
- 6 - 22 - 5 テキストでは、テキストパターンからの選択ができること。
- 6 - 22 - 6 線は任意の幅を使用できること。
- 6 - 22 - 7 イメージスタンプは、ユーザが定義したイメージを使用できること。
- 6 - 22 - 8 塗りつぶしでは、様々なパターンを使用できること。
- 6 - 22 - 9 オブジェクトは透過率を指定できること。
- 6 - 22 - 10 オブジェクトは入力後に色、形・サイズの変更ができること。
- 6 - 22 - 11 オブジェクトはコピー&ペースト操作ができること。
- 6 - 22 - 12 オブジェクトの色、フォント、線幅の初期値はユーザ毎にユーザ自身で設定できること。
- 6 - 22 - 13 キー画像は、90 度回転、左右反転、上下反転、拡大/縮小、パニング、階調調整、トリミング（指定範囲の画像切り取り）の各操作ができること。
- 6 - 22 - 14 キー画像に対して、元に戻す/やり直す操作ができること。
- 6 - 22 - 15 キー画像にはコメントを付加できること。コメントはフリーあるいはコメントパターンでの入力ができること。
- 6 - 23 読影リスト機能
- 6 - 23 - 1 レポート作成画面内に記入対象の検査の一覧を表示し、レポート作成画面内のみでレポートの記入→次の検査の選択→レポートの記入、という操作ができること。
- 6 - 23 - 2 レポートの保存は1クリックで保存と次のレポートの表示ができること。
- 6 - 24 検査歴・症例検索機能
- 6 - 24 - 1 レポート記入時に、該当患者の過去レポートを時系列的に参照する機能を有し、必要に応じてコピー&ペーストができること。
- 6 - 24 - 2 以下のような定型項目を検索条件として指定できること。
レポート記入状況、患者番号、検査日、検査時間帯、検査種、性別、検査時年齢、検査項目、検査項目名称、緊急・至急・至急現像・要読影などの検査の情報、依頼科、依頼医、施行医、レポート状況毎の保存者、確定日、確定医、承認者、紹介元施設、レポートタグ、レポート分類、レポートエレメント選択、キー画像公開有無など
以下のような部分一致文字列を検索条件として指定できること。
- 6 - 24 - 3 検査項目名称、検査依頼コメント、レポートテキスト、キー画像コメント、ICD/IRD、レポートコメント、レポート分類コメントなど
- 6 - 24 - 4 部分一致文字列検索では、AND/OR 指定の検索、NOT 検索、数値の範囲検索、空白を含む文字列の検索、ワイルドカードを指定した文字列検索ができること。
- 6 - 24 - 5 過去レポートの検索条件、リスト表示項目はユーザ単位にユーザ自身で設定できること。
- 6 - 24 - 6 過去レポートをコピーする場合に日付+検査種名称+特定文言「9999/99/99 C T と比較しました」といった特殊コピーができること。日付レイアウト及び特定文言はユーザにより設定できること。
- 6 - 24 - 7 過去レポートからコピーする際、所見コピー、診断コピー機能がそれぞれ個別に使用できること。

6	-	24	-	8	過去レポートのキー画像クリックにより画像ビューワを起動し、キー画像のオリジナル画像を直接参照できること。
6	-	24	-	9	画像ビューワからの操作により、画像ビューワで選択されている画像のレポートを表示できること。
6	-	25			テキストパターン機能
6	-	25	-	1	よく使用する文章をテキストパターンとして登録し、レポート作成時に以下の簡単な操作で流用できること。
6	-	25	-	2	文章一覧からパターン名の選択
6	-	25	-	3	ショートカットキー
6	-	25	-	4	ボタンによるショートカット入力
6	-	25	-	5	マウスの右クリックメニュー
6	-	25	-	6	テキストパターンはテキスト入力エリア毎に登録することができ、個別あるいは複数の入力エリアの内容をまとめて流用することもできること。
6	-	25	-	7	テキストパターンはユーザが所属するグループ共通で使用するもの、ユーザ個人でのみ使用するものと分けて登録すること。
6	-	25	-	8	テキストパターンは検査種に関係なく共通で使用するもの、特定の検査種のみで使用するもの、さらに特定の検査部位のみで使用するものと分けて登録できること。
6	-	25	-	9	レポート記入中にテキストパター登録・編集ができること。
6	-	25	-	10	メンテナンス時には既に登録済のテキストパターンを流用できること。
6	-	25	-	11	テキストパターンは入力中の文字に部分一致する候補をリアルタイムに表示し、キーボード操作で選択して使用できること。
6	-	26			診断コード登録機能
6	-	26	-	1	ICD10、ACR (IRD) のマスタにより診断コード、診断名の入力ができること。
6	-	27			レポートコメント機能
6	-	27	-	1	レポートに個人あるいはグループのコメントテキストを付加できること。個人コメントはそのユーザーのみ、グループコメントはそのグループのメンバーのみが参照できること。
6	-	28			ファイル添付機能
6	-	28	-	1	レポートに任意のファイル（PDF、Word、Excel など）を複数添付できること。
6	-	29			レポートテンプレートテキスト変換機能
6	-	29	-	1	テンプレート入力された内容を文章に変換し、テキスト入力エリアに反映できること。
6	-	30			レポート印刷機能
6	-	30	-	1	印刷時には印刷確認画面が表示され、印刷プレビューを行うことができ、出力プリンタ、出力フォーマット、部数の指定ができること。
6	-	30	-	2	レポート状況が確定以外のレポートを印刷した場合、印刷されたレポートにレポート状況が印字できること。
6	-	30	-	3	紙媒体への印刷以外に PDF 等のファイルに出力できること。
6	-	30	-	4	汎用的な画像診断報告書以外に脳ドック検査報告書、肺ドック CT 検査報告書を印刷できること。
6	-	30	-	5	印刷時に表示される「承認医」「確定医」等の呼称や表示位置は、導入時に当院

職員と協議の上決定すること。また読影に携わった医師名は全て表示すること。

- | | | | | | |
|---|---|----|---|---|--|
| 6 | - | 30 | - | 6 | 外来診察時に印刷して患者に手渡さないよう参照者に注意喚起する文言を表示できること。表示内容は当院職員と協議の上、決定すること。 |
| 6 | - | 31 | | | 画像呼出機能 |
| 6 | - | 31 | - | 1 | 画像ビューワ連携（共通機能）にて該当オーダの画像を呼び出しができること。 |
| 6 | - | 31 | - | 2 | 画像の呼出は設定により、レポート記入画面表示と同時に画像表示できること。 |
| 6 | - | 31 | - | 3 | 呼び出した画像ビューワより画像をレポートのキー画像として取り込み、保存できること。 |
| 6 | - | 32 | | | 計測値ペースト機能 |
| 6 | - | 32 | - | 1 | 画像ビューワでの計測値を簡単な操作でレポートにペーストできること。
以下の計測値がペーストできること。 |
| 6 | - | 32 | - | 2 | ・長さ　・画素値　・角度　・面積　・平均　・標準偏差　・最大　・最小　・
長径・長辺
・外周　・InnerLength　・OuterLength　・比率 |
| 6 | - | 33 | | | 音声入力機能 |
| 6 | - | 33 | - | 1 | 学習がほとんど必要のない音声入力ができること。 |
| 6 | - | 34 | | | NW ユーザ辞書機能 |
| 6 | - | 34 | - | 1 | NW型辞書(医学辞書含)によりどのレポート端末でもログインしたユーザの変換辞書が使用できること。 |
| 6 | - | 35 | | | 医学辞書機能 |
| 6 | - | 35 | - | 1 | かな漢字変換ソフト用医学辞書を有すること。 |
| 6 | - | 36 | | | 症例データ管理共通機能 |
| 6 | - | 36 | - | 1 | 症例検索・管理機能により、レポート作成時の過去症例の参照、学会発表用症例や研究用症例の収集、ティーチングファイル（学習用）、カンファレンス用、個人でのデータ収集などの用途に使用できること。 |
| 6 | - | 36 | - | 2 | リスト表示されたレポートはボタンクリックなどの操作にて、患者コメント、レポートコメント、タグ登録、分類指定、オーダ/レポート詳細情報、検査歴、画像の参照、印刷などの操作ができること。 |
| 6 | - | 36 | - | 3 | 検索結果や分類内容の一覧は個別にタブとして表示し、切り替えて参照できること。 |
| 6 | - | 36 | - | 4 | 上記、大項目「全般」の小項目「検索条件リスト」に対応していること。
リスト表示項目としては、以下が表示できること。
レポート表示状況、検査依頼状況、読影区分、患者情報（患者番号、氏名、カナ名、性別、検査時年齢、プロフィール情報、付随情報）、入外区分、病棟、依頼科、依頼医、検査日時、検査種、検査部位、検査項目、検査室、検査依頼付随情報、コメント類（患者コメント、オーダコメント）、紹介元施設、紹介者、実施者、施行医、各ステップ保存者、確定日時、確定医、初回確定日時、初回確定医、承認者、読影担当医、ICD、IRD、レポート本文テキスト、レポート版数、レポート参照状況、レポートタグ、更新中ユーザー、重要レポート区分、重要レポートコメント |
| 6 | - | 36 | - | 6 | リスト表示以外に、当該検査のレポートキー画像が表示できること。 |

キー画像表示では、以下が表示できること。

- 6 - 36 - 7 キー画像、患者名、患者カナ名、性別、検査時年齢、検査日、検査種、検査項目、キー画像コメント
- 6 - 37 症例レポート検索機能
以下のような定型項目を検索条件として指定できること。レポート記入状況、検査依頼状況、患者番号、検査日、検査時間帯、検査種、性別、検査時年齢、検査項目、検査項目名称、緊急・至急・至急現像・要読影などの検査の情報、依頼科、依頼医、施行医、レポート状況毎の保存者、確定日、確定医、承認者、紹介元施設、レポートタグ、レポート分類、レポートエレメント選択、キー画像公開有無、重要レポート区分など
以下のような部分一致文字列を検索条件として指定できること。
- 6 - 37 - 1 検査項目名称、検査依頼コメント、検査依頼コメント（複数種別）、RIS で入力されたコメント、レポートテキスト、レポートテキスト（複数種別）、キー画像コメント、ICD/IRD、レポートコメント、レポート分類コメントなど
- 6 - 37 - 2 部分一致文字列検索では、AND/OR 指定の検索、NOT 検索、数値の範囲検索、空白を含む文字列の検索、ワイルドカードを指定した文字列検索ができること。
- 6 - 37 - 3 検索結果に対してさらに条件を指定し、検索結果の絞込みができること。
- 6 - 37 - 4 症例レポート分類管理機能
- 6 - 38 検索したレポートは、フォルダイメージで分類保存できること。
- 6 - 38 - 1 分類の名前変更、表示順指定、新規分類作成、削除ができること。
- 6 - 38 - 2 ユーザ、ユーザーグループ、共通単位での分類管理ができること。
- 6 - 38 - 3 分類単位での移動、並び替えができること。
- 6 - 38 - 4 レポート作成中に分類編集ができること。
- 6 - 38 - 5 ひとつのレポートを複数の分類に分けられること。
- 6 - 38 - 6 レポート WEB 参照機能
- 6 - 39 参照元（外部システムなど）からの呼び出し条件により、検索条件指定可能なレポートリストを表示できること。
- 6 - 39 - 1 検査実施情報の参照もできること。
- 6 - 39 - 2 表示したレポートは検査報告書の体裁で印刷ができること。
- 6 - 39 - 3 表示したレポートは内容を PDF 形式にて出力ができること。
- 6 - 39 - 4 表示したレポートからは当該患者の過去の確定レポートへリンクし、参照できること。
- 6 - 39 - 5 表示したレポートからは PACS の Viewer との連携ができ、当該患者の検査画像の呼出ができること。
- 6 - 39 - 6 表示したレポートのレポート本文中のキー画像番号をクリックすると該当するキー画像がポップアップ表示されること。ポップアップ表示されたキー画像から PACS の Viewer を起動し、該当画像のオリジナル画像の参照もできること。
- 6 - 39 - 7 レポート上に表示される「承認医」「確定医」等の呼称や表示位置は、導入時に当院職員と協議の上決定すること。また読影に携わった医師名は全て表示すること。
- 6 - 39 - 8 外来診察時に印刷して患者に手渡さないよう参照者に注意喚起する文言を表示できること。表示内容は当院職員と協議の上、決定すること。
- 6 - 39 - 9

6	-	39	-	10	レポートをいつ、どの端末で閲覧したかの履歴を記録できること。
6	-	40			データ抽出
6	-	40	-	1	専用の分析画面によりシステムで扱うデータを自由に組み合わせてデータの集計ができること。
6	-	40	-	2	出力する項目はユーザにて画面上で指定できること。
6	-	40	-	3	対象の期間（From と To）やその他の条件、分析項目（ディメンジョン）、分析値（メジャー）の組み合わせを自由に選択できること。
6	-	40	-	4	出力する項目や検索条件は保存して再利用できること。
6	-	40	-	5	検査業務分析が可能であり、標準的なテンプレート（次項記載のデータ抽出テンプレート機能）が存在すること。
6	-	40	-	6	分析結果は Excel 形式の数値データ、グラフ（棒グラフ）でのファイル出力できること。
6	-	40	-	7	検査項目を分析用に分類分けすることができ、各統計にて分析用分類毎の集計値が出力できること。分類は複数パターン使用できること。
6	-	40	-	8	未加工のデータ取り出しもできること。
6	-	41			読影統計
6	-	41	-	1	画像診断管理加算 2 および 3 の施設基準「翌診療日までに八割以上の読影結果が報告されていること」の根拠となる翌診療日確定率の算出ができること。
6	-	42			マスタ別メンテナンス機能
6	-	42	-	1	メンテナンスを行うマスタ毎に、メンテナンスに適したメンテナンス画面が用意されていること。
6	-	42	-	2	診療日のマスタのメンテナンス画面はカレンダー形式で表示され、カレンダー上から日付を選択することにより設定できること。
6	-	42	-	3	マスタのインポート、エクスポートができること。ファイル形式は Excel 形式、CSV 形式に対応していること。
6	-	42	-	4	マスタ選択画面に検索ボックスを用意し、フリーワードを入力すると一致した文字列がハイライト表示されること。
6	-	43			目的別マスタメンテナンス機能
6	-	43	-	1	マスタ変更の目的からマスタのメンテナンスを行えること。
6	-	43	-	2	マスタ変更の目的を選択により変更内容の変更手順が表示され、表示された手順に従ってマスタの変更を行うことにより、正しい順序で修正漏れの無いマスタメンテナンスを行うことができること。
6	-	43	-	3	変更手順の説明文のリンクから、メンテ対象のマスタのメンテナンス画面を起動できること。
6	-	44			マスタ連携機能
6	-	44	-	1	放射線情報システム、放射線レポートシステム、放射線治療管理システムが同じ社の同じバージョンの製品であれば、3 システムのマスタを共通管理できること。
6	-	45			システム連携機能
6	-	45	-	1	放射線情報システムより患者情報、オーダ情報を受信できること。また、これらのシステムに対してレポート確定通知を送信できること。
6	-	45	-	2	画像管理システムに対してレポート確定通知を送信できること。
6	-	45	-	3	統合診療支援システムに対して既読管理対象レポート確定通知を送信できること。

				と。
6	-	45	-	4 患者情報や患者移動情報を受信した場合、速やかにその情報を外部システムに送信できること。
6	-	45	-	5 外部システムとの IF の稼働状況を一元的に管理できること。
7				放射線治療部門システム
7	-	1		サーバハードウェア
7	-	1	-	1 OS は Microsoft Windows Server 2022 Standard で動作すること。
7	-	1	-	2 CPU は Intel Xeon Silver 4110 [2.1GHz] (Intel Xeon プロセッサ 2.1GHz, 8 コア/16 スレッド, 11MB キャッシュ) × 2CPU 以上であること。
7	-	1	-	3 主記憶容量は 24GB 以上であること。
7	-	1	-	4 磁気ディスク容量は 1.2TB 以上で RAID5 構成であること。
7	-	1	-	5 モニタの解像度は SXGA 以上であること。
				放射線情報システム、放射線レポートシステム、放射線治療管理システムが同じ
7	-	1	-	6 社の同じバージョンの製品であれば、3 システムを 1 台のサーバで運用できること。
7	-	2		クライアントハードウェア
				電子カルテ端末と相乗りする、もしくは専用端末を有すること。専用端末は以下仕様を満たすこと。
7	-	2	-	1 ・ OS Windows 10 IoT Enterprise LTSC 2021 Value 以上 ・ CPU Intel(R) Core(TM) i5-13500 (14C/2.50GHz/24M) 以上 ・ 主記憶容量 8GB 以上 ・ 磁気ディスク容量 512GB SSD (M.2 NVMe PCIe TLC) 以上
7	-	2	-	2 放射線治療部門システム専用端末は以下構成であること。 ・ デスクトップ PC (カラーモニタ 21.5 インチカラー1 面) : 4 台
7	-	3		セキュリティ
7	-	3	-	1 パスワードは画面上ではアスタリスク等の代替文字で表示されていること。
7	-	3	-	2 パスワードは設定によりハッシュ化されて保存できること。
7	-	3	-	3 一定時間、システムが使用されていない場合、自動的にログアウトしてシステムがロックされるオートログアウト機能を有すること。
7	-	3	-	4 ロックされた画面ではパスワードの再入力によるロックの解除、あるいは強制終了の選択が可能であること。
7	-	3	-	5 使用可能な機能はログインユーザの権限に応じて制御されること。
7	-	4		アカウント管理
7	-	4	-	1 ID とパスワードによりユーザ認証が行われること。
7	-	4	-	2 ログインユーザの権限により使用できる機能が制限されること。
7	-	4	-	3 同一権限のユーザであれば画面の状態を保持したままユーザの切り替えを行えること。
7	-	4	-	4 他システムから ID とパスワードを引き継いで起動できること。
7	-	5		監査証跡
7	-	5	-	1 ユーザー操作の履歴を操作ログとして保存可能であること。
7	-	5	-	2 権限をもつユーザのみが使用可能な操作ログ参照機能を有すること。

7	-	5	-	3	本システムの利用状況（利用主体別アクセス状況、利用時間等）を月次で報告出来ること。
7	-	5	-	4	クライアントに出力されたログファイルは古くなると圧縮されること。
7	-	5	-	5	クライアントで発生した予期せぬエラーはイベントログテーブルに出力されること。
7	-	5	-	6	検査実施情報の更新履歴が保存され、必要に応じて更新前と更新後の内容を照合できること。
7	-	6			操作性
7	-	6	-	1	各画面にてキーボードショートカットをサポートすること。
7	-	7			他システム連携
7	-	7	-	1	診断画像を参照するため、PACS の画像ビューアを起動できること。
7	-	7	-	2	URL 呼出や実行ファイル起動等により、他システム（電子カルテ、汎用ビューアなど）の情報参照機能を起動するボタンを設定にて各画面に追加できること。
7	-	8			検索条件リスト
7	-	8	-	1	用途に応じた検索条件や表示項目がタブとして管理され、複数のタブを一つの画面に表示可能であること。タブの表示順序は変更可能であること。
7	-	8	-	2	検索条件、表示リストの項目は端末毎、タブ毎に初期値の設定ができること。指定された検索条件の中で、一時的に変更したい条件はフィルタ条件としてタブ
7	-	8	-	3	に表示させることができ、画面を閉じること無く初期値に戻すことが可能であること。
7	-	8	-	4	検索条件は一時的に変更を行うことが多い条件は常に表示し、頻度の少ない条件は非表示とできること。非表示の検索条件も簡単な操作で表示できること。
7	-	8	-	5	検査項目等の選択肢の多い検索項目には、検索ボックスを用意し、フリーワード検索による部分一致での絞り込みができること。
7	-	8	-	6	画面起動時には、予め指定したタブの表示の指定が可能であること。
7	-	8	-	7	タブの指定は複数端末、または、複数ユーザーものが一括で設定可能であること。リスト表示項目の詳細では以下を指定可能であること。
7	-	8	-	8	リスト出力項目、タイトル、順序、フォーマット、配置方向、幅、フォント名とサイズ
7	-	8	-	9	リスト表示項目の順序、幅はリスト上での変更をそのまま設定値として反映できること。 リスト表示に於ける詳細では以下を指定可能であること。
7	-	8	-	10	タブ切り替え時の検索実行の有無、自動更新ボタン表示有無と初期有効可否と更新間隔、検索条件の自動初期化有無と自動初期化発動時間、固定列有無と列数、最終検索時刻の表示有無、検索結果件数表示有無、行罫線と列罫線の表示有無、行番号表示有無、行背景色（単色、ストライプ、ステータス依存）、ソート順
7	-	9			コメント入力
7	-	9	-	1	コメントはフリー入力に加えてコメントパターンからの入力ができること。
7	-	9	-	2	コメントパターンの編集は、コメント入力可能なユーザであればコメント入力欄から容易に呼び出し可能であること。
7	-	10			その他
7	-	10	-	1	現在運用中の放射線治療管理システムのデータを移行すること。

また移行元の移行費用も含めること。

- 7 - 10 - 2 日本国内において 100 施設以上の導入実績があること。
- 7 - 10 - 3 また、500 床以上の施設への導入実績が 30 施設以上あること。
- 7 - 10 - 3 東京都内に 1 次サポート拠点があり、当院へサービス技術員を派遣できる体制を確保していること。
- 7 - 11 患者情報管理
- 7 - 11 - 1 患者番号、患者氏名などの患者基本情報の新規登録および変更が可能な専用の画面を有すること。
- 7 - 11 - 2 患者の病棟名、室名、ベッド番号を入外情報として登録および参照が可能なこと。患者プロフィール情報として、以下のような項目を電子カルテと連携もしくは手入力できること。また患者プロフィールとして管理できる項目は追加や変更ができること。
- 7 - 11 - 3 看護区分、患者区分、救護区分、障害情報、感染情報、禁忌情報、妊娠状態、死亡退院、体内金属、クレアチニン値等の血液データ、eGFR など患者プロフィール情報については電子カルテから取得するものと放射線治療管理システムで登録するものなどの管理が可能であること。またその更新日時を保持すること。
- 7 - 11 - 4 最新の患者プロフィール情報をユーザが任意で取得し、画面に反映できること。
- 7 - 11 - 5 患者プロフィール情報のうち、放射線治療管理システムで変更可能なものは各画面から更新することが可能であること。
- 7 - 11 - 6 患者に付随するコメントの入力ができること。コメントは種別毎に管理ができ、患者に永続的に付随するもの、特定の日付に付随するもの、特定の検査種に付随するものの入力、管理ができること。
- 7 - 11 - 7 患者に付随するシークレットコメントの入力、管理が可能であること。
- 7 - 11 - 8 コメントはフリー入力に加えて定型コメントからの入力ができること。
- 7 - 11 - 9 定型コメントの編集は、コメント入力可能なユーザであれば定型コメント選択欄から容易に可能であること。
- 7 - 11 - 10 上記の患者に関する情報を各画面で表示可能であること。
- 7 - 11 - 11 患者は、患者カナ名、病棟、診療科等の条件により検索可能であること。
- 7 - 11 - 12 デジタルカメラにて撮影した患者の顔画像を登録することができ、各画面に顔画像を表示できること。
- 7 - 11 - 13 患者の顔画像の取り込み時にトリミングを行えること。
- 7 - 11 - 14 患者情報を治療装置にオンライン通信で送信できること。
- 7 - 11 - 15 治療関連オーダー管理
- 7 - 12 電子カルテより放射線治療依頼、CT シミュレータ、X 線シミュレータ、リニアックグラフィ等の治療関連オーダーを受信できること。
- 7 - 12 - 1 電子カルテより受信した治療関連オーダーを治療情報に紐付け、治療情報と一元管理できること。
- 7 - 12 - 2 治療関連オーダーを放射線治療管理システムにて登録することも可能であること。
- 7 - 12 - 3 治療照射オーダーを電子カルテへ送信可能であること。
- 7 - 12 - 4 治療情報管理機能

治療情報管理は以下のような階層構造をもった情報として管理されること。

1 階層目 治療管理情報：疾患に関する情報、治療方針、
治療後の経過観察時の記録など

例. 治療依頼科/依頼医、治療担当医、治療方針、臨床診断名、
原発部位、組織診断、TNM 分類、開始時 PS、放射線治療完遂度、
治療効果 など

7 - 13 - 1 2 階層目以降 治療計画情報：治療計画に関する情報、門情報、セットアップ
情報、会計予定情報など

例. 治療方法、計画医、照射方法、照射部位、1 回線量、
計画総線量、照射回数、1 日の照射回数、治療曜日、開始日、
終了日、治療装置、エネルギー、門情報（門毎の線質、
ガントリー角度、コリメータ角度、MU など）、
セットアップ情報（固定具情報、セットアップ画像、
セットアップコメント）、会計予定情報など

7 - 13 - 2 治療情報管理を簡易ツリー形式で表示され、ツリー上の項目を選択することによ
り、その情報の詳細情報が表示されること。

7 - 13 - 3 簡易ツリー上に進捗状況の表示ができること。進捗状況の内容は施設の運用に合
わせて変更可能であること。

7 - 13 - 4 治療情報管理の項目は施設で必要な項目の追加も可能であること。

7 - 13 - 5 治療情報管理の項目はデータの種類の合わせたデータタイプ（テキスト形式、数
値形式、日付形式、選択形式）の指定が可能であること。

7 - 13 - 6 治療情報管理の項目は入力方法（直接入力、リストからの選択、日付入力、チェ
ックボックス形式、オプションボタン形式）、必須指定、デフォルト値の指定が
可能であること。

7 - 13 - 7 治療情報管理の入力画面のレイアウトも設定により変更可能であること。

7 - 13 - 8 治療情報管理の新規作成時はウィザード形式を使用し入力可能であること。

7 - 13 - 9 治療情報管理の新規ウィザード、画面項目は入力値を引き継ぎ、デフォルト値を
設定できること。

7 - 13 - 10 治療情報管理画面で参照した患者を職員毎に登録しておき、アクセス履歴画面か
ら選択できること。

7 - 14 治療管理情報

原発部位情報の登録は ICD-0 コードマスタを使用して入力可能であること。

7 - 14 - 1 これら原発部位情報は疾患マスター情報により絞り込まれ登録が可能であるこ
と。

7 - 14 - 2 治療効果として放射線治療完遂度、一次効果、コメント、および有害事象などの
登録が可能であること。

7 - 14 - 3 キー画像の登録が可能であること。

7 - 14 - 3 キー画像に関しては、JPEG・PNG 形式以外に、ファイルなど添付可能であること。

7 - 14 - 4 治療報告書の種類は、治療開始報告書・治療変更報告書・治療終了報告書・治療
予後報告の選択が可能であること。

7 - 14 - 5 治療報告書の登録がキー画像・照射情報付きで可能であること。

- 7 - 14 - 6 治療報告書の印刷が可能であること。
- 7 - 14 - 7 作成された報告書は電子カルテから Web ブラウザを用いて参照、印刷が可能であること。
- 7 - 15 治療計画情報
- 7 - 15 - 1 治療種類として外部照射、小線源の治療の管理ができること。
- 7 - 15 - 2 治療計画情報を表示し、新規計画作成、計画変更(分割計画変更)が可能なこと。
- 7 - 15 - 3 照射方法・照射回数など定型パターンとして登録しておき計画作成時に定型パターンから登録できること。
- 7 - 15 - 4 治療計画状況は、作成中・計画承認済・実施中・完了・休止・中止の管理が可能なこと。
- 7 - 15 - 5 治療計画状況が全ての照射オーダ完了時に自動的に完了になること。
- 7 - 15 - 6 照射部位情報の登録は ICD-0 コードマスタを使用して入力可能であること。
原発部位情報と照射部位情報が同じ場合入力値を引継ぎが可能であること。
- 7 - 15 - 7 治療計画情報として、1 回線量、予定総線量、照射回数、照射曜日の有無、1 日 2 回照射、累積線量管理、線種、装置の設定が可能であること。
治療計画情報の 1 回線量と予定総線量をもとに照射回数が自動で算出
- 7 - 15 - 8 又は、治療計画情報の 1 回線量と照射回数をもとに予定総線量が自動で算出が可能であること。
- 7 - 15 - 9 治療計画システムより DRR 画像や線量分布図などのキー画像と登録が可能であること。
- 7 - 15 - 10 門情報は治療計画システムより DICOM-RT Plan の規格にて取り込むことが可能であること。
- 7 - 15 - 11 セットアップ情報（固定具情報、セットアップ画像、セットアップコメント）の登録が可能であること。
- 7 - 15 - 12 セットアップ情報は事前登録が可能で、計画に紐づけが可能であること。
- 7 - 15 - 13 セットアップ情報のコメントはリッチテキストにて入力が可能であること。
- 7 - 15 - 14 セットアップ情報の固定具情報は、バーコード認証が可能であること。
- 7 - 15 - 15 会計予定情報が登録可能であること。
- 7 - 15 - 16 会計予定情報作成時、治療計画の照射技法にて管理料・治療料・固定具加算・専任加算・安全管理料などの候補の絞込みが可能であること
- 7 - 15 - 17 会計予定情報は、請求単位（1 管理、1 計画、1 照射、1 日）に登録が可能であること。
- 7 - 15 - 18 処方線量の登録が可能であり、1 回線量、実績線量、累積線量は処方線量で管理できること。
- 7 - 15 - 19 線量の単位を Gy、cGy の 2 通りで管理することができる。
- 7 - 15 - 20 業務 TODO の登録が可能であること。
- 7 - 15 - 21 業務 TODO の進捗確認が可能であること。
- 7 - 16 治療オーダの登録
- 7 - 16 - 1 治療計画情報にて指定された治療開始日、治療曜日、照射回数、1 日の照射回数、治療機（複数対応）をもとに治療スケジュールを決定し、スケジュールに応じた一連の治療照射オーダが自動で作成可能なこと。
- 7 - 16 - 2 治療休日マスタをもち、治療を行わない日はスケジュール対象外となること。

7	-	16	-	3	治療照射オーダーの時間帯や曜日に予約数の調節を行ったり予約禁止枠の指定等が可能であること。
7	-	16	-	4	治療照射オーダーの予約時間帯で予約を超過した場合、予約不可とする、あるいは警告表示を行うが予約は可能とするか、チェックなしかを設定にて指定可能なこと。
7	-	16	-	5	治療関連オーダーを登録する場合、診察開始～照射までの一連の放射線治療のフローにおいて必要となる情報（診察フラグ、照合撮影フラグ、照合撮影オーダー）を一括で登録可能であること。
7	-	16	-	6	治療照射予約の最小時間枠は 10 分単位に調整でき、運用に合わせて装置毎に調整が可能であること。
7	-	16	-	7	オーダー登録時は正しい操作者を記録するために直前に操作者の認証を行えること。認証されれば代行によるオーダー登録が可能であること。
7	-	17			承認機能
7	-	17	-	1	治療計画情報の承認機能が可能であること。
7	-	17	-	2	治療計画承認は権限をもつユーザのみが可能であること。
7	-	17	-	3	1 照射毎に確認のうえ照射許可を行う照射承認機能が可能であること。
7	-	17	-	4	照射承認は治療オーダーの一覧を表示して行えること。 照射承認は複数の治療オーダーを選択して一括で行うことも可能であること。
7	-	17	-	5	照射承認は権限をもつユーザのみが可能であること。
7	-	18			積算情報の表示
7	-	18	-	1	治療情報管理の治療管理、治療計画情報が選択されている場合、積算情報が表示されること。
7	-	18	-	2	積算情報は治療オーダー毎の回数、総日数、日付、予定線量、実績線量、積算線量の一覧が表示されること。
7	-	18	-	3	一覧は治療管理毎、治療計画毎に表示されるが、親計画と子計画といった関連が視覚的に把握できる表示となっていること。
7	-	18	-	4	引継元の治療計画の指定ができ、親計画と子計画といった関連付けができること。
7	-	19			照射情報の表示
7	-	19	-	1	患者単位に治療カレンダーで 3 ヶ月間の治療予定、診察フラグ情報、照合撮影フラグ情報の表示が可能であること。
7	-	19	-	2	治療カレンダー上で診察フラグ情報、照合撮影フラグ情報の変更が可能なこと。
7	-	20			受付業務
7	-	20	-	1	治療オーダーもしくは放射線治療依頼、CT シミュレータ、X 線シミュレータ、リニアックグラフィ等の治療関連オーダーの受付を行う専用の画面を有すること。
7	-	20	-	2	上記、全般の「検索条件リスト」に対応していること。
7	-	20	-	3	検索条件としては、治療/検査依頼状況、患者番号、患者カナ名、治療/検査予定日、検査種、依頼科、入外区分、病棟等が使用可能であること。 受付リストには以下の項目が表示されること。
7	-	20	-	4	治療/検査依頼状況、患者番号、患者名、性別、検査時年齢、患者プロフィール情報、その他の患者付随情報、呼び出し状況、呼び出し日時、受付日時、治療/検査予定日時、治療/検査日時、検査種、治療/検査項目、検査室、依頼科、依頼医、その他の検査付随情報、患者コメント、当日コメント

- 7 - 20 - 5 受付リストは最大3つまでソート条件を指定可能であること。
受付画面では検索とリスト部分以外に、以下の情報が同一画面にまとまって表示され、リストの行を選択するだけでその情報を参照することが可能であること。
- 7 - 20 - 6
 - ・受け付けた検査の検査順（患者ナビ）
 - ・当該患者の当日の他の検査の一覧さらに、以下の情報も同一画面にまとまって表示され、リストの行を選択するだけでその情報を参照であること。ただし、これらの情報は端末毎またはユーザー毎の権限により使い勝手が良いように自由に位置や表示・非表示を切り替えることが可能であること。
- 7 - 20 - 7
 - ・当該検査の患者情報（顔写真付）
 - ・当該検査のオーダー詳細
 - ・検索条件範囲外の該当患者のオーダー情報（治療/検査歴/予定）
 - ・治療/検査担当者への連絡のために当日のみ有効な患者コメント（当日コメント）
 - ・治療依頼/管理情報
- 7 - 20 - 8 患者番号が不明な場合、患者を検索する機能を呼び出せること。
- 7 - 20 - 9 入院患者について、治療/検査のための呼出し依頼の連絡を行ったかどうかの呼出状況をリスト上にて入力可能なこと。この時、呼出時間も記録されること。
- 7 - 20 - 10 患者の呼び出し状況を一括で変更可能であること。
- 7 - 20 - 11 受付時、受付番号を発番すること。受付番号は、部門全体で日毎の連番、あるいは日毎かつ検査種毎の連番を設定にて指定できること。
- 7 - 20 - 12 受付処理は、単一患者を選択しての受付、あるいは複数の患者を一括で受付可能であること。
- 7 - 20 - 13 受付時、治療/検査項目毎に照射/検査室が割り振られること。
- 7 - 20 - 14 複数の検査を同時に受け付けた場合、検査室に対して自動で順序付けを行えること。順序付けを行うか否かは設定により指定できること。
受付時、設定により受付票が自動で出力可能であること。出力するか否かは設定により変更可能であること。また、これらの帳票は手動にて再出力することが可能であること。
- 7 - 20 - 16 割り振られた照射/検査室、治療/検査順は手動にて変更することが可能であること。
受付済の治療/検査の受付取消を行えること。この時、同時に受け付けた複数のオーダーにて、一部のオーダーが一時保存、実施済であっても未実施のオーダーの受付取消が可能であること。
- 7 - 20 - 18 患者番号は、磁気カードやバーコードでの読み取り、または、手入力により指定可能であること。
- 7 - 20 - 19 患者番号の入力から治療/検査の検索はバーコードで行うことが可能であり、受付までの一連の操作もバーコードのみで実施することが可能であること。
受付処理を行う際に、警告メッセージとして以下のような状況の場合に、多彩な文字表現で注意を促す画面を表示すること。
- 7 - 20 - 20
 - ・当日他検査ある場合
 - ・体内金属がある場合

- ・既知の強い造影剤副作用がある場合
- ・患者プロフィールに基づく感染症がある場合や重篤な腎機能障害等がある場合

- 7 - 20 - 21 受付時に当日検査と直近検査間の禁則チェックを行えること。
禁則チェックの条件は専用の設定画面にてユーザ自身で設定できること。チェックの条件は警告レベルの指定が可能で、最も高い警告レベルのチェック条件に該当した場合には受付処理不可にできること。放射線情報システムの検査の状況もチェック条件に使えること。
- 7 - 20 - 22 受付リスト表示の際に、照射オーダーの時は下記のような制御が設定にて可能であること。
- 7 - 20 - 23
- ・1日2部位照射の場合、すべての照射オーダーに受付対象チェックを表示
 - ・1日2回照射の場合、予定時間の早い方のみに受付対象チェックを表示
- 7 - 21 治療業務
- 7 - 21 - 1 放射線治療依頼情報、治療管理情報、治療計画情報が対象で表示される専用の治療ワークリストを有すること。
- 7 - 21 - 2 放射線照射情報が対象で表示される専用の照射ワークリストを有すること。
- 7 - 21 - 3 上記、全般の「検索条件リスト」に対応していること。
ワークリストに表示する項目はエクスポート可能であること。
- 7 - 21 - 4 リスト出力項目、出力項目タイトル、出力項目表示順序、プレビュー、ファイル出力、印刷
- 7 - 22 治療ワークリスト
- 7 - 22 - 1 検索条件としては、患者番号、患者カナ、性別、入外、病棟、依頼日、依頼科、依頼医、予約種別、治療状況、治療計画状況、依頼回答作成有無、治療計画承認有無、門有無、スケジュール登録有無、会計予定入力有無、治療開始報告書作成有無、治療終了報告書作成有無、治療評価有無、放治初診日、治療開始予定日、治療終了予定日、原発部位大分類名、原発部位名、新患／再診、治療装置、治療方法、治療担当医を指定可能であること。
- 7 - 22 - 2 リストには、患者番号、患者氏名、患者カナ名、性別、入外、病棟、死亡、依頼科、依頼医、治療管理名、治療管理状況、治療番号、担当医、放治初診日、疾患名、原発部位大分類名、原発部位名、原発部位側性名、病理組織名、治療開始日、治療終了日、TNMG/Stage、今回の治療、PS、照射開始時年齢、新患/再患、依頼回答作成有無、疾患登録有無、計画撮影オーダー発行有無、治療計画承認有無、門有無、スケジュール登録有無、会計予定入力有無、治療開始有無、管理料請求有無、治療開始報告書作成有無、治療終了報告書作成有無、治療評価有無などの表示が可能であること。
- 7 - 22 - 3 治療ワークリスト画面では検索とリスト部分以外に、以下の情報が同一画面にまとまって表示され、リストの行を選択するだけでその情報を参照可能であること。
ただし、これらの情報は端末毎またはユーザー毎の権限により使い勝手が良いように自由に位置や表示・非表示を切り替えることが可能であること。
- ・当該治療の患者情報（顔写真付）
 - ・当該治療の治療依頼/管理情報
 - ・当該治療患者の治療ダイアリー

・当該治療の治療一覧

7	-	22	-	4	選択行の情報に対して、治療情報管理画面に遷移可能であること。
7	-	22	-	5	バーコード入力により入力された患者番号をもとに検索を行い、情報が存在した場合、該当の患者情報のみのリストに絞り込まれること。
7	-	22	-	6	他端末にて治療情報管理画面が開かれている治療依頼を開こうとした場合、参照モードで開くことが可能であること。
7	-	22	-	7	選択行の情報に対して、患者コメント入力、新規治療依頼登録、照射予約、治療撮影予約登録が可能であること。
7	-	22	-	8	選択行の情報に対して画像システムを呼び出すことが可能であること。
7	-	22	-	9	選択行の情報に対して他システムを呼び出すことが可能であること。
7	-	22	-	10	治療回答、計画撮影登録、疾患登録、治療計画登録、治療計画承認、治療評価、報告書作成等の進捗確認が可能であること。
7	-	23			照射ワークリスト
7	-	23	-	1	検索条件としては、患者番号、性別、入外、病棟、予定日、依頼科、依頼医、入外区分、検査室、照射状況、治療予約種別、治療装置、照合撮影承認状況、診察、照合、検査種、検査項目、呼出を指定可能であること。 リストには、患者番号、患者氏名、年齢、病棟、検査時病棟、呼出、呼出日時、呼出者、搬送状態、検査時搬送状態、治療管理状況、計画名、計画 ID、計画状況、計画医、担当指導医、計画承認状況、計画承認医、計画コメント、照射部位大分類、照射部位、照射方法、特殊照射、分割照射、計画開始日、計画終了日、回数/総回数、実施線量/累積総線量、変更計画有無、治療装置、受付日時、受付経過時間、受付番号、照射状況、照射承認状況、照射承認医、検査種、治療項目、検査日時、オーダコメント、同日他検査、診察フラグ、照合フラグ、照合撮影承認状況、照合承認者、照合承認日時、照合撮影承認・再撮コメント、セットアップ登録、会計予定、管理料請求済み、門情報取得などの表示が可能であること。
7	-	23	-	2	入院患者について、治療のための呼出し依頼の連絡を行ったかどうかの呼出状況をリスト上にて入力可能なこと。この時、呼出時間も記録されること。 照射ワークリスト画面では検索とリスト部分以外に、以下の情報が同一画面にまとまって表示され、リストの行を選択するだけでその情報を参照可能であること。ただし、これらの情報は端末毎またはユーザー毎の権限により使い勝手が良いように自由に位置や表示・非表示を切り替えることが可能であること。
7	-	23	-	3	・当該治療の患者情報（顔写真付） ・当該治療の治療依頼/管理情報 ・当該治療の照射リスト
7	-	23	-	4	・当該治療のセットアップ情報 ・当該治療患者の治療ダイアリー ・当該治療の治療タイムライン ・治療担当者への連絡のために当日のみ有効な患者コメント（本日コメント） ・当該治療の同じ日の他の検査の一覧（当日他検査） ・オーダコメント（治療時コメントなど） ・当該治療の会計歴 ・当該治療の照射時位置合せ情報一覧

- 7 - 23 - 5 選択行の情報に対して、照射実施画面に遷移可能であること。
- 7 - 23 - 6 設定により、未受付の治療を選択して照射実施画面へ遷移することが可能であること。
- 7 - 23 - 7 バーコード入力により入力された患者番号をもとに検索を行い、情報が存在した場合、該当の患者情報のみのリストに絞り込まれること。
- 7 - 23 - 8 他端末にて照射実施画面が開かれている治療を開こうとした場合、警告が表示されて開くことができない制御が行われていること。
- 7 - 23 - 9 選択行の情報に対して、患者/当日/オーダコメント入力、治療情報管理画面起動、治療スケジュール画面起動、治療/検査歴画面起動、治療撮影予約登録が可能であること。
- 7 - 23 - 10 選択用の情報に対して、受付処理、一括受付処理、受付取り消し処理、一括受付取り消し処理が別画面に遷移することなく実行可能であること。
- 受付処理を行う際に、警告メッセージとして以下のような状況の場合に、多彩な文字表現で注意を促す画面を表示すること。
- ・当日他検査ある場合
 - ・体内金属がある場合
 - ・既知の強い造影剤副作用がある場合
 - ・患者プロフィールに基づく感染症がある場合や重篤な腎機能障害等がある場合
- 7 - 23 - 11
- 7 - 23 - 12 治療完了している情報は、実績の修正が可能であること。
- 7 - 23 - 13 選択行の情報に対して画像システムを呼び出すことが可能であること。
- 7 - 23 - 14 選択行の情報に対して他システムを呼び出すことが可能であること。
- 照射実施画面へ遷移する際に、警告か確認メッセージとして以下のような状況の場合に、多彩な文字表現で注意を促す画面を表示すること。
- ・同日に複数照射オーダがある場合
 - ・治療計画未承認である場合
 - ・照射オーダ未承認である場合
 - ・計画実績積算線量が計画予定線量を超過した場合
 - ・初回照射日以降に計画情報が変更した場合
 - ・開始時アラート、予約コメントの登録がある場合
 - ・照射予約日と操作日が異なる場合
 - ・同姓チェック、同姓同名チェックがある場合
- 7 - 23 - 15
- 7 - 23 - 16 受付時、自動で受付票の出力が可能であること。出力するか否かは設定により変更可能であること。
- 7 - 23 - 17 受付票を手動で再出力することが可能であること。
- 7 - 23 - 18 照射ワークリストと照射実施画面を同時に表示でき、次の患者の治療情報の参照などが可能であること。
- 7 - 23 - 19 治療計画情報取得、セットアップ情報登録、会計予定登録等の進捗確認が可能であること。
- 7 - 23 - 20 治療中診察有無の確認が可能であること。
- 7 - 23 - 21 照合撮影有無の確認が可能であること。
- 7 - 23 - 22 治療担当医が照合撮影の承認が可能であること。

承認時はコメント、キー画像の登録も可能であること。

- 7 - 23 - 23 治療担当医が照合撮影の再撮影指示が可能であること。
- 7 - 23 - 24 撮影オーダーの実施が可能であること。
- 7 - 23 - 25 撮影オーダーを選択し検査実施画面へ遷移する際に、検査開始時の確認ミスを防ぐための検査開始時チェックを行えること。
検査開始時チェックの条件は専用の設定画面にてユーザ自身で設定できること。
- 7 - 23 - 26 チェックの条件は警告レベルの指定が可能で、最も高い警告レベルのチェック条件に該当した場合には検査開始に進むことができないようにできること。放射線情報システムの検査の状況もチェック条件に使えること。
- 7 - 23 - 27 診察状況を任意に変更可能であること。
- 7 - 23 - 28 放射線情報システムで管理している検査の状況が参照できること。
- 7 - 24 検査ワークリスト/検査実施
- 7 - 24 - 1 治療依頼、治療計画撮影、照合撮影の実施管理が可能であること。
- 7 - 24 - 2 治療計画撮影後に、事前セットアップ情報の登録が可能なこと。
- 7 - 24 - 3 治療計画撮影装置、照合撮影装置と DICOM-MWM 等で患者情報の送信が可能なこと。
- 7 - 24 - 4 実施者・施行医・看護師は設定で入力可能な人数の指定が行え、また、直前の検査での入力内容をデフォルト値とするか否かを設定にて指定可能であること。
- 7 - 24 - 5 未検査の検査項目に対してデフォルトとして設定されている検査条件、会計情報（物品、手技、加算等）が初期値として表示可能であること。
デフォルトの使用物品のセットを作成でき、実施時にセットを選択することにより会計情報（物品手技加算情報）の一括入力が可能であること。このセットは検査種毎あるいは共通のものに分類できること。
- 7 - 24 - 6 会計情報のバーコード入力が可能であること。また、GS1-128 形式のバーコードにも対応し、ロット番号と有効期限を取り込むことが可能であること。
- 7 - 24 - 7 検査実施完了時に未実施の検査が存在する場合、自動的に実施済で保存される動作と、検査完了ボタンが押せないような制御行う動作を設定にて切替可能であること。
- 7 - 24 - 8 実施済の検査の実施情報を修正することが可能であること。
- 7 - 24 - 10 入力した内容を一時的に保存し、検査実施画面を閉じる機能を有すること。
- 7 - 24 - 11 修正した実施情報を電子カルテに送信を行うか否かを画面上で選択可能であること。
- 7 - 24 - 12 上記以外は、放射線情報システム標準要求仕様書の検査業務に対応していること。
- 7 - 24 - 13 撮影オーダーを選択し検査実施画面へ遷移する際に、検査開始時の確認ミスを防ぐための検査開始時チェックを行えること。
検査開始時チェックの条件は専用の設定画面にてユーザ自身で設定できること。
- 7 - 24 - 14 チェックの条件は警告レベルの指定が可能で、最も高い警告レベルのチェック条件に該当した場合には検査開始に進むことができないようにできること。
- 7 - 24 - 15 検査実施完了時に、検査完了時の確認ミスを防ぐための検査完了時チェックを行えること。
検査完了時チェックの条件は専用の設定画面にてユーザ自身で設定できること。
- 7 - 24 - 16 チェックの条件は警告レベルの指定が可能で、最も高い警告レベルのチェック条件に該当した場合には検査完了ができないようにできること。

- 7 - 25 治療実施
- 7 - 25 - 1 治療実施に最適化された、放射線治療専用の実施画面を有すること。
治療実施画面では以下の情報がウィンドウ毎にまとまって表示され、ウィンドウの配置および表示・非表示をクライアント毎で設定可能であること。
- ・当該治療の患者情報（顔写真付）
 - ・当該治療の計画一覧
 - ・当該治療のセットアップ情報（編集可）
 - ・当該治療の門実績情報（編集可）
- 7 - 25 - 2
- ・当該治療の小線源情報（編集可）
 - ・当該治療患者の治療ダイアリー
 - ・当該治療の照射時位置合せ情報一覧（編集可）
 - ・当該治療の同じ日の他の検査の一覧（当日他検査）
 - ・オーダコメント（治療時コメントなど）
 - ・当該治療の会計情報（編集可）
 - ・当該治療の実施記録（実施日時、治療装置、治療室、実施者など）
- 7 - 25 - 3 治療装置との接続を行い、治療装置へ治療開始の通知が可能であること。
- 7 - 25 - 4 複数の治療計画の同時実施が可能であること。
- 7 - 25 - 5 開始した治療実施を受付済みに戻すことが可能であること。
- 7 - 25 - 6 治療実施内容を一時的に保存することが可能であること。
- 7 - 25 - 7 実施済の治療実施の実施情報を修正することが可能であること。
- 7 - 25 - 8 治療担当医が照合撮影の承認が可能であること。
承認時はコメント、キー画像の登録も可能であること。
- 7 - 25 - 9 治療担当医が照合撮影の再撮影指示が可能であること。
- 7 - 25 - 10 治療実施時の実施者（技師、施行医、看護師）の登録が複数登録可能であること。
登録人数は設定で変更可能であること。
治療実施時の実施者を下記のパターンで設定可能であること。
- 7 - 25 - 11
- ・前回値を使用
 - ・前回値を使用するが、日が変わるとリセット
 - ・システムログイン者を使用
- 会計情報作成時に下記のパターンで設定が可能であること。
- 7 - 25 - 12
- ・治療計画時に作成した会計予定を使用
 - ・前回の治療実施にて登録した情報をデフォルト値として表示
 - ・照射項目で会計情報のデフォルト値を設定
- 7 - 25 - 13 一連の治療実施で既に会計済の手技加算情報を一覧で表示可能であること。
治療実施を中止することが可能であること。
- 7 - 25 - 14 中止時には、コメント登録、照射オーダ調整（後続計画も含む）も同時に可能であること。
- 7 - 25 - 15 治療実施完了時、同時に複数の計画を実施している場合は完了確認が可能であること。
- 7 - 25 - 16 治療実施完了時、会計項目の上限、下限チェックが可能であること。
- 7 - 25 - 17 治療実施完了時、照射実績の未登録チェックが可能であること。

照射時位置合せ情報一覧（IGRT の時）の登録管理が可能であること。

- ・実施者、施行医、日時の登録が可能
- ・照合方法、パラメータは施設に合わせて設定が可能
- ・パラメータ登録と同時にキー画像登録も可能
- ・登録した結果で平均値/グラフ表示が可能
- ・登録した結果を CSV 出力可能

7 - 25 - 18

7 - 25 - 19

放射線情報システムで管理している検査の状況が参照できること。

7 - 26

治療患者認証

治療室内の放射線治療管理システムクライアントにて治療を行う患者のリストバ

7 - 26 - 1

ンドなどから患者番号をバーコードで読み込み、操作室にて選択されている患者との認証を行い、患者誤認を防ぐ機能を有していること。

7 - 26 - 2

認証の結果は治療室内の放射線治療管理システムクライアントに分かりやすく表示可能であること。

7 - 27

照射室セットアップ

7 - 27 - 1

操作室での患者選択に連動し、治療室内の放射線治療管理システムに選択した患者の照射室セットアップ情報を自動で表示可能であること。

7 - 27 - 2

照射室セットアップ画面には治療室内での作業に必要なセットアップ情報などを見やすいレイアウトにて表示が可能であること。

7 - 27 - 3

治療室内で使用するセットアップ情報の固定具をバーコード認証で確認が可能であること。

7 - 28

計画ワークリスト

7 - 28 - 1

検索条件としては、治療状況、治療計画状況、患者番号、性別、入外、病棟、依頼日、依頼科、依頼医、開始予定日、終了予定日、原発部位大分類名、原発部位名、新患／再診、治療方法、治療担当医、治療開始日、治療終了日、治療装置、業務 TODO 予定日、業務 TODO 予定者、業務 TODO 実施日、業務 TODO 実施者、業務 TODO 状況、業務 TODO 項目を指定可能であること。

7 - 28 - 2

リストには、患者番号、患者氏名、患者カナ名、性別、患者汎用情報、入外、患者コメント、患者コメント有無、生年月日、搬送状態、患者病棟、患者病室、治療生死最終確認日、治療番号、依頼科、依頼医、治療管理名、治療管理状況、担当医、放治初診日、疾患名、原発部位大分類名、原発部位名、原発部位側性名、治療開始日、治療開始予定日、治療終了日、治療終了予定日、今回の治療、PS、照射開始時年齢、新患/再患、管理コメント、治療管理汎用情報、計画名、計画状況、計画承認状況、計画承認医、計画医、担当指導医、計画開始日、計画終了日、計画予定線量、回数、照射部位大分類、照射部位、線量・エネルギー、線量名、エネルギー名、1 回線量、照射方法、特殊照射、照射予定回数、照射実施済回数、照射実施済線量、累積実施済回数、累積実施済線量、線量(累積)、門有無、セットアップ登録、治療計画汎用情報、TODO 予定日/予定者、TODO 実施日/実施者、TODO 状況マーク などの表示が可能であること。

計画ワークリスト画面では検索とリスト部分以外に、以下の情報が同一画面にまとまって表示され、リストの行を選択するだけでその情報を参照可能であること。ただし、これらの情報は端末毎またはユーザー毎の権限により使い勝手が良いように自由に位置や表示・非表示を切り替えることが可能であること。

- | | | | | | |
|---|---|----|---|----|--|
| 7 | - | 28 | - | 3 | ・当該治療の患者情報（顔写真付） ・当該治療の治療依頼/管理情報
・当該治療の照射リスト ・当該治療のセットアップ情報
・当該治療患者の治療ダイアリー ・当該治療の治療タイムライン
・当該治療の治療画像一覧 ・当該治療の会計歴 ・当該治療の計画情報 |
| 7 | - | 28 | - | 4 | バーコード入力により入力された患者番号をもとに検索を行い、情報が存在した場合、該当の患者情報のみのリストに絞り込まれること。 |
| 7 | - | 28 | - | 5 | 選択行の情報に対して、治療情報管理画面に遷移可能であること。 |
| 7 | - | 28 | - | 6 | 他端末にて治療情報管理画面が開かれている治療依頼を開こうとした場合、参照モードで開くことが可能であること。 |
| 7 | - | 28 | - | 7 | 選択行の情報に対して、患者コメント入力、照射予約、治療撮影予約登録が可能であること。 |
| 7 | - | 28 | - | 8 | 選択行の情報に対して画像システムを呼び出すことが可能であること。 |
| 7 | - | 28 | - | 9 | 選択行の情報に対して他システムを呼び出すことが可能であること。 |
| 7 | - | 28 | - | 10 | 業務 TODO の登録が可能であること。 |
| 7 | - | 28 | - | 11 | 業務 TODO の進捗確認が可能であること。 |
| 7 | - | 29 | | | 治療タイムライン |
| 7 | - | 29 | - | 1 | 治療患者の治療スケジュールおよび進捗状況がタイムライン形式で表示可能であること。 |
| 7 | - | 29 | - | 2 | 治療タイムラインには治療計画毎の照射回数（完了/予定）、治療終了日、実績線量、積算線量が表示可能であること。 |
| 7 | - | 29 | - | 3 | 治療タイムラインは縦軸に治療ダイアリー、治療診察、撮影オーダー、治療計画、横軸に日付が展開され、日毎の予定および実施状況がアイコンで表示可能であること。 |
| 7 | - | 29 | - | 4 | 治療タイムライン機能は共通機能として各画面にて表示可能であること。 |
| 7 | - | 30 | | | 治療スケジュール |
| 7 | - | 30 | - | 1 | 治療室毎に治療スケジュールの管理が可能であること。 |
| 7 | - | 30 | - | 2 | 治療スケジュール枠の時間単位は設定可能であること。 |
| 7 | - | 30 | - | 3 | 治療スケジュール画面では治療室毎のスケジュールを1～3週単位、日単位で表示でき、治療計画開始、治療計画終了、特殊照射の情報を付加して患者一覧表示が可能であること。また、ツールチップで詳細情報の確認が可能であること。 |
| 7 | - | 30 | - | 4 | 特殊照射の表示対象は、設定にて変更可能であること。 |
| 7 | - | 30 | - | 5 | 患者の治療進捗状況によりスケジュール内の一覧の背景色の色に変化し、視覚的に患者毎の治療進捗状況が把握可能であること。 |
| 7 | - | 30 | - | 6 | 予定の切り取り、貼り付け、ドラッグ&ドロップが可能であること。 |
| 7 | - | 30 | - | 7 | スケジュール変更をドラッグアンドドロップで行った後、確認ダイアログを表示し、以降のスケジュールを一括変更する/しないを選択できること。 |
| 7 | - | 30 | - | 8 | 治療照射の一括変更が可能であること。 |
| 7 | - | 30 | - | 9 | 治療照射の中止、一括部屋中止が可能であること。 |

- 7 - 30 - 10 治療照射の削除、一括削除が可能であること。
- 7 - 30 - 11 治療照射の予約コメントの登録、編集が可能であること。
- 7 - 30 - 12 治療スケジュールの稼働/非稼働の設定が可能であること。
- 7 - 30 - 13 連続した空き枠を仮押さえすることが可能、かつ照射オーダ作成時に仮押えした枠にオーダを登録することが可能であること。
- 7 - 30 - 14 仮押えした空き枠を照射オーダ、撮影オーダとは別の色で表示することが可能であること。
- 7 - 31 治療ダイアリー
- 7 - 31 - 1 治療患者単位に医師記録、看護記録、技師メモを入力でき、情報を共有することが可能であること。
- 7 - 31 - 2 医師記録には有害事象登録が、看護記録にはキー画像登録が可能であること。
治療ダイアリーの種類により入力/参照可能なユーザを限定することができ、医師
- 7 - 31 - 3 間のみ、看護師館のみ、技師間のみでの共有事項といった使用方法が可能であること。
- 7 - 31 - 4 治療ダイアリー保存時の内容は全て履歴として保存されていること。
- 7 - 31 - 5 治療ダイアリー機能は共通機能として各画面にて表示可能であること。
- 7 - 32 治療キー画像ファイル自動取込
- 7 - 32 - 1 治療関係のキー画像をクリップボード監視により取得が可能であること。
- 7 - 32 - 2 治療関係のキー画像をフォルダポーリングにより取得が可能であること。
- 7 - 33 治療 Web 表示
- 7 - 33 - 1 治療情報の詳細を院内の他部門に公開するための専用の画面を有すること。
- 7 - 33 - 2 WEB ブラウザは Microsoft Windows Internet Explorer 11 あるいは Microsoft Edge (Chromium ベース) にて動作すること。
- 7 - 33 - 3 URL 連携にて電子カルテ/オーダーリングシステムから呼び出しが可能であること。
- 7 - 33 - 4 治療管理情報、治療画像情報、治療スケジュール、治療報告書の参照が可能であること。
- 7 - 33 - 5 治療情報の最新の進捗状況の参照が可能であること。
- 7 - 34 帳票出力
- 7 - 34 - 1 該当患者での腔内照射録の出力が可能であること。
- 7 - 34 - 2 治療日次・週次スケジュール票の出力が可能であること。
- 7 - 34 - 3 放射線治療照射録の出力が可能であること。
- 7 - 34 - 4 放射線発生装置使用記録簿（体外用・方向利用率）が日単位、週単位、月単位、四半期単位に出力が可能であること。
- 7 - 34 - 5 放射線発生装置使用記録簿（腔内用）が日単位、週単位、月単位、四半期単位に出力が可能であること。
放射線治療報告書の出力が可能であること。種類は以下の種類が可能であること。
- 7 - 34 - 6
 - ・放射線治療開始説明書 ・放射線治療変更説明書
 - ・放射線治療終了説明書 ・放射線治療予後説明書
- 7 - 34 - 7 JASRTO 構造調査の出力が可能であること。
- 7 - 34 - 8 放射線治療症例全国登録の出力が可能であること。
- 7 - 34 - 9 がん診療拠点病院集計の出力が可能であること。
- 7 - 34 - 10 日本医学放射線学会認定 研修施設申請書の出力が可能であること。

7	-	35		QA/QC 管理
7	-	35	- 1	各治療装置の QA/QC 情報を管理するための専用の画面を有すること。
7	-	35	- 2	各治療装置ごとに QA/QC の前回実施日と次回予定日が表示可能であること。
7	-	35	- 3	各治療装置ごとに QA/QC の予定日の登録を繰り返し登録が可能であること。
7	-	35	- 4	各治療装置ごとに QA/QC の実施結果を表示可能であること。
7	-	35	- 5	各治療装置ごとに QA/QC 項目を日単位、週単位、月単位、年単位に区分が可能であること。
7	-	35	- 6	各治療装置ごとに QA/QC 項目実施時にキー画像、ファイルの登録が可能であること。
7	-	35	- 7	放射線治療管理システムシステムログイン時に、QA/QC 予定の通知が可能であること。
7	-	36		データ抽出
7	-	36	- 1	システムで扱うデータを自由に組み合わせてデータの集計が行える専用の分析画面を有すること。
7	-	36	- 2	出力する項目はユーザにて画面上で指定可能であること。
7	-	36	- 3	条件は、「と同じ」「を含む/含まない」「で始まる/終わる」「より大きい/より小さい」などの検索が可能であること。
7	-	36	- 4	検索項目、出力結果項目は治療情報管理の各情報が設定可能であること。
7	-	36	- 5	対象の期間 (From と To) やその他の条件、分析項目 (ディメンジョン)、分析値 (メジャー) の組み合わせが自由に行えること。
7	-	36	- 6	出力する項目や検索条件は保存して再利用することが可能であること。
7	-	36	- 7	項目を分析用に分類分けすることができ、各統計にて分析用分類毎の集計値が出力できること。分類は複数パターン使用可能であること。
7	-	36	- 8	未加工のデータ取り出しも可能であること。
7	-	37		マスタ別メンテナンス機能
7	-	37	- 1	メンテナンスを行うマスタ毎に、メンテナンスに適したメンテナンス画面が用意されていること。
7	-	37	- 2	診療日のマスタのメンテナンス画面はカレンダー形式で表示され、カレンダー上から日付を選択することにより設定できること。
7	-	37	- 3	マスタのインポート、エクスポートができること。ファイル形式は Excel 形式、CSV 形式に対応していること。
7	-	37	- 4	マスタ選択画面に検索ボックスを用意し、フリーワードを入力すると一致した文字列がハイライト表示されること。
7	-	38		目的別マスタメンテナンス機能
7	-	38	- 1	マスタ変更の目的からマスタのメンテナンスを行えること。
7	-	38	- 2	マスタ変更の目的を選択により変更内容の変更手順が表示され、表示された手順に従ってマスタの変更を行うことにより、正しい順序で修正漏れの無いマスタメンテナンスを行うことができること。
7	-	38	- 3	変更手順の説明文のリンクから、メンテ対象のマスタのメンテナンス画面を起動できること。
7	-	39		マスタ連携機能
7	-	39	- 1	放射線情報システム、放射線レポートシステム、放射線治療管理システムが同じ

社の同じバージョンの製品であれば、3 システムのマスタを共通管理できること。

- 7 - 40 システム連携機能
- 7 - 40 - 1 電子カルテより患者情報、オーダー情報を受信できること。また、これらのシステムに対して受付情報、治療実施情報、検査実施情報を送信できること。
- 7 - 40 - 2 最新の入外情報を受信した際には、患者の最新の情報、および、未実施検査の入外情報の更新を行い、検査時に適切な情報を参照することが可能であること。
- 7 - 40 - 3 オーダー情報を放射線治療管理システム側で発生させる運用の場合、放射線治療管理システムで登録したオーダー情報及びを電子カルテに送信することが可能であること。
- 7 - 41 障害検知
- 7 - 41 - 1 他システムとの連携 IF の死活監視を行い、障害発生時にはイベントログへ障害内容のメッセージが出力されること。
- 7 - 42 治療装置接続
- 7 - 42 - 1 治療計画システムとの接続により、治療計画情報（DICOM RT Plan）、治療画像を取り込めること。
- 7 - 42 - 2 Elekta 社の MOSAIQ に患者情報、照射開始通知を送信できること。
- 7 - 43 モダリティ接続
- 7 - 43 - 1 DICOM MWM による撮影装置との接続が可能であること。
- 7 - 43 - 2 モダリティ接続時に、モダリティへの情報送信時の確認ミスを防ぐためのモダリティ接続時チェックを行えること。
- 7 - 43 - 3 モダリティ接続時チェックの条件は専用の設定画面にてユーザ自身で設定できること。チェックの条件は警告レベルの指定が可能で、最も高い警告レベルのチェック条件に該当した場合にはモダリティへの情報送信ができないようにできること。
- 8 3D ワークステーション
- 8 - 1 サーバーハードウェア
- 8 - 1 - 1 CPU はインテル社製 Intel Xeon dual 相当以上を有すること。
- 8 - 1 - 2 メモリ容量は 128GB 以上を実装すること。
- 8 - 1 - 3 OS は Windows Server 2022 Standard Edition 64bit 相当以上であること。
- 8 - 1 - 4 画像保存容量として 4TB 以上を有すること。
- 8 - 2 クライアントハードウェア
- 8 - 2 - 1 CPU はインテル社製 intel Corei5 13500 相当以上を有すること。
- 8 - 2 - 2 本体メモリ容量は 8GB 以上であること。
- 8 - 2 - 3 ライセンスの追加なしにすべてのクライアントで 3D 処理及び解析作業が行えること。
- 8 - 2 - 4 各クライアントの患者リストでは画像サーバーのデータも表示され確認可能であること。
- 8 - 2 - 5 画像サーバーのクライアントでも 3D 処理及び解析処理が可能であること。
- 8 - 2 - 6 画像サーバーのクライアントでは患者選択をする必要なくワークステーションを起動可能であること。
- 8 - 2 - 7 画像サーバーのクライアントでも 3D ワークステーション内のデータを使用して 3D 画像作成が可能であること。

8	-	2	-	8	専用クライアントは1台有すること。
8	-	3			3D 画像処理において次の条件を満たすこと。
8	-	3	-	1	外部の DICOM 機器からの画像入力、出力、他の DICOM 機器内の画像データの検索、取得が可能であること。
8	-	3	-	2	study、series レベルでの一覧表示が可能であり、患者氏名、患者 ID、モダリティ、検査部位での検索機能を有すること。
8	-	3	-	3	表示した 2D, 3D 画像を JPEG、Bitmap、PNG、DICOM、AVI、MPEG、MP4、WMV の形式で保存が可能であること。
8	-	3	-	4	操作とリンクしたオンラインヘルプ機能を有し、文書内及びページ内検索両方が可能であること。
8	-	3	-	5	VR、SSD、MIP、MINIP、レイサム、SMIP、仮想内視鏡表示、CPR 表示が可能であること。
8	-	3	-	6	表示されている 3DVR や MPR カラーに対しカテゴリ内のすべてのテンプレートをプレビュー表示し一覧で表示可能な機能を有すること。
8	-	3	-	7	断面、視線、球体等での表示範囲クリップ機能を有し、その表示範囲の抽出・削除が可能であること。
8	-	3	-	8	骨除去、肝臓抽出、骨抽出、骨頭分離がワンクリックで可能な機能を有すること。
8	-	3	-	9	MPR 作成時、同時に 8 シリーズ以上読み込み、全て同じ位置、方向で MPR を作成することが可能であること。
8	-	3	-	10	読み込んだ画像の信号値に合わせたオパシティカーブを自動で設定する機能を有すること。
8	-	3	-	11	3D 画像の処理を現在作業中のものを終了することなく、並列で 5 個以上可能であること。
8	-	3	-	12	マスクの同時表示は 10 個以上可能であること。
8	-	3	-	13	アプリケーションにおいて、院内医用画像システムと連動し、同時アクセス 10 ライセンスを有すること。
8	-	4			腹部の脂肪量を計測をするソフトを有し、以下の機能を備えていること。
8	-	4	-	1	画像読み込みと同時に皮下脂肪、内臓脂肪の分離を自動でおこなう機能を有すること。
8	-	4	-	2	複数枚同時に（ボリュームデータを）読み込んだ場合は、臍部のスライスを自動で認識し分離をおこなう機能を有すること。
8	-	4	-	3	身長、体重を入力することで、BMI を算出し、その結果を元にしたレポートを出力する機能を有すること。
8	-	4	-	4	レポートには診断結果が自動で表示され、過去の結果があれば比較して出力が可能であること。
8	-	5			心臓 CT における血管評価解析ソフトを有し、以下の機能を備えていること。
8	-	5	-	1	自動または手動による心臓抽出、冠動脈抽出が可能であること。
8	-	5	-	2	各冠動脈の輪郭は抽出後、外径と同時に石灰化をはずした内径を自動表示する機能を有すること。
8	-	5	-	3	冠動脈を VR 画像、SMIP、アンギオでの表示、大動脈の表示非表示をワンクリックで変更可能であること。
8	-	5	-	4	同一患者 ID の XA 画像の表示、3D 表示向きの連動が可能であること。

8	-	5	-	5	抽出した冠動脈枝の支配領域を計算する機能を有し、それをブルズアイ表示が可能であること。
8	-	5	-	6	冠動脈解析ソフトを起動する際に、多フェーズの画像を選択した場合はいつでもフェーズを変更して解析が可能であること。
8	-	5	-	7	作成した冠動脈の3D画像を利用したままその表面にSPECTの画像をマッピングすることがどのメーカーでも可能であること。但し、アプリケーションを開きなおす必要がないこと。
8	-	5	-	8	SPECT画像を用いた際は stress、rest 間の各種計算した結果のマッピング、ブルズアイ表示が可能であること。
8	-	5	-	9	作成した冠動脈の3D画像を利用したままの表面にCTの心機能解析のブルズアイ画像をマッピングすることがどのメーカーでも可能であること。
8	-	6			CT心臓シネ画像を用いて心機能进行评估するソフトを有し、以下の機能を備えていること。
8	-	6	-	1	自動または手動による心臓抽出機能を有すること。
8	-	6	-	2	心室、心房、大動脈弁を観察する断面を自動で設定することが可能であること。
8	-	6	-	3	心臓中心軸をスライス毎に設定可能であること。
8	-	6	-	4	左心室と同時に右心室も解析可能であること。但し、アプリケーションを開きなおす必要がないこと。
8	-	6	-	5	短軸、長軸両方向から輪郭の修正が可能であること。
8	-	6	-	6	心室輪郭の表面に各ブルズアイをマッピングして3Dのサーフェス表示が可能であること。
8	-	6	-	7	心機能の評価に用いた画像を用いて、引き続き冠動脈の評価を行うソフトが起動可能であること。
8	-	7			石灰化スコアを算出するソフトを有し、以下の機能を備えていること。
8	-	7	-	1	自動または手動による心臓抽出機能を有すること。
8	-	7	-	2	血管ごとのプラーク数、体積(面積)、Agatstonスコア、平均CT値、最大CT値の算出が可能であること。
8	-	7	-	3	3Dで石灰化の指定が可能であること。
8	-	7	-	4	スコアリングの結果をcsvファイルに出力可能であること。
8	-	8			心臓MRにおける血管評価解析ソフトを有し、以下の機能を備えていること。
8	-	8	-	1	自動または手動による心臓抽出、冠動脈抽出が可能であること。
8	-	8	-	2	冠動脈の中心線、輪郭の編集が可能であること。
8	-	8	-	3	冠動脈をVR画像、SMIP、アンギオでの表示、大動脈の表示非表示をワンクリックで変更可能であること。
8	-	8	-	4	同一患者IDのXA画像の表示、3D表示向きの連動が可能であること。
8	-	8	-	5	左冠動脈、右冠動脈のどちらかのすべての分岐のストレッチCPRを合成表示する機能を有すること。
8	-	9			MR心臓シネ画像を使用して心機能进行评估するソフトを有し、以下の機能を備えていること。
8	-	9	-	1	短軸画像の場合、解析するスライス範囲を設定可能であること。
8	-	9	-	2	心臓中心軸をスライス毎に設定可能であること。
8	-	9	-	3	左心室と同時に右心室も解析可能であること。但し、アプリケーションを開きなおす必要がないこと。

おす必要がないこと。

- 8 - 9 - 4 短軸、長軸両方向から輪郭の修正が可能であること。
- 8 - 9 - 5 解析結果画面全体の動画出力が可能であること。
- 8 - 9 - 6 心室輪郭の表面に各ブルズアイをマッピングして 3D のサーフェス表示が可能であること。
- 8 - 10 MR 心臓遅延造影解析ソフトを有し、以下の機能を備えていること。
- 8 - 10 - 1 短軸方向または 3D で撮像された画像での解析が可能であること。
- 8 - 10 - 2 正常領域に対する SD の倍数で梗塞領域の指定が可能であること。
- 8 - 10 - 3 心筋のラインは 2 スライス間を補間して作成する機能を有すること。
- 8 - 10 - 4 心筋の内、外における梗塞占有率のブルズアイ表示が可能であること。
- 8 - 10 - 5 梗塞領域を 3D 表示する機能を有すること。
- 8 - 10 - 6 同一患者の冠動脈 3D 画像に遅延造影解析のブルズアイをマッピング表示が可能であること。
- 8 - 11 MR 心筋パフュージョン解析ソフトを有し、以下の機能を備えていること。
- 8 - 11 - 1 呼吸ずれを自動で補正する機能を有すること。
- 8 - 11 - 2 解析結果として、最大勾配、LV 相対最大勾配、ピークまでの時間、LV 相対累計増強を安静、負荷時比率が数値として算出可能であり、且つブルズアイ表示機能を有すること。
- 8 - 11 - 3 計算結果、タイムインテンシティカーブをテキストファイルに保存可能であること。
- 8 - 12 マルチエコーで撮像した画像から各値を計算後、カラーマップ表示するソフトを有し、以下の機能を備えていること。
- 8 - 12 - 1 各画像から Tx map を計算後カラーマップ表示することが可能であること。
- 8 - 12 - 2 計算後の画像は ROI をとることで各値を計測可能であること。
- 8 - 12 - 3 ROI 部分の信号値変化のグラフを表示することが可能であること。
- 8 - 13 肺結節、気管支測定、肺気腫、クラスターの評価を行うソフトを有し、以下の機能を備えていること。
- 8 - 13 - 1 肺野、肺葉領域を読み込みと同時に抽出が可能であること。
- 8 - 13 - 2 結節の位置、径または輪郭を指定して、半自動で抽出が可能であること。
- 8 - 13 - 3 結節ごとの体積、最大 CT 値、平均 CT 値、標準偏差の各値、ヒストグラムの表示が可能であること。
- 8 - 13 - 4 画像の信号値幅を任意で指定し、色分けして 2D 断面の肺野領域上にオーバーレイ表示が可能であること。
- 8 - 13 - 5 気管支が占有する肺野領域を自動抽出する機能を有すること。
- 8 - 13 - 6 2D または 3D でのクラスター解析機能を有すること。
- 8 - 14 肺のボリューム計測を行うソフトを有し、以下の機能を備えていること。
- 8 - 14 - 1 造影 CT 画像を用いて肺動静脈を自動で分離・抽出する機能を有すること。
- 8 - 14 - 2 腫瘍の位置、径または輪郭を指定して、半自動で抽出が可能であること。
- 8 - 14 - 3 肺動静脈及び気管支に対して指定した肺野領域を自動で抽出する機能を有すること。
- 8 - 14 - 4 3D 画像に領域断面の MPR を貼り付けて表示する機能を有すること。
- 8 - 14 - 5 作成した 3D 画像のマスクを 3D ビューアに移動して引き続き使用可能であること。

8	-	15		気管支内視鏡のシミュレーションを行うソフトを有し、以下の機能を備えていること。
8	-	15	-	1 画像読み込みと同時に肺野、気管支を抽出する機能を有すること。
8	-	15	-	2 肺結節への最適経路を自動抽出する機能を有すること。
8	-	15	-	3 気管支壁から結節までの距離に応じて気管支壁に色付けをおこなう機能を有すること。
8	-	15	-	4 最適な経路に対する仮想内視鏡動画の保存が可能であること。
8	-	15	-	5 気管支壁をサーフェス表示に変更可能であること。
8	-	16		肝臓のボリューム計測をするソフトを有し、以下の機能を備えていること。
8	-	16	-	1 1シリーズのみで肝臓を自動で抽出する機能を有すること。
8	-	16	-	2 動脈、門脈、静脈はワンクリックで抽出が可能であること。
8	-	16	-	3 領域の指定は15以上可能であること。
8	-	16	-	4 血管に対して抽出した領域の色を表示する機能を有すること。
8	-	17		腹部造影MR画像の観察、解析をするソフトを有し、以下の機能を備えていること。
8	-	17	-	1 各フェーズ間を自動または手動で位置合わせする機能を有すること。
8	-	17	-	2 指定したVOIのヒストグラムの表示が可能であること。
8	-	17	-	3 指定した領域をもとに自動で肝臓抽出する機能を有すること。
8	-	17	-	4 任意の計算式による計算結果表示が、2D及び3Dで可能であること。
8	-	18		CT画像から大腸を抽出し、観察するソフトを有し、以下の機能を備えていること。
8	-	18	-	1 大腸を自動で抽出する機能を有すること。
8	-	18	-	2 抽出された大腸内を通る経路を自動で作成可能であること。
8	-	18	-	3 仮想内視鏡表示、展開ビュー、ストレートビュー、キューブビュー各表示が可能であること。
8	-	18	-	4 内視鏡と各展開表示に対して、壁から厚みをつけたデプスMIP表示が可能であること。
8	-	18	-	5 ルーペ観察（観察位置を中心として任意の方向から観察する機能）が可能であること。
8	-	19		腎臓部分切除術シミュレーションをおこなうソフトを有し、以下の機能を備えていること。
8	-	19	-	1 自動で腎皮質、髄質の分離が可能であること。
8	-	19	-	2 複数フェーズを読み込んだ場合位置あわせをおこなうことが可能であること。
8	-	19	-	3 動脈、静脈、腫瘍、大腰筋を自動で抽出可能であること。
8	-	19	-	4 指定した動脈の支配領域の抽出が自動で可能であること。
8	-	19	-	5 3D画像に抽出した領域の断面のMPRを貼り付けて表示が可能であること。
8	-	20		嚢胞腎の体積評価をおこなうソフトを有し、以下の機能を備えていること。
8	-	20	-	1 画像読み込みと同時に腎臓全体を自動抽出することが可能であること。
8	-	20	-	2 左右別々に体積表示することが可能であること。
8	-	20	-	3 過去データがある場合、比較観察が可能であり、増大率を自動で計算し表示が可能であること。
8	-	20	-	4 比較観察時は体積変化率を表示するグラフ表示が可能であること。
8	-	21		腹腔鏡手術シミュレーションをおこなうソフトを有し、以下の機能を備えていること。

- 8 - 21 - 1 動脈、静脈、脾臓、脾臓、を自動または半自動抽出可能であること。
- 8 - 21 - 2 内視鏡補助手術のポート位置のプランニングが可能であること。
- 8 - 21 - 3 切除する断面積、ポートの位置からの距離を表示可能であること。
- 8 - 22 IVR の術前プランニングをおこなえるソフトを有し、以下の機能を備えていること。
- 8 - 22 - 1 アプリケーション起動と同時にレイサム 3D 画像表示が可能であること。
- 8 - 22 - 2 長径を指定することで自動で目標領域を抽出が可能であること。
- 8 - 22 - 3 経路を自動で作成することが可能であること。
- 8 - 23 STL ファイル出力に対応しており、以下の機能を備えていること。
- 8 - 23 - 1 設定した閾値の領域をサーフェス表示可能であること。
- 8 - 23 - 2 1 のデータを STL ファイルに出力可能であること。
- 9 被爆線量管理システム
- 9 - 1 検査情報の収集と管理
- 9 - 1 - 1 既存の放射線情報システム (RIS) と接続し、検査オーダー情報データを自動取得すること。
- 9 - 1 - 2 既存の放射線情報システム (RIS) と接続し、検査実績データを自動取得すること。
- 9 - 2 被ばく線量管理情報の収集と管理
- 9 - 2 DICOM 規格の SOP-UID (1. 2. 840. 10008. 5. 1. 4. 1. 1. 88. 67) X-Ray Radiation Dose SR
- 9 - 2 - 1 に対応し、Dose-SR の Query/Retrieve にて既存の PACS から被ばく線量情報を自動収集できる機能を有すること。
- 9 - 2 - 2 検査ごと、部位ごとに線量を実施情報として記録する機能を有すること。
- 9 - 2 - 3 RIS が受信している MPPS に関するデータ収集機能を有すること。
- 9 - 2 - 4 CT 装置については、CTDIvol ならびに DLP の情報を自動収集できる機能を有すること。
- 9 - 2 - 5 アンギオ装置においては、収集した線量情報に装置ごとの変換係数を設定することで、皮膚吸収線量を算出しデータを蓄積できる機能を有すること。
- 9 - 2 - 6 マンモグラフィ装置については、平均乳腺線量の情報を自動収集している機能を有すること。
- 9 - 2 - 7 装置ごとの係数セット（プロトコル）が複数定義でき、線量換算を行える機能を有すること。
- 9 - 2 - 8 一般撮影装置については、放射線情報システムから取得した曝射条件や線量情報を自動取得、変換係数を設定することで NDD 法に基づき入射表面線量情報に換算したデータを換算し蓄積できる機能を有すること。
- 9 - 2 - 9 RI 薬剤の入力および実投与量を計算する機能を有すること。
- 9 - 2 - 10 RI 薬剤から臓器線量を算出する機能を有すること。
- 9 - 3 被ばく線量管理情報の表示
- 9 - 3 - 1 検索機能として、患者指定を前提として、期間指定、検査指定による線量情報を表示できる機能を有すること。
- 9 - 3 - 2 ガイダンスレベルまたは施設が設定した閾値を超えた場合、検査リストにアラートを表示できる機能を有すること。
- 9 - 3 - 3 医療機器毎の被ばく線量情報の表示が可能な機能を有すること。
- 9 - 3 - 4 アンギオ装置において収集した線量情報を元にベッドに対する照射エリアのトラ

ッキング表示機能を有すること。

- 9 - 4 被ばく線量管理レポート作成機能
- 9 - 4 - 1 検査種別ごとに、被ばく線量管理レポートを作成し、画面上で表示できる機能を有すること。
- 9 - 4 - 2 被ばく線量管理レポートを、Web で参照する機能を有すること。
- 9 - 4 - 3 Web での参照は、時系列に該当検査だけではなく、他検査の情報も合わせて表示する機能を有すること。
- 9 - 4 - 4 レポート用 XA テンプレートに照射トラッキングの情報を表示すること。
- 9 - 4 - 5 レポート用 XA テンプレートに PSD (Peak Skin Dose) の情報を表示すること。
- 9 - 4 - 6 レポート用 XA テンプレートにガイドラインに基づきレベル表示可能なこと。
- 9 - 4 - 7 レポート用 CT テンプレートより成人、小児別に DRL と比較表示可能なこと。
- 9 - 5 マスタ設定
- 9 - 5 - 1 マスタ設定において、BSF (後方散乱係数) の係数設定が出来ること。
- 9 - 5 - 2 BSF の係数は管電圧/フィルター厚毎に設定出来ること。
- 9 - 5 - 3 BSF の係数は照射野毎に設定できること。
- 9 - 5 - 4 BSF の係数は機器毎に設定出来ること。
- 9 - 5 - 5 マスタ設定において、t-Factor (テーブル係数) の係数設定が出来ること。
- 9 - 5 - 6 t-Factor の係数は管電圧/フィルター厚毎に設定出来ること。
- 9 - 5 - 7 t-Factor の係数は機器毎に設定出来ること。
- 9 - 5 - 8 マスタ設定において、f-Factor (エネルギー吸収係数) の係数設定が出来ること。
- 9 - 5 - 9 f-Factor の係数は管電圧/フィルター厚毎に設定出来ること。
- 9 - 5 - 10 f-Factor の係数は機器毎に設定出来ること。
- 9 - 5 - 11 マスタ設定において、CfDAP (面積線量定数) の係数設定が出来ること。
- 9 - 5 - 12 CfDAP の係数は管電圧/フィルター厚毎に設定出来ること。
- 9 - 5 - 13 CfDAP の係数は機器毎に設定出来ること。
- 9 - 6 照射トラッキング
- 9 - 6 - 1 距離情報、テーブル情報、角度情報を元に照射エリアのトラッキングを行える機能を有すること。
- 9 - 6 - 2 トラッキング表示は、今回、前回の 2 検査分を表示できること。
- 9 - 6 - 3 トラッキング表示は、PSD (Peak Skin Dose) の値が表示出来ること。
- 9 - 6 - 4 トラッキング表示は、身長/体重の情報を元に人型モデルで表示出来ること。
- 9 - 7 データ集計・出力機能
- 9 - 7 - 1 RIS から取得した情報を、縦軸、横軸に設定出来ること。
- 9 - 7 - 2 箱ひげ図、散布図を作成可能なこと
- 9 - 7 - 3 プリセットを設定する機能を有すること。
- 9 - 7 - 4 外れ値の除外およびリストでの表示、コメント・報告コード登録、CSV 出力が可能なこと。
- 9 - 7 - 5 DRLs2020 の項目に絞り込んだグラフの作成が可能なこと。
- 9 - 7 - 6 グラフに使用するデータの上限值と下限値を設定可能なこと。
- 9 - 7 - 7 DRLs2020 および施設 DRL をグラフ上に表示する機能を有すること。
- 9 - 7 - 8 BMI を横軸とした統計解析が可能なこと。

9	-	7	-	9	患者の被ばく線量と検査内容を併記した形式で CSV ファイル出力を行う機能を有すること。
9	-	7	-	10	指定する項目別（モダリティ、撮影室、部位、方法等）で絞り込んだデータのみ出力する機能を有すること。
9	-	7	-	11	JJ1017 コード変換に対応した CSV 出力機能を有すること。
9	-	7	-	12	匿名化した DICOM RDSR を出力する機能を有すること。
9	-	8			その他
9	-	8	-	1	電子カルテシステムと連携し、職員情報、患者情報、オーダー番号を連携取得する機能を有すること。
9	-	8	-	2	データベースのバックアップを自動的に取得できる機能を有すること。
9	-	8	-	3	ログイン ID や職制による、マスタ設定や被ばく線量管理情報や統計情報へのアクセス権限設定機能を有すること。
10					Temporary DICOM Server
10	-	1			メディア取り込み機能は以下の要件を満たすこと。
10	-	1	-	1	DICOM Storage Service Class の SCP 機能を有し、DICOM 画像発生装置から出力される画像を保存・管理する機能を有すること。
10	-	1	-	2	DICOM ファイルについては、DICOMDIR をもとに読み込みが行えること。
10	-	2			読み込みデータの変更機能は以下の要件を満たすこと。
10	-	2	-	1	以下の検査情報を手入力で変更できること。 ・患者 ID ・患者名 ・性別 ・生年月日 ・モダリティ ・施設名
10	-	2	-	2	以下の検査情報を MWM で取得した値で変更できること。 ・患者 ID ・患者名 ・性別 ・生年月日 ・Accession Number
10	-	2	-	3	以下の検査情報に、自動で任意の文字を付加できること。 ・Study Description
10	-	2	-	4	汎用ファイルに対して以下の情報を手入力で変更できること。 ・タイトル名
10	-	3			画像送信機能は以下の要件を満たすこと。
10	-	3	-	1	送信対象の DICOM 画像を選択できること。
10	-	3	-	2	DICOM 画像の送信先を送信時に切り替えできること。
10	-	3	-	3	送信状況を表示できること。
10	-	4			一時ファイルの保管機能は以下の要件を満たすこと。
10	-	4	-	1	データをユーザーが指定した期間保持し、その後データを自動的に削除する機能を有すること。
10	-	4	-	2	削除対象から外すことができるフラグ機能を有すること。
10	-	5			画像転送機能
10	-	5	-	1	DICOM Storage SCU 機能を有し、サーバーから画像を他サーバーに対して画像を送信することができること。
10	-	5	-	2	DICOM Storage SCU 機能を有し、クライアントから要求があった際にサーバーから画像を他サーバーに対して画像を送信することができること。
10	-	5	-	3	DICOM Q/R SCP 機能を有し、クライアントからの画像取得要求に対応できること。
11					パブリッシャーシステム
11	-	1			PDI メディア機能（ソフトウェア）は以下の要件を満たすこと。

- 11 - 1 - 1 上流システムと連携し、患者属性情報を取得する機能を有すること。
- 11 - 1 - 2 複数サーバーへの検索が行えること。
- 11 - 1 - 3 医用画像システムサーバに対して行ったデータ検索結果を表示できること。
- 11 - 1 - 4 検索条件に一致した検査について、その検査の一定期間前の検査を自動的に検索できること。
- 11 - 1 - 5 検索結果から検査の画像のサムネイルを表示できること。
- 11 - 1 - 6 出力予定のファイルサイズ(概算)を表示できること。
- 11 - 1 - 7 医用画像システムサーバーに格納された DICOM 画像を取得できること。
- 11 - 1 - 8 医用画像システムサーバーから取得した DICOM 画像をメディアへ出力できること。
- 11 - 1 - 9 医用画像システムサーバーから取得した DICOM 画像をフォルダへ出力できること。
- 11 - 1 - 10 出力したメディアは IHE の PDI (Portable Data for Imaging) 統合プロファイルに準拠すること。
- 11 - 1 - 11 出力したメディア内に DICOM ビューワを同梱していること。
- 11 - 1 - 12 搬送先の PC 上で特別なビューワを必要とせず直接閲覧が行えること。
- 11 - 2 データ入力機能は以下の要件を満たすこと。
- 11 - 2 - 1 外部から持ち込まれたメディア内の DICOM 画像を読み込めること。
- 11 - 2 - 2 外部から持ち込まれたメディア内の DICOM 画像を読み込んだ結果を表示できること。
- 11 - 2 - 3 外部から持ち込まれたメディア内の DICOM 画像の患者情報を変更できること。
- 11 - 2 - 4 外部から持ち込まれたメディア内の DICOM 画像を SYNAPSE に格納できること。
- 11 - 2 - 5 JPEG ファイルや BMP ファイルを読み込み、DICOM 画像へ変換し SYNAPSE および DICOM サーバーに格納できること。
- 11 - 3 ラベル生成機能は以下の要件を満たすこと。
- 11 - 3 - 1 医用画像管理システムから DICOM Q/R で取得した情報を基に、ラベルを作成できること。
- 12 検診読影所見入力システム
- 12 - 1 ユーザー認証機能は以下の要件を満たすこと。
- 12 - 1 - 1 登録されているユーザーのみ本ソフトウェアを使用できること。
- 12 - 1 - 2 アプリケーション認証、または、Windows OS ユーザー認証が可能であること。
- 12 - 1 - 3 同一ユーザーが複数の端末から同時にログインできないこと。
- 12 - 1 - 4 ユーザー管理は管理者にて実施できること。
- 12 - 2 検査リスト機能は以下の要件を満たすこと。
- 12 - 2 - 1 検診コースを選択することで、読影すべき検査リストを表示できること。
- 12 - 2 - 2 1 検査に対して最大 5 人まで結果入力が可能であること (読影欄)。
- 12 - 2 - 3 読影欄の数は検診コース毎に変更できること。
- 12 - 2 - 4 検診コース毎に未読影数及び現在使用中の読影医名が表示できること。
- 12 - 2 - 5 検診コースに表示される未読影数及び読影医名は定期的に最新情報に更新できること。
- 12 - 2 - 6 検索キーにより、リストを絞って表示できること。
- 12 - 2 - 7 検査リストに検査情報及び読影欄毎の結果情報が表示できること。

- 12 - 2 - 8 ユーザー毎に検索条件を記憶し、検索条件通りにリスト表示できること。
- 12 - 2 - 9 リストを選択すると該当検査結果が表示できること。
- 12 - 2 - 10 オープン読影の場合は、検査リスト及び検査参照画面にて全ての読影欄の結果が表示されること。
- 12 - 2 - 11 ブラインド読影の場合は、検査リスト及び検査参照画面にて現在選択中の読影欄の結果のみが表示されること。
- 12 - 2 - 12 オープン読影、ブラインド読影は検診コース毎に設定できること。
- 12 - 2 - 13 検診コースツリーで折り畳みや展開表示ができること。
- 12 - 2 - 14 検診コースツリーから検診コースを検索できること。
- 12 - 2 - 15 検査リストの検査情報の表示列は固定列とし、結果情報の表示列はスクロールバーにより横スクロールが可能であること。
- 12 - 2 - 16 検査リストを手動で最新情報に更新できること。
- 12 - 3 画像表示機能は以下の要件を満たすこと。
- 12 - 3 - 1 検査リストに選択している検査画像を表示できること。
- 12 - 3 - 2 検査リストの一番上にある未読影検査画像を表示できること。
画像表示時はステータスが「未読影」→「読影中」に変更されること。また、リ
- 12 - 3 - 3 スト下の「未読影」検査 4 件分のステータスを「予約」とし、他ユーザーによる結果入力ができないこと。
- 12 - 3 - 4 画像表示している検査の情報が画像表示画面ヘッダ部に表示できること。
- 12 - 3 - 5 画像表示している検査のリスト一つ下の検査画像を表示できること。
- 12 - 3 - 6 画像表示している検査のリスト一つ上の検査画像を表示できること。
- 12 - 3 - 7 画像表示している検査の次のステータスが「予約」または「保留」となっている検査画像を表示できること。
- 12 - 3 - 8 画像表示している検査の前のステータスが自分の「読影済」または「保留」となっている検査画像を表示できること。
- 12 - 3 - 9 ショートカットキーにより 1 キーで画像表示が可能であること。
- 12 - 3 - 10 ボタン 1 クリックにより画像表示が可能であること。
- 12 - 4 結果入力機能は以下の要件を満たすこと。
- 12 - 4 - 1 結果は「異常なし」「所見あり」「保留」の何れかから選択し入力できること。
- 12 - 4 - 2 「異常なし」「保留」はショートカットキーによる 1 キー、もしくはボタン 1 クリックにより結果入力できること。
- 12 - 4 - 3 「所見あり」は詳細な所見内容を入力できること。
- 12 - 4 - 4 「所見あり」は検査種に応じて、以下から該当する結果入力画面が表示されること。胸部 X 線、胃部 X 線、マンモ、胸部 CT、脳 MR、腹部エコー
- 12 - 4 - 5 結果入力画面ではシェーマ、定型マスタ及びフリーコメント等から入力できること。
- 12 - 4 - 6 マスタは設定にて変更できること。
- 12 - 4 - 7 結果入力画面で画像貼り付けができること。
- 12 - 4 - 8 貼り付け画像の拡大表示ができること。
- 12 - 4 - 9 貼り付け画像の削除ができること。
- 12 - 4 - 10 結果入力画面で他読影欄の結果を上書きコピーができること。
- 12 - 4 - 11 結果入力画面で過去結果をコピーができること。

- 12 - 4 - 12 胸部 X 線、胃部 X 線、腹部超音波は人間ドックガイドラインに沿って結果入力できること。
- 12 - 4 - 13 マンモは精中医のガイドラインに沿って結果入力できること。
- 12 - 5 結果出力機能は以下の要件を満たすこと。
- 12 - 5 - 1 入力結果を CSV 出力できること。
- 12 - 5 - 2 入力結果を帳票印刷できること。
- 12 - 5 - 3 入力結果を単票印刷できること。
- 12 - 5 - 4 結果は「コードのみ」、「名称のみ」、「コード+名称」の何れかで出力できること。
- 13 その他
- 13 - 1 現行システムで有用な機能が新システムでできないことが発覚した場合、担当者と打ち合わせの上、その機能を追加するか、代用となる運用方法を提示すること。
- 13 - 2 動作に支障がない範囲で、サーバーを含む全ての端末に当院医療情報管理課と打ち合わせのうえアンチウィルスソフトをインストールすること。

(性能、機能以外に関する要件)

- 14 その他に関し、以下の要件を満たすこと。
- 14 - 1 設置条件に関し、以下の基本的要件を満たすこと。
- 14 - 1 - 1 納品される機器について、当院既存の装置設置場所に設置できること。
- 14 - 1 - 2 当院が用意する電源は既存の装置用電源であるので、この電源容量にて使用できるシステムであること。また、既存電源状況確認の上、協議の結果を踏まえてシステム稼働が可能な状況に調整すること。
- 14 - 1 - 3 装置・機器の搬入、据付け、配管、配線、調整及び既存装置・機器の搬出等は、当院職員と打ち合わせの上、行うこと。
- 14 - 1 - 4 機器の廃棄、設置等に関して、当院職員と打ち合わせの上、行うこと。
- 14 - 1 - 5 装置本体のシステム制御等、データ保管システム、バックアップドライブ等突然の停電時に障害の発生が予見しうる装置には、安定した電源供給を行うため無停電電源装置を有すること。
- 14 - 1 - 6 設置は納期、設置期間のスケジュールを事前打ち合わせの上、スケジュールに従い完了すること。
- 14 - 2 保守管理体制に関し、以下の要件を満たすこと。
- 14 - 2 - 1 障害発生時には検査に支障をきたさぬよう即応できる体制が整っていること。
- 14 - 2 - 2 年間を通じて 24 時間体制で常時現場にサービスマンを派遣できること。
(1 時間以内に訪問可能な体制を保持している場合には加点として評価する)
- 14 - 2 - 3 電話回線によるオンラインで故障情報を把握できるリモートメンテナンス機能を有し、定期的なシステム動作確認を行うこと。
- 14 - 2 - 4 全ての納入機器の無償保証は装置稼動時から次年度 3 月 31 日までとすること。[放射線科 6]
- 14 - 2 - 5 全ての納入装置について設置時における最新機器および最新バージョンを導入すること
- 14 - 2 - 6 PACS の画像数、モダリティ毎の画像割合、検査数、ハードディスク使用量等を記載した使用状況レポートを毎月定期的に提出すること

- 14 - 2 - 7 基幹サーバのハードウェア障害時には常時監視、自動検知、自動通報可能な機能を有し、その障害対策を速やかに連絡すること
- 14 - 2 - 8 納入、稼動後 7 年間安定稼動が可能であること
- 14 - 3 装置の取扱い教育訓練に関し、以下の基本的要件を満たすこと。
- 14 - 3 - 1 機器の取り扱いについて、当院職員に対し教育訓練を行うこと。
- 14 - 3 - 2 納入後 1 年間は随時対応すること。
- 14 - 3 - 3 全ての納入機器について日本語版の操作マニュアルを 2 部用意すること。CD もしくは DVD のマニュアルがある装置に関しては電子媒体で 2 部提出すること。
- 14 - 3 - 4 障害発生時の対応、連絡先を日本語版のマニュアルを 2 部（印刷物ならびに電子情報）用意すること